Case study

COMMERCIAL

DuPont™

CORIAN®

NEWS

複合的な機能を備えた什器
デザインはシンボリックに

ビームス 広島

「ウィッチヘーゼルの柄は、デュポン™コーリアン®独特のものではありますが、一見すると天然の石のような自然さがありますね。それでいて、ソリッドな表現ができる数少ない素材です」と佐藤氏。立体的なデザインの什器は、ディスプレイのバリエーションもさまざまに広げてくれそうだ。

広島本通商店街は、週末には10万人もの人手で賑わう広島のメインストリート。広島市で20年以上前から店舗を構える「ビームス 広島」が、約13年ぶりの改装工事を終え、2016年10月にリニューアルオープンした。

ビームスでは、店舗ごとに、地域の特性をデザインや設計に取り込むことを旨としている。今回のリニューアルで、デザインを手がけたサウザンドの佐藤真学氏に、お話をうかがった。

「広島という土地には、芸術やデザインに対して寛容で新しいものを受け入れる土壌があると感じました。そこで、周辺のオーセンティックな建物とは一線を画す、モダンなアプローチを試みました」。一方で、20年以上の実績があり、常連客も多いため、1階はレディス、2階がメンズという構成はそのままとしたが、新たに、真っ白な壁で立体的にコーナーを区切り、回遊性の高いレイアウトを実現した。「壁を設けてスペースを区切ることで、価格帯やコンセプトの異なるレーベルごとのスペースをつくり、それぞれの商材をより魅力的に引き立てる店舗を提案しました」。

この新しい店舗のエントランス正面に置かれているのが、デュポン™コーリアン®製の什器だ。ソファと展示用什器、植栽が融合したインテリア性の高いデザインと量感で印象的な存在となっている。

「レディス商材のディスプレイやシューズコーナーのベンチなどの機能を満たしつつ、植栽を組み合わせるなどして、店舗全体の入り口にふさわしいパブリックな雰囲気、シンボリックな存在になるよう配慮しました。形も複雑で、求められる条件が多くなりますので、デザインが決まると同時に、素材はコーリアン®にと考えていました」と佐藤氏。

カラーは、流れ模様のあるデュポン™プライベートコレクションのウィッチヘーゼルを選択。「天然石のような高級感のある風合いが気に入っています。壁面を無地で白に統一しているので、そのほかの素材は、本物または本物に見える色柄にこだわって選びました。デュポン™コーリアン®は、シームレスな接合で、ひとつの塊のように仕上げることができる加工性の高さもありますから、丸彫りした石の塊のように感じさせることができるのではと考えました」。人の往来が多い場所のため、メンテナンス性にも配慮した選択だった。さまざまな商材を展示し、手に触れることが多い場所に使える素材としての信頼性も高かったという。

「ビームスさんでは、耐用年数10年を目標に店舗づくりをしています。ですから、無垢フローリングやデュポン™コーリアン®など、耐久性だけでなく、使い込むことで味わいが深まる素材を選んでいます」と佐藤氏。トレンドを発信するだけでなく、いつの時代にも本質に目を向け、暮らし方や生き方まで提案する同社らしい店舗づくり。そうした視点からも、デュポン™コーリアン®の特性は、求められる条件を満たす素材だと語ってくださった。

使用色
ウィッチヘーゼル

●所在地　広島県広島市中区本通3-10 本通サザン1F・2F
●運　営　株式会社ビームス
●監　修　株式会社ビームスクリエイティブ
●設　計　株式会社サウザンド　佐藤真学
●施　工　大昌工芸株式会社
●デュポン™コーリアン®加工協力　有限会社アミカ美装

視線を巧みにコントロールする光のパーティション

新助 アトレ新浦安店

仕事帰りの会社員、若者、シルバー層に家族連れまで、幅広い客層が集う賑やかな店内。饗されるのは、オーナー自ら築地に足を運んで仕入れているという旬の魚や野菜を使った料理の数々。しかも価格はリーズナブル。JR新浦安駅に直結するアトレ新浦安の人気店「新助」は、1980年の開業以来、地元でずっと愛されてきた居酒屋だ。アトレ新浦安店は1993年に開店し、何度か改装を行ってきたが、2016年にJRの高架橋の耐震補強工事が行われたため、高架橋下にある同店も全面的に改装工事を行い、同年秋にリニューアルオープンした。その新店舗では、デュポン™コーリアン®が「光るパーティション」として採用された。このユニークなアイデアについて、設計を手がけた建築士の小川裕之氏と湊健雄氏にお話をうかがった。

「クライアントからのご要望は、全体をワンフロアで見通しよく、ただし、落ち着いて料理やお酒が楽しめるように、カウンターに座られたお客様とテーブル席のお客様の目線が交差しないようにしてほしいとのことでした」と小川氏。そこで、開放感とプライバシーを両立するため高さを抑えたパーティションに照明を入れて、光によって目線を遮る〝光のバリア〟を提案した。

「圧迫感がでないよう、軽さを感じさせるもので空間を仕切ろうと考えました。とはいえ、お客様が手を触れる場所になりますから、強度や耐久性の高い素材でなければなりません。デュポン™コーリアン®は、光を入れると透明感が生まれ、軽さを演出することができるうえ、強度も十分でした」。角を丸く加工できる点で安全性に優れていることも、採用した理由のひとつだったという。

「開放感のあるつくりにすることで、カウンターの一部が店舗の入口から見えるようになりました。光るパーティションがカウンターの中に立つオーナーや

連続する円のパターンは、デュポン™コーリアン®の表面を彫り込んで、模様を浮き上がらせている。「クライアントからは、明るく開放的にというご要望のほかに、見たことのないものを作ってほしいと言われていました」と湊氏。リニューアル前の純和風なデザインを一新した店内は、光の演出で非日常な雰囲気も漂わせている。

パーティションの長さは約6m。「一続きの大きなものを置くことで、空間そのものを広く感じさせる効果があります。これだけの長さをシームレスで作ることができるのもデュポン™コーリアン®だからこそですよね。これをほかの素材で作る場合は、どうしても分節されてしまうと思います」と小川氏。

板前さんを彩る装置にもなって、その仕事ぶりをエンタテインメントとして見せる演出にも一役かっています」と湊氏。店舗はガラス張りで道路に面していて、光るパーティションは道行く人からも見えるため、アイキャッチとしての役割も果たしている。

「ちょうど目に入りやすい高さなので、照明を置くのが難しい場所なのですが、デュポン™コーリアン®を通した光は柔らかくなるので、このアイデアを実現することができました。短い距離で光がグラデーションして、表情がでるところもよいですね」と小川氏。

使用されたカラーは、和紙のような雰囲気も持つグラーサホワイト。タイルや木など、素材感を大切にデザインされた和の空間にも、違和感なく馴染んでいる。「和の雰囲気もありながら、モダンな印象に仕上がったことで、新浦安という現代的な街並みにも似合う店舗になったと思います」。

開放感と居心地のよさを両立させたリニューアルで、より入りやすくなった「新助」アトレ新浦安店。ますます多くの人が集う繁盛店として、地域の人々に愛されていくことだろう。

使用色
グラーサホワイト

●所在地　千葉県浦安市入船1-1-1 アトレ新浦安1F
●運　営　有限会社エイム
●設　計　株式会社小川都市建築設計事務所　小川裕之
　　湊健雄事務所　湊健雄
●施工／照明計画　株式会社リンク
●デュポン™コーリアン®加工協力　株式会社エイベクス

大分の自社工場でつくる オーダーメイドキッチン

オーダーキッチンや洗面化粧台、収納など、暮らしの中にいきるさまざまな家具の企画・製造を手がける田中工藝。創業大正10年という歴史をもち、本社と工場を大分に構え、大阪に営業所を置く同社が、いよいよ東京にもショールームをオープンした。

「以前より、東京のお客様からご注文をいただくこともありましたが、エンドユーザー様とのお打ち合わせが増えてきたことなどから、実物を見ていただけるスペースをつくることになりました」と同社の田中智也氏。京王線初台駅から徒歩数分の場所にあるショールーム内には、キッチンや洗面化粧台などが展示されている。2台あるキッチンのうち、スタイリッシュなアイランド型キッチンのトップと側面はデュポン™プライベートコレクションのシラスホワイトだ。「デュポン™コーリアン®を使ったキッチンはやはり白系が人気です。シラスホワイトは、今回使用したうっすらと木目がわかる仕上げの面材とも相性がよいと思います」。

同社のオーダーキッチンは、オリジナルの面材をそろえ、自社工場でキャビネットから製造しているため、さまざまなサイズやデザイン、さらに短い納期にも対応できることが強み。工期の短いリノベーション物件への納入が8割近くを占めるという話にもうなずける。東京ショールームがオープンしたことで、関東圏からのオーダーにもよりスピーディーにフレキシブルな対応できる体制が整ったのではないだろうか。

株式会社 田中工藝

株式会社田中工藝 東京ショールーム
東京都渋谷区代々木4-28-7 西参道テラスN1 TEL:03-6300-4437
営業時間 10時～17時(水曜・年末年始休)＜完全予約制＞
http://tanakakougei.jp/

DuPont™
CORIAN® デュポン™コーリアン®

デュポン™コーリアン®ニュースはWEBでもご覧いただけます。
www.dupont-corian.net

◎施工事例募集　デュポン™コーリアン®を使用した施工事例を募集しています。詳しくは下記までお問い合わせください。

MRC・デュポン株式会社 〒107-0062 東京都港区南青山1丁目15番9号 第45興和ビル TEL：03-5410-8551 FAX：03-5410-8501

©MRC・デュポン株式会社 著作権：いかなる形式においても許可無く、本誌の一部または全部の複製を禁じます。©2017 DuPont-MRC Co.,Ltd. All rights reserved. "CORIAN®"および"コーリアン®"は、米国デュポン社の登録商標です。

凝縮された美が調和する都市の中の小さな広場

星のや東京

昼間は木漏れ日がつくる繊細な影が落ち、まるで石のような質感のベンチ。何色ものカラーを組み合わせているが、天然石の敷石や木々に囲まれ、違和感なく周囲の景色に馴染んでいる。夜になるとベンチ内部の照明が点灯。ほの暗い広場に灯籠を並べたような趣に。

ＪＲ東京駅から大手町方面へ。立ち並ぶ高層ビル群の間を歩いていくと、２０１６年７月に誕生した日本旅館「星のや東京」が見えてくる。建物を回り込むようにエントランスへ向かうと、小さな広場がある。木立の中に、ふわりと置かれたベンチ。有機的な模様が重なり合い広がっていくような、手の込んだ敷石。巨大な建物群からの圧迫感さえ消えて、心地よい空気が流れていた。

「星のや東京」は、隣接する「大手町フィナンシャルシティ グランキューブ」とともに、大手町連鎖型都市再生プロジェクト第３次事業として、三菱地所が再開発を施行し、星野リゾートが運営している。「敷地全体の設計監理は当社とＮＴＴファシリティーズが担当しましたが、ホテル街区のランドスケープデザインを、オンサイト計画設計事務所の長谷川浩己さんにご協力いただきました」と話してくださったのは、三菱地所設計の津久井敦士氏。

「ここは旅館の前庭であると同時に、街区全体の広場の一部というパブリックなスペース。そこで、ランドスケープを構成するベンチや植栽、プランターなどを小さくし、巨大なビルが並ぶ一角で、ここだけがまったく違うスケール感に包まれるよう計画しました。そうすることで、街区全体の景色にも奥行きがでると考えたからです」と長谷川氏。ただ小さくするのではなく、限られた広さの中にさまざまな要素を凝縮することも狙いだった。『密度感』は、日本的な空間の特長のひとつ。それをいかに都市の景観の中で実現するか、という試みでもありました」。

京都の老舗、植彌加藤造園が手がけた敷石の流れに、そっと浮かべたオブジェのようなベンチはデュポン™コーリアン®で製作され、何色ものカラーが組み合わされている。ふっくらとやわらかな形をつくるために３次元の曲げ加工を

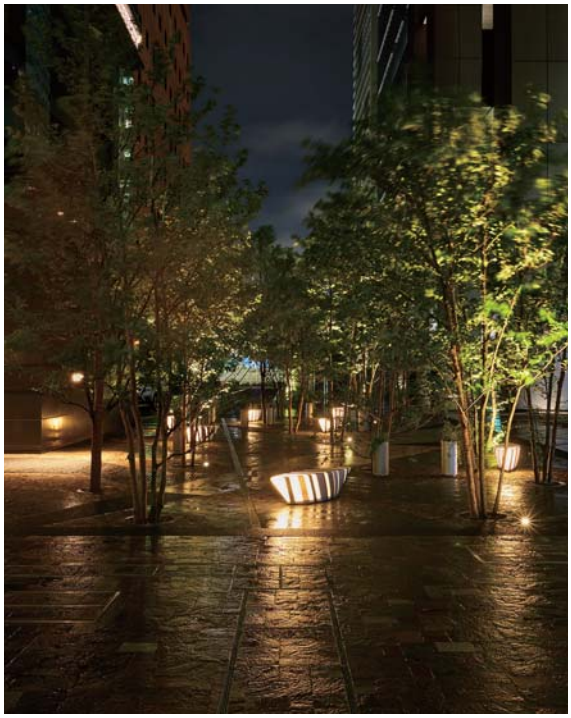
施しており、夜にはほんのりと光るよう、照明システムも組み込まれた。「色を組み合わせたのは、単色で光らせるより、表情がつくりやすいと思ったからです。たとえば白一色だったら、どうしても障子越しの光にはかないません。オーソドックスな日本庭園にはない素材を使えたという点でも、面白かったと思います」と長谷川氏。

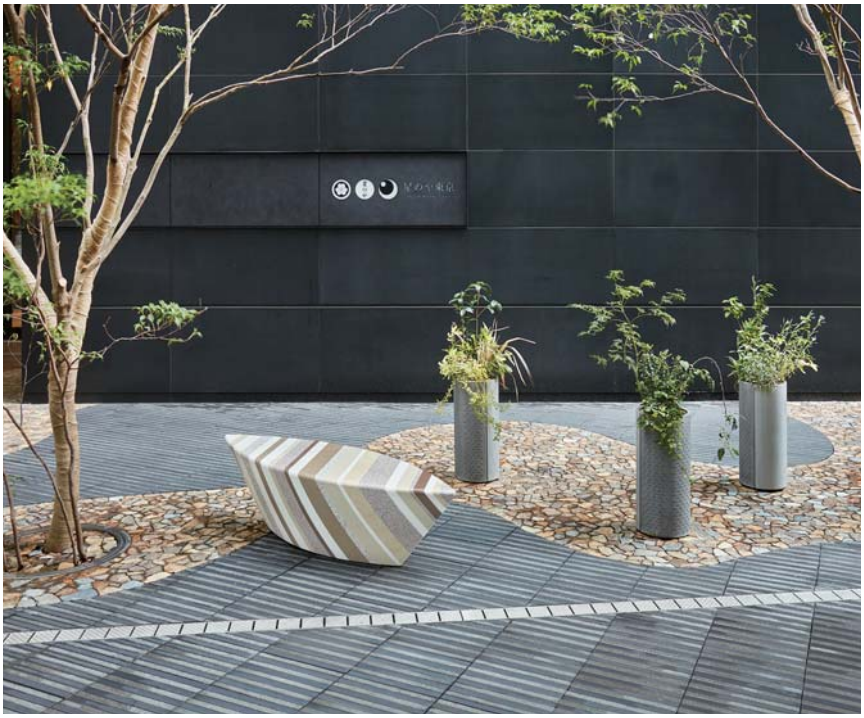
ベンチとともに配置された円筒形のアルミ鋳物製のプランターも、型から起こした特注品。表面には葺皮模様が施されている。「工業製品をただ置いた、という要素がひとつもありません。それぞれに手間をかけたもので構成することで、空間の質が上がっているのではないでしょうか」と、津久井氏。

形、質感、色合い、そして、かけられた手間と時間。心地よさを生み出すさまざまな要素が凝縮されたプロダクトと空間は、日本人の心にも、世界中から訪れる観光客の感性にも、深く響くことだろう。

使用色（左から）
グラーサホワイト、モンタナ フォーン、モンタナ スエード、
デュポン™プライベートコレクション バールドビーチ 他

星のや東京
●所在地　東京都千代田区大手町1-9-1
●建築主　三菱地所株式会社（再開発施行者）
●運営　株式会社星野リゾート
●環境設計
設計監理　株式会社三菱地所設計　塚本敦彦、津久井敦士、萩原麻衣子
ランドスケープデザイン監修
オンサイト計画設計事務所　長谷川浩己、鈴木裕治、落合洋介
●施工　戸田建設株式会社
●デュポン™コーリアン®加工協力　株式会社エイペクス





デュポン™コーリアン®の中でも、特に透光性の高い白色系のカラーと、わずかに光を透すカラー、光を遮るカラーを組み合わせることで、ベンチ全体の光り方に深みを生みだしている。それぞれのカラーの幅や並び順は、光の漏れ方なども考慮して決定された。

「アイデア」を「プロダクト」にする
専門知識と加工技術

「星のや東京」のベンチの製作と施工を手がけたエイペクス。
デザイナーの意図を汲み取り、完成に至るまでの製作プロセスについてうかがった。

株式会社エイペクス
●所在地　埼玉県さいたま市
浦和区上木崎6-10-5
http://www.apex-co.net

「座ったとき、触れたときに、温かさを感じることが、デュポン™コーリアン®を使う一番の理由です」と長谷川氏。そのデザインに目を奪われがちだが、あくまでも実用性のあるベンチ。より底部が小さくなるデザインは、人が端に座ると大きな力がかかるが、躯体の強度等を考慮して、最終的な形状が決定されている。

デュポン™コーリアン®の加工において、豊富な知識と経験を持ち、これまでにも難しい形状や条件での加工・製作・施工を、数多く手がけてきたエイペクス。「もし、エイペクスが〝できない〟というなら、それは本当に実現不可能なアイデアなのだと思います。でも、技術的な理由で単純に〝できない〟と断られたことは、これまでに一度もありません」と設計の長谷川氏が言うほどに、信頼を置かれている会社だ。今回のベンチについて、代表取締役の榎本治展氏にお話をうかがった。

「最初にいただいたデザイン図にある形を可能な限り再現しながら、実際に製作が可能な形に落とし込んでいくことが、一番大変でした。デュポン™コーリアン®の強度、ベンチとしての安全性、加工のプロセスなど、あらゆる角度から検証し、その上で、長谷川先生に納得していただけるフォルムをご提案できるまでに、図面やモックアップを作成しながら、何度もやりとりを重ねました」。

3次曲線を描く形状で縞模様にズレがないように仕上げる方法や、台輪なしのデザインのまま敷石舗装の地面に取り付ける仕組み、内照させた際に影が目立たない骨組み構造を考えるなど、研究と調整を重ねて、完成に至った。

「たとえば、縞模様をつくるだけなら、天然石でもできるのでしょうが、光と組み合わせる表現はデュポン™コーリアン®ならではだと思います。今回のように、アースカラーだけでも、これだけの色展開があることも、デザイナーが求める表現に応えられる理由なのではないでしょうか」と語ってくださった。

未来の住まい、暮らし方のコアとなる水まわりシステム

HOUSE VISION 2 2016 TOKYO EXHIBITION

2016年8月に開催された「HOUSE VISION 2」で、LIXILは建築家の坂茂氏とともに「凝縮と開放の家」を提案した。「凝縮と開放の家は、構造や工法を単純化することで、住む人が家づくりに参画しやすく、空間の使い方を自由に構想できる住まいです」と話してくださったのは、LIXIL R&D本部生活価値研究所所長 水野治幸氏。

そのコンセプトを具現化する上で不可欠であったのが、かねてよりLIXILが開発していた風呂・トイレ・キッチン・洗面などの生活インフラを集約した「ライフコア」と呼ばれる画期的なシステムユニットだ。通常、給排水はあらかじめ床下に設置された配管へ流されるが、「ライフコア」はポンプを内蔵し、給排水を上方へ処理するため、キッチンやバスルームなどを部屋のどこにでも配置ができる。

「ライフコアの開発の背景には、まず、施工現場の人材が不足している問題がありました。上方に給排水システムを置くことで、施工を簡易化できます。また、住まいのかたちや暮らし方が多様化する時代に、これまでのnLDKという考え方とは異なる家づくりを、設備メーカーとして何か提案したいと考えました。環境問題の観点からも、水まわりを集約することで水の循環やエネルギーの活用が効率的になります。将来的には、IoTなどの先進技術と組み合わせることで、さらに使いやすい生活のツールになると考えています」と、LIXIL LWTデザイン部 冨岡陽一郎氏。

当初は、水まわり設備のみの構想であったが、坂氏との打ち合わせを重ねる中、エアコンや照明、コンセント、換気システムなど、生活に関するあらゆる設備を搭載し、住宅のスケルトンとインフィルを完全に独立させる画期的な

カウンターとシンクもデュポン™コーリアン®でシームレスに造作。「今回は、建物のスケルトンと完全に縁を切っているということを象徴するため、ライフコアをひとつの塊として見せたいと考えました。デュポン™コーリアン®は継ぎ目が見えづらいので、その点でも望んでいた表現ができたと思います」と冨岡氏。

建築の構造体は、ペーパーハニカムを合板で挟んだ、軽くて強度のあるPHPパネル。天井や外壁は、シート状の素材をジッパーで固定するという斬新な発想。LIXILの革新的なテクノロジーによって外とのつながりを自在にコントロールできる大きな窓も特徴のひとつ。

システムへ進化したという。

今回展示されたライフコアでは、カウンター等にデュポン™コーリアン®が採用されている。「デュポン™コーリアン®は、人肌に近いしっとりとした素材感がありますね。透光性や加工性の高さから、ほかの素材ではできないような表現に用いられていることも多いので、先進的なイメージもあります」と冨岡氏。

水野氏も、今回の「ライフコア」にデュポン™コーリアン®を採用した理由を語ってくださった。「気に入ったものにはお金をかけるけれど、抑えるところは抑えるというライフスタイルが当たり前の昨今。ライフコアも施工を簡易化することでコストを抑える提案をしていますが、人が触れる場所や光を柔らかく表現したい場所など、ポイントをしぼってデュポン™コーリアン®を使うことで、全体の品位を上げることができました。素材の特性を、効率よく活かす使い方だったのではないでしょうか」。

使用色
グレイシアホワイト

「凝縮と開放の家」LIXIL×坂 茂
●展覧会名　HOUSE VISION 2 2016 TOKYO EXHIBITION
●開催期間　2016年7月30日(土)～8月28日(日)
●デュポン™コーリアン®加工協力　大日化成工業株式会社

変わる街、進化する百貨店
新しい銀座に似合う素材

銀座三越 ギンザコスメワールド

化粧品が並ぶカウンターの天板と側面にデュポン™コーリアン®を使用。「カウンターのエッジ部分にアールの加工が可能で、なおかつ耐久性に優れている点から、お客様がカウンターに直接触れる機会が多い場所では、デュポン™コーリアン®を選ぶことが多いですね」と谷口氏。

2010年に売り場面積を1・5倍に増床し、銀座・有楽町地区で最大規模の百貨店となった銀座三越。それから5年目の2015年10月に、再び「最旬グローバル百貨店」として生まれ変わった。地下1階から地上8階までほとんどのフロアをリモデルした大改修は、湾岸エリアの高層マンションに住むファミリーや訪日外国人が増加し、変わりつつある銀座の街に対応するため。8階には全フロアを使った空港型免税店を新たにオープンさせたほか、地下1階には幅広いサービスを提供する「海外顧客サービスカウンター」を設置。各フロアの自主編集売り場を拡充したことも特徴的だ。

地下鉄の駅に直結する地下1階は、これまでフロアの半分だった化粧品売り場を1フロア展開に拡大し、銀座ナンバー1のブランド数を誇る「ギンザコスメワールド」となった。日本のブランドや、日本の技術を用いたブランドなどを集めた「ジャパンビューティーセレクト」のコーナーも設置。その中心にある銀座三越の自主編集売り場のディスプレイ什器に、デュポン™コーリアン®が使われている。

そこで、地下1階の内装設計・デザインを手がけた吉忠マネキンの谷口洋成氏にお話をうかがった。

「什器の素材については、まず1つめに、大きなサイズでもシームレスに製作できること、次に耐久性、最後に、肌触りを重視しました」。ディスプレイ什器が置かれているのは、エスカレーターに隣接し、広々とした抜け感のあるスペース。「配置する什器は、建築内装に負けない、マッシブな存在感のあるものにしなければいけないと思いました。そこで、什器一つひとつのサイズを大きくし、なおかつ、テクスチャーを表面に貼りつけるようなつくり方ではなく、奥行きの感じられる素材で、継ぎ目なく一体で表現したいと考えました」。耐久性については、「ジャパンビューティーセレクト」の奥に、前述の「海外顧客サービスカウンター」があるため、キャリーバッグを引きながら行き来する人も多く、ぶつける可能性を考慮した。「肌触りを考慮したのは、女性のためのフロアなので、たとえば、しっとり感であったり、かすかにひんやり気持ちいい、など、感覚に訴えることができる素材をと考えました」。それらの条件を総合的に判断して、デュポン™コーリアン®は選ばれた。

「色については、日本国産の石である白川石や大谷石などをイメージしていました。また、少し離れたところからも見えるため、大きな柄のものがよいと思っていました」。そこで、デュポン™プライベートコレクションセージブラッシュを選択。「銀座三越全体のカラーコンセプトにも合致し、上質な素材感や〝ジャパン〟を感じさせる佇まいなど、求めていた表現がすべて実現できたと思います」と語ってくださった。

使用色
デュポン™プライベートコレクション　セージブラッシュ

銀座三越 ギンザコスメワールド
●所在地　東京都中央区銀座4-6-16
http://mitsukoshi.mistore.jp/store/ginza/
●内装設計施工・什器設計製作　吉忠マネキン株式会社　谷口洋成
●監修　株式会社三越伊勢丹プロパティ・デザイン
●デュポン™コーリアン®加工協力　シーシービー株式会社

使って見せる、提案型オフィス

北陸・金沢に拠点をおき、創業80年を迎える黒崎産業。「CHANGE&CHANCE」をコーポレートスローガンとし、時代のニーズに応えながら進化を続ける企業だ。同社の建装資材事業部では、デュポン™コーリアン®をはじめとする建装資材の販売・施工のほか、住宅の施工やリノベーションも手がけている。同社の社屋も、北海道を拠点に活躍する株式会社アトリエテンマの長谷川演氏に空間デザインを依頼し、自社でリノベーションした。

「リノベーションを手がける企業として、どんなことができるのか、お客様に見ていただける建物にしようと企画しました。また、私どもが取り扱うさまざまな素材が集う空間をつくり、素材を活かす新しい使い方やデザインをご提案しています」とは、同社の代表取締役社長黒崎嘉之氏。

デュポン™コーリアン®も受付カウンターをはじめ、個性的なデザインの洗面ボウルや卓球台など、素材の特性が伝わりやすいプロダクトに使用されている。「カタログだけでは提案しきれない色味や素材感など、大判の素材でお見せできるのもよいですね」と、建装資材の営業を担当する山田祐一氏。すべて実際に使用されているため、経年による変化やメンテナンス性を実感できるメリットもあるそうだ。

KUROSAKI INDUSTRY CO., LTD.
黒崎産業株式会社　石川県金沢市湊3-62
TEL：076-238-9300
http://www.kurosakisangyo.co.jp/

DuPont™
CORIAN® デュポン™コーリアン®

デュポン™コーリアン®ニュースはWEBでもご覧いただけます。
www.dupont-corian.net

◎施工事例募集　デュポン™コーリアン®を使用した施工事例を募集しています。詳しくは下記までお問い合わせください。

MRC・デュポン株式会社　〒107-0062 東京都港区南青山1丁目15番9号 第45興和ビル TEL：03-5410-8551 FAX：03-5410-8501

©MRC・デュポン株式会社 著作権：いかなる形式においても許可無く、本誌の一部または全部の複製を禁じます。©2017 DuPont-MRC Co.,Ltd. All rights reserved."CORIAN®"および"コーリアン®"は、米国デュポン社の登録商標です。

西武鉄道　観光電車
「西武 旅するレストラン 52席の至福」
［外装・内装デザイン］隈研吾建築都市設計事務所

case 01

名店シェフ監修の料理が並ぶ レストラン電車の オープンキッチン

西武鉄道の観光電車「西武 旅するレストラン52席の至福」が、2016年4月にデビュー。池袋～西武秩父駅間などを運行し、和・洋・中の著名シェフが監修したコース料理を楽しめるレストラン電車だ。車両は、既存の「4000系」4車両1編成を大幅に改装。1号車は多目的車両、2・4号車が全52席のオープンダイニング、3号車はキッチン車両となっている。デザインは隈研吾建築都市設計事務所が手がけた。

外観は、秩父の四季と荒川の水をダイナミックに表現。内装も自然をモチーフに、沿線の伝統工芸品や地産木材を採用している。3号車に設けられたオープンキッチンには、デュポン™コーリアン®が採用された。「使用する素材は、鉄道車両用材料として不燃認定がとれていることが大前提でした。さらに、キッチンという機能上、さまざまなものを置きますし、お客様が直接手を触れることもあります。そこで、耐熱性や耐水性がありながら、ハードになりすぎないデュポン™コーリアン®を採用しました」と話してくださったのは、設計室長の名城俊樹氏。

「L字の長いカウンターでも、目地のないジョイントができる点もよいですね」。3号車では、天井の杉材や床のカーペット、カウンター腰部分の木目が印刷されたアルミパネルなど多くの素材が使用されている。「いろいろな素材が混在していますから、どうしても目地のようなもの

が目に入ります。そこで、空間の中でも大きな面となるキッチンカウンターは、シームレスで抽象化された雰囲気にしたいと考えました」。

使用色はモンタナスエード。車両全体と調和する茶系統のカラーだ。「面積が大きい分、ソリッドカラーを用いて完全にニュートラルな表現にすると、のっぺりとした印象になってしまうので、素材感のある柄入りのものを選びました」。

これまでもさまざまな用途でデュポン™コーリアン®を採用されている名城氏。よりニュートラルな表現を求めるときには、グレイシアホワイトを用いることも多いという。

「たとえば、テーパーをつけることでよりシャープな印象に仕上げたり、表面の磨き方を変えることでも、異なる表現ができそうですね」と、色柄だけでなく、その加工性を活かすことで、さまざまな表現ができることを語ってくださった。

池袋〜西武秩父駅間、西武新宿〜西武秩父駅間で運行され、往路はブランチコース、復路はディナーコースを提供。西武新宿〜本川越駅間の運行も予定。

オープンキッチンで行われる盛り付けの様子などを、乗客は自由に見学できる。「お客様の目線で同時に見える場所は、トーンをそろえたいと考え、カウンター内の作業台やバックカウンターのトップも同色のデュポン™コーリアン®を採用しました」と名城氏。

カウンタートップと、カウンター腰部分のアルミパネルの小口を押さえるパーツもデュポン™コーリアン®で製作。乗客が万が一ぶつかってもケガをしないよう、丸みを帯びた小口処理をしながら、シャープな意匠を表現。

同じ3号車内にあるバーカウンター。窓の外を流れる景色を眺めながらドリンクを楽しめるよう作られた。こちらもカウンタートップにはモンタナスエードが使用されている。

©The Country

Kengo Kuma

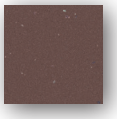
Toshiki Meijo

外装・内装デザイン：
株式会社隈研吾建築都市設計事務所
隈 研吾
名城俊樹

施工：
株式会社総合車両製作所

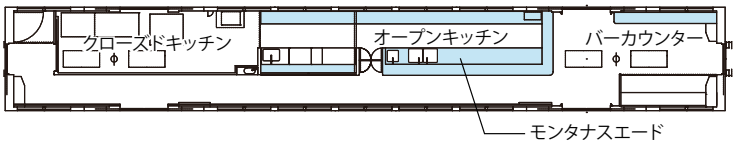
取材協力：
藤田商事株式会社

企画・運営：
西武鉄道株式会社



使用色：
モンタナスエード

3号車　キッチン車両



［東京都豊島区］

西武池袋本店　食と緑の空中庭園

［ランドスケープ設計］有限会社アースケイプ

case **02**

緑豊かな空中庭園 自然に人が集う ウォーターテーブル

池袋駅に直結する西武池袋本店の屋上が、憩いの場として注目を集めている。

「いつでも誰でも気軽にくつろげる屋上空間を目指し、『人と自然が織りなす風景画』をコンセプトにランドスケープを設計しました」と有限会社アースケイプの荒木宗一郎氏。デザインは、印象派の画家、クロード・モネが愛したノルマンディーの「ジヴェルニーの庭園」とモネ晩年の大作「睡蓮」にインスピレーションを得て計画された。

「都会にいながら、自然や季節を感じることができる場にしたいというご要望でした。とはいえ、既存の屋上の改修工事のため、いくつかの制約があり、実際の庭園のように樹木や水を豊富に使うことはできません。そこで、モネの庭のイメージを抽象化したモチーフをデザインに取り入れ、緑や水はポイントをしぼって効果的に使うことを考えました」と荒木氏。

屋上の床を水面に見立て、100万枚のタイルで、モネの色彩を再現。そこに配置された大小の円形のデッキは、水面に浮かぶ蓮の葉を表現している。センターラウンジには、たっぷりの水をたたえた直径11mの円形ウォーターテーブルが置かれている。「庭園の中心に、シンボルとな

ウォーターテーブルの水盤内にも貼られたモザイクタイルの色彩は、仏・オルセー美術館までタイルを持参し、実物の「睡蓮」と見比べながら決定した。

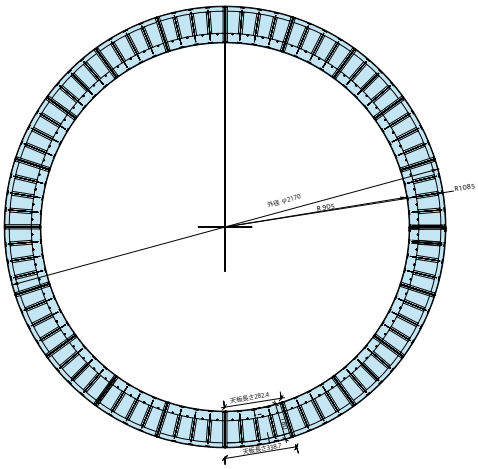
トイレ前にある手洗いのトップもデュポン™コーリアン®で製作。カウンターとシンクを一体化したデザインで、メンテナンス性の高さも備えている。

「移ろいゆく情景を表現することも、テーマでした」と荒木氏。昼と夜で異なる雰囲気を見せる光の演出もその一つ。「テーブルトップにも照明を入れていますが、デュポン™コーリアン®に反射した光はやわらかく自然な雰囲気。光を受ける面としても好ましい素材です」。

るものをつくりたいと考え、水辺でくつろいだり、飲食を楽しむことができるウォーターテーブルを提案しました」。

このテーブルのトップに、デュポン™コーリアン®が採用された。今回のように、屋外ファニチャーに、デュポン™コーリアン®を採用されることも多いという荒木氏に、その理由をうかがった。「手に触れた感覚というのは無意識ですが、そこから得る情報も多いと思うのです。デュポン™コーリアン®は、触れたときに伝わってくる心地よさや安心感といったものを備えている素材だと思います。だからこそ、直接的に触れられるところで使いたいという気持ちがあります。今回は、飲食にも利用される場所なので、メンテナンス性の高さでもデュポン™コーリアン®しかないと判断しました」。

ディナータイムにはカップルが、昼間はサラリーマンやシニア世代、ときには宿題を広げている子どもがいたりと、レストスペースとして充実した「空中庭園」の中でも、ウォーターテーブルは特に人気だ。「人が集まる場所になった理由のひとつとして、手に触れて心地よく感じるデュポン™コーリアン®という素材の力も大きいと思います」と、うれしい言葉をいただいた。



Eiki Danzuka

Soichiro Araki

ランドスケープ設計：
有限会社アースケイプ
団塚栄喜
荒木宗一郎

施工：
株式会社 竹中工務店

造園：
株式会社 日比谷アメニス

デュポン™コーリアン® 加工協力：
株式会社エイペクス

所在地：
東京都豊島区南池袋1-28-1
西武池袋本店　本館9階＝屋上

運営：
株式会社そごう・西武

使用色：
カメオホワイト

［愛知県知多郡］

日進工業株式会社　武豊工場

［設計監理］株式会社　石本建築事務所

case **04**

受付担当はロボット！ 次世代型工場の 光るサインボード

サインボードに背面から光があたり、浮かび上がるのは、同社の社員が自ら話し合って明確にした、社員として共有すべき価値観や目指す道を現した「日進道・NISSIN way」のロゴマーク。透光性の高いデュポン™コーリアン®グラーサソリッドホワイトを採用し、裏面からマークの形を彫り込み、さらに色のついたフィルムを貼っている。

自動車用の精密樹脂部品の加工において、約半世紀の歴史を持つ日進工業株式会社。「スーパー・エンプラ」と呼ばれる加工難易度の高い合成樹脂の量産化に定評があり、中国にも生産拠点を構えるなど、グローバル展開も積極的に進めている企業だ。その同社が、30年ぶりに国内工場を建設。あらゆる面で合理化を図ったスマートファクトリーが愛知県知多郡武豊町に完成した。新工場建設にあたり、さまざまなアイデアを提案したのは、同社代表取締役社長の長田和徳氏。「なるべく人員やエネルギーを必要としない仕組みを考え、コンパクトな工場を目指しました」。事務所や受付は設けず、ロボット「Pepper（ペッパー）」が、訪問者への対応を行う予定だ。

「機能に特化した工場というコンセプトに基づいて、シンプルなデザインになっていますが、エントランスホールだけは、コンセプチュアルなデザインを取り入れました」と話してくださったのは、設計を担当された株式会社　石本建築事務所の大野淳氏。ショールームも兼ねるエントランスホールの側面には、デュポン™コーリアン®を一部採用したディスプレーボード、正面には同社の行動指標をデザインしたサインボードを造作した。「樹脂という素材が持つポテンシャルを活かしたデザインを建築的に取り入れることで、会社の先進性を現したいと考えました。そこで、デュポン™コーリアン®の透光性に着目しました」と大野氏。

照明はセンサー式で、来訪者がエントランスホールに足を踏み入れると、同社の製品や行動指標のロゴが浮かび上がるという仕掛け。

「会社を象徴する空間にしたいと思っていましたので、清潔感や近未来的な印象も表現され、面白いデザインになったと思います」と長田氏。

デュポン™コーリアン®のユニークな特性が、企業イメージの表現にも、役立っている。

ディスプレーボードのカウンター部分にもデュポン™コーリアン®グラーサソリッドホワイトを採用。明るく光っている部分に製品を陳列する。

使用色：
グラーサソリッドホワイト

施工事例募集　デュポン™コーリアン®を使用した施工事例を募集しています。詳しくは下記までお問い合わせください。

MRC・デュポン株式会社

www.dupont-corian.net

本社：〒107-0062　東京都港区南青山1丁目15番9号 第45興和ビル
TEL：03-5410-8551　FAX：03-5410-8501

デュポン™コーリアン®ニュースはWEBでもご覧いただけます。

©MRCデュポン株式会社 著作権：いかなる形式においても許可なく、本誌の一部または全部の複製を禁じます。©2016 DuPont-MRC Co.,LTD. All rights reserved "CORIAN™"およびコーリアン™は、米国デュポン社の登録商標です。
※はMRC・デュポン社の登録商標［シリーズ名］です。

CN109-2016.4 6M DP

［東京都港区］

丹青社 本社受付

［設計］株式会社丹青社

case **01**

静けさの中に浮かんだ 3次曲線の白いカウンター

1959年の創業以来、上野・神田エリアに拠点を構えてきた丹青社が、2015年9月に品川シーズンテラスに本社を移転した。同社は、新オフィスのテーマを「未来創造拠点」とし、「知的創造性」と「業務効率」の向上に取り組んでいる。ビルの19階にある受付ロビーは、そのテーマを象徴するかのような空間だ。

訪れた人は、まず、白と黒、2つの対照的な空間に出迎えられる。床から天井まで真っ白な空間が、受付ロビーだ。そこに、デュポン™コーリアン®が使用されている。

「黒の空間は、創業者・渡辺正治氏のアトリエをイメージし、我々の原点でもあるデザインとビルトが一体になっていた時代を表現しています」と話してくださったのは、同社のプリンシパル クリエイティブディレクターである上垣内泰輔氏。「クリエイティブミーツ」と名付けられた黒いスケルトンな空間は、社内外のクリエイティブが出会う場、人と人とのコミュニケーションの場として活用される。

一方、受付周りのビジネスライクな「白の空間」は、ディスプレイ業界の将来性を表現。「ディスプレイ業界は以前と大きく変化し、デザイン性が高いものを創造するだけではなく、さまざまな場面で、クリエイティブを使った幅広いサービスを提供し、お客さまの課題を解決することが求められています。それに応えることが、私どものこれからの課題

の一つです。白い空間では、ビジネスパートナーとしてクライアントをサポートしていくという姿勢を、クイック、シャープなイメージでデザインしました」。

同社の原点と未来、対照的な2つの世界観を向かい合わせることで、そのどちらも忘れずに進むという意思を表しているのだという。

2つの空間には、それぞれの中心に、同社の施工技術の高さがわかるカウンターが配置されている。白の空間に置かれた受付カウンターは、3次曲線の複雑な形状で、床からふわりと浮かんでいるように見えるデザインが特徴的。このカウンターと、奥に並ぶ多目的カウンター、そしてベンチが、いずれもデュポン™コーリアン®でつくられた。

「受付カウンターについては、浮いているように見せることが唯一の意図で、最大の課題でした。施工担当はかなり苦労したようです」と上垣内氏。床に設置していないように見せるため、カウンターの断面形状は、かなり急激なカーブを描いている。そのため、施工時は分割されたパーツが安定せず、何人かで押さえながら現場接着して仕上げたという。

「白の空間の静けさ」を演出するため、あらゆる素材の白を限りなく近いトーンに統一していることや、スポットの光を弱く抑えて床や天井、什器による乱反射照明を最大に生かした照明計画も、その浮遊感をより効果的に感じさせているようだ。

Taisuke Kamigaichi

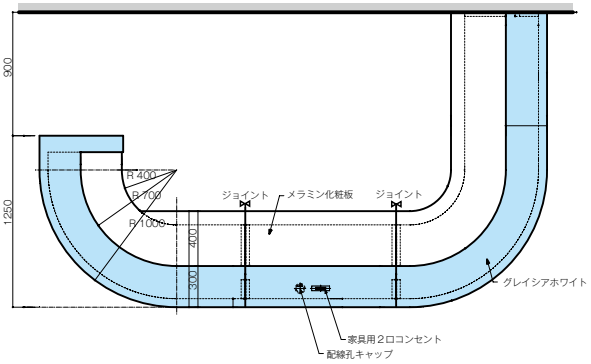
設計：
株式会社丹青社
洪恒夫、上垣内泰輔、万井純、高橋久弥

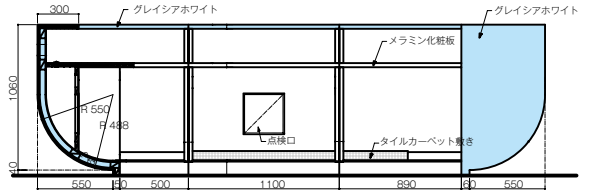
施工：
株式会社丹青TDC

デュポン™コーリアン®加工協力：
シーシービー株式会社

所在地：
東京都港区港南1-2-70
品川シーズンテラス19F
http://www.tanseisha.co.jp

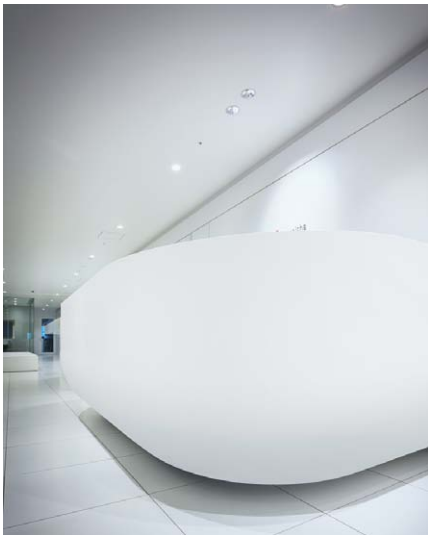
使用色：
グレイシアホワイト





直線的なデザインの多目的カウンターやベンチ側面もグレイシアホワイト。座面に用いた革は、グレイシアホワイトの色に合わせて染色した。「白の色違いというのは、意外に目立つので、塗装や染色で合わせられるものは限りなく近づけています」と上垣内氏。

究極の浮遊感を実現するため、カウンターの腰と床の接点が見えないアールの角度を追求。その結果、角度がかなりきつくなり、受付スタッフはアールの内側に足をのせて座ることに。しかし、クッションを敷き込むなどの配慮で、「移転前の受付カウンターより座り心地がよくなった」という評価を得たそう。



［大阪府吹田市］

アルアバイル エキスポシティ店

［設計］株式会社ホースボーンブラザーズ

case **02**

凛とした大人の女性にふさわしい上質な素材が生む居心地のよさ

大人の女性をターゲットに、ウェアやシューズ、バッグ、アクセサリーなど幅広いアイテムを扱うセレクトショップ「アルアバイル」。その新店舗が、昨年11月に、大阪・万博記念公園の「ららぽーとエキスポシティ」内にオープンした。

「シンプルな中にも遊び心のスパイスを利かせた、居心地のよい大人の空間を目指しました」と話してくださったのは、店舗デザインを手がけた株式会社ホースボーンブラザーズの小林純子氏。

上質なものづくり、本物志向といった「アルアバイル」のイメージにふさわしく、店内に使用された素材は、ウォールナットやポプラの木材、真鍮、玉石など、どれも質感やクオリティにこだわったものばかり。広々とした空間に、オリジナルデザインの什器や家具が、ゆったりとレイアウトされている。中でも目を引くのが、パーテーションとしての役割も果たすデュポン™コーリアン®のラウンド型オープンシェルフだ。

「シェルフ自体がオブジェのようであり、どの角度から見ても美しい存在にしたいと考えました」と小林氏。ソファに座って見上げることも想定し、シェルフ内側の天面まで、全面にレインクラウドを使用している。軸となる木材をレインクラウドでく

ソファ脇など、店内のところどころに置かれた鉢カバーもレインクラウド。写真はオープン前のものだが、実際には大きなグリーンが置かれた。重量感とやわらかさの両方を感じさせるデザインにも遊び心を感じる。

レジカウンターもレインクラウド。「人が触れる場所なので、耐久性や安全面でも安心です」

るみ、すべての角をアールに加工して、シームレスに接着するという手間によって、デュポン™コーリアン®の硬さを感じさせることなく、まるで左官仕上げのような滑らかさと一体感を生み出している。

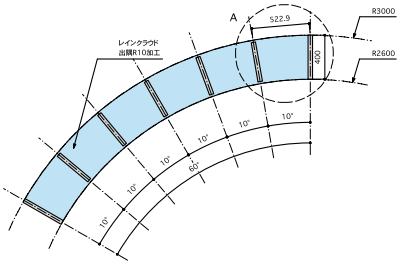
「デュポン™コーリアン®は、曲げ加工によってアールの表現が自由にできることや、シームレスに大きなものがつくれるので、スケール感のあるデザインができるなど、加工性のよさが、提案の幅を広げてくれる素材だと思います」

これまでにも、さまざまな店舗、用途でデュポン™コーリアン®を採用されている小林氏だが、特に「デュポン™プライベートコレクション」シリーズを使う例が多いという。

「流れるような模様がほかにはない個性で、表情が豊かできれい。離れて見ると、模様がより際立つ面白さもあります。表面的な模様ではなく、透明感や奥行きを感じられるところも魅力的ですね。たとえば、今回の店舗で使用しているような、さまざまな自然素材とも相性がよいと思います」と小林氏。

本物の素材、上質なデザインとアイテムに囲まれて過ごすひとときは、訪れた多くの女性たちに、お気に入りのものを選ぶこと以上の、豊かな喜びを提供することだろう。

ラウンド型の鉢カバー。「水に濡れる可能性がある場所にも気兼ねなく使えて、汚れが落としやすいことも、採用しやすい理由です」と小林氏。



Junko Kobayashi

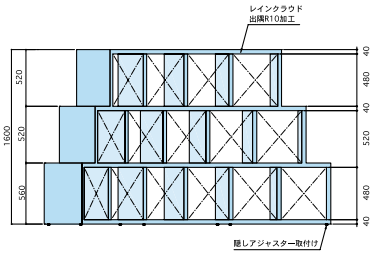
設計：
株式会社ホースボーンブラザーズ　小林純子

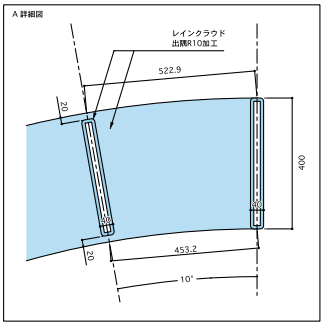
デュポン™コーリアン®加工協力：
シンコー建材株式会社

所在地：
大阪府吹田市千里万博公園2-1
ららぽーとエキスポシティ 2F
http://www.allureville.com

施主：
株式会社ファーイーストカンパニー

使用色：
レインクラウド





［大阪府吹田市］

ニフレル

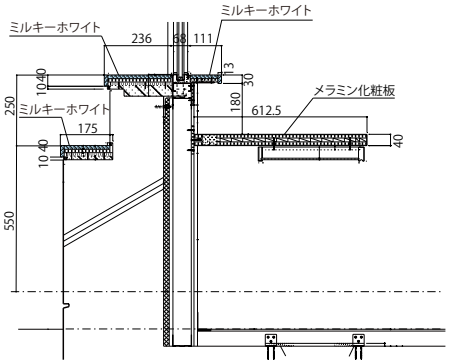
［設計］株式会社 竹中工務店

case **03**

いのちを感じる有機的な建物に やわらかくフィットするカウンター

2015年11月、大阪府吹田市にオープンした「エキスポシティ」。エキスポランド跡地の広大な敷地に、8つのエンターテインメント施設とショッピングセンターが集まる大型複合施設だ。その玄関口ともいえる場所にあるのが「ニフレル」だ。大阪市にある人気水族館「海遊館」がプロデュースしたまったく新しいジャンルの施設で、水族館と動物園と美術館が融合したような、ユニークで美しい展示が人気を呼んでいる。

外観は、曲線で構成された白い壁面に水泡を連想させる四角い窓がい



インフォメーションカウンターの天板も同じくデュポン™コーリアン®。

撮影：古川泰造

外壁は、吹田市の景観条例に基づいて、わずかにグレーがかった白に。その色に合わせて、カウンターにはデュポン™コーリアン® ミルキーホワイトが採用された。「真っ白だけでなく、いろいろな白が用意されていることも、設計者としてうれしい点ですね」と北村氏。

くつも並び、どの角度からも見てもインパクトのある有機的なデザイン。設計を担当した株式会社 竹中工務店の北村仁司氏にお話をうかがった。

「これまでにないまったく新しい施設ということで、設計に2年、施工に1年をかけて完成しました」。中に入る前からわくわくするような、この建物のチケット売り場に、デュポン™コーリアン®が使われている。「カウンターをなるべく広くとるため、外壁面が曲線になる部分まで窓口を設けています。そこで、カウンターには滑らかな曲線にもフィットする素材をと考えました」と北村氏。また、8mを超える長さに加え、チケットや料金をやりとりするという用途上、継ぎ目なく加工ができるデュポン™コーリアン®が向いていた。「日射でカウンターが熱くなることがない素材にしてほしいというご要望もありました。ちょうど、屋内ではありますが、窓際にデュポン™コーリアン®で白いカウンターを製作している施工例があると知り、実物を見に行きました。そこで、耐候性や日射による温度変化が少ないことなども確認できたので、安心して採用できました」と北村氏。

期待に胸を膨らませ、「ニフレル」を訪れた人々が、最初に触れる場所に採用されたデュポン™コーリアン®。この先ずっと、どんな天候の日も心地よく、清潔に、来場者を迎え入れることだろう。

Hitoshi Kitamura

設計：
株式会社 竹中工務店 北村仁司

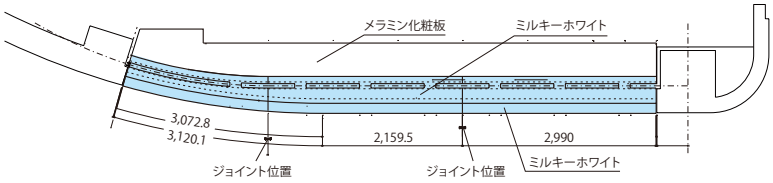
施工：
株式会社 竹中工務店

デュポン™コーリアン®加工協力：
シンコー建材株式会社

所在地：
大阪府吹田市千里万博公園2-1 エキスポシティ内

建築主：
株式会社 海遊館

使用色：
ミルキーホワイト



ガラスの仕切りを挟んだ内側と外側、荷物置きもデュポン™コーリアン®。「塗装で仕上げた場合、傷がつくと地の色がでてしまいますが、デュポン™コーリアン®は、多少傷がついても目立ちにくく、そういった意味でも耐久性に優れていると思います」。

2015年9月に大規模改装を行った札幌三越店。それにともなって、洋菓子を専門に扱う姉妹店「千鳥屋総本家季【toki】」として出店していた店舗を、通常のスタイルに変更。ショーケース内には、贈答品を中心に和洋の菓子が並ぶ。深いこげ茶色をベースとした「デュポン™プライベートコレクション®」のアースが、高級感のある店内の雰囲気にもマッチしている。

［北海道札幌市／東京都大田区］

千鳥屋総本家
札幌三越店／ウィングキッチン京急蒲田店

［設計］千鳥屋総本家株式会社

case **04**

豊富なカラーとニュアンスのある柄が与えられた環境での表現を幅広く

かわいらしい千鳥のマークをあしらった饅頭やふっくらと美味しそうなどら焼き、クッキーにチョコレートにフィナンシェと、眺めているだけで楽しい気分になるのは、千鳥屋総本家のショーケースだ。名前を聞けば、誰もがその味を思い出せるほどに長く愛される定番の菓子を提供する同社。寛永7年（1630年）創業した焼き菓子専門店をルーツに持ち、首都圏を中心に25店舗を展開。2015年秋から冬にかけて、既存の札幌三越店がリニューアル、新店舗となるウィングキッチン京急蒲田店が相次いでオープンし、「デュポン™プライベートコレクション」シリーズの2015年新色がショーケースに使用された。同社がデュポン™コーリアン®を採用した例は数少なく、この2店舗では新たな試みだったという。そこで、店舗開発担当のお二人にお話をうかがった。

「札幌三越店は、百貨店内ということもあり、少し落ち着いた雰囲気に。ウィングキッチン京急蒲田店は、ビル側の要望もあり店名をアルファベット表記にするなど、ややカジュアルな店舗となりました」と営業部長の岩井智裕氏。

三越札幌店には「デュポン™プライベートコレクション」のアースが、ウィングキッチン京急蒲田店にはバジルとグレイシアホワイトが採用された。「これまでは、御影石を使った黒のケースや木目のケースなどを、出店場所に合わせてデザインしてい

2015年12月にオープンしたウィングキッチン京急蒲田店。洋菓子が並ぶショーケースの側面は「デュポン™プライベートコレクション」のバジル、和菓子コーナーの側面にはグレイシアホワイトを採用。洋菓子コーナーは、ガラスの内側にグレイシアホワイトでステージを製作（写真上）。一段高くすることで、足早に通り過ぎる人の目にも留まりやすくするという、駅ビルのテナントならではの工夫も。

ました。ちょうど、新しい見せ方を模索していたところ、デュポン™プライベートコレクションの新色が出ると知り、サンプルを取り寄せてみました。単調ではないランダムな流れ模様は、ショーケースの側面のようなフラットな面に使っても、ニュアンスがでてよいのではないかと思いました」と、デザイナーの宮林貴志氏。テナントとして出店する場合には、天井や床など既存の環境に合わせて店舗をデザインしなければならない。そうした制約が多い場面でも、「色柄の選択肢が多い素材が表現の幅を広げてくれるので、新しい色が増えるのはうれしいですね」とも、語ってくださった。

Takashi Miyabayashi

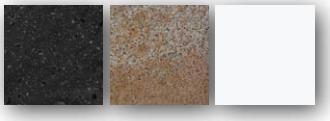
Tomohiro Iwai

設計デザイン：
千鳥屋総本家株式会社 宮林貴志

店舗営業：
千鳥屋総本家株式会社 岩井智裕

デュポン™コーリアン®加工協力：
小林商事株式会社(札幌三越店)
大日化成工業株式会社(ウィングキッチン京急蒲田店)

所在：
〈札幌三越店〉
北海道札幌市中央区南一条西3-8 札幌三越B2F
〈ウィングキッチン京急蒲田店〉
東京都大田区蒲田4-50-11 ウィングキッチン京急蒲田 1F
http://chidoriya.com



使用色：
アース
バジル
グレイシアホワイト

［神奈川県横浜市］

JRAウインズ横浜 客用女性トイレ

［設計］竹中東畑共同企業体

case 05

居心地のよさと スピード感を兼ね備えた 女性のための空間

JRAウインズ横浜が2015年12月にグランドオープンした。リニューアルの目玉の一つになったのが、客用女性トイレだ。女性目線で考えられた機能性とデザインで、まるで百貨店にいるような居心地のよさと評判だ。一方、場外勝馬投票券発売所であるため、レースの合間の短い時間に利用されることを想定し、一筆書きのシンプルな動線となるよう、利便性も追求されている。この空間を設計した株式会社 竹中工務店の興松美穂氏に話をうかがった。

「1階のトイレは、曲面を使って人を緩やかに誘導するプランとしました。S字カーブのアプローチから、馬蹄形の曲線を描く空間へとつながっています。そのダイナミックな流れを強調するため、曲線の壁面に沿って一本の長いカウンターを製作しました。これだけの長さと、図面通りの曲線を再現できる素材は、加工性や施工性で信用のおけるデュポン™コーリアン® だと考えました」と興松氏。手洗いからパウダーコーナーへと連続していくカウンターの流れが途切れないよう、パーソナル空間を隔てる目隠しも、壁付けで宙に浮かせたデザインを採用。こちらにもカウンターと同じ、デュポン™コーリアン® グレイシアホワイトが用いられた。

「宙に浮かせるというアイデアを実行するにあたって、必要な強度を保ちつつ、目隠しの自重を軽減させるデザインや加工方法を模索しました。

パウダーコーナーの目隠し（隔て板）は、角を丸めたデザインで、女性らしい雰囲気を演出。触れたときの安全性も考慮されている。一枚の板を削って作るため、汚れやゴミが詰まりやすい隙間ができないこともデュポン™コーリアン® で造作するメリット。シームレス接合が可能なデュポン™コーリアン® なら上の写真のような鋭角のカウンターも自在に造作できる。

ミニマムな加工でより効果をだせる方法を見つけるため、加工会社の協力で試作したり、工房で作業の見学などもさせていただきました」

そしてたどり着いたのが、騎手の勝負服などにも用いられるダイヤ柄をモチーフに、板の両面から、表裏凸凹で削るエンボス仕上げという方法だ。10㎜厚の板を、ダイヤ柄部分のみ表裏で入れ違いで3㎜ずつ削り落とすことで、軽量化と反り防止を実現した。

さらに、パウダーコーナーの一角には、壁の曲面を生かした三面鏡も造作。片方の袖鏡は、目隠しと共通柄をあしらったデュポン™コーリアン® に接着し、絶妙な角度で壁に取り付けられた。「三面鏡としてきちんと機能するよう、取り付け角度をタイトに依頼しましたが、下地の施工精度がしっかりしているからこそ、狙い通りの結果が得られたのだと感謝しています」。

興松氏は今回、デュポン™コーリアン® を使用してあらためて感じたことがあるという。「たとえば、ガラスのような硬い素材の近くに置けば柔らかく感じ、風合いある質感のタイルと並べると、硬質感が際立つ。硬さと柔らかさの中間にある素材だと実感しました」。そう語る興松氏は、トイレという限られた空間で、たった一色のデュポン™コーリアン® であっても、加工の方法や他素材との組み合わせで、さまざまな可能性が広がることを教示してくれた。

手洗い側（裏側）から見た写真。表裏入れ違いで削っているので、鏡側では凹んでいた部分が凸になっている。

目隠しのフレームのアップ。軽量化を図るために採用したダイヤ柄のエンボス仕上げを、鏡側（表側）から見た写真。

三面鏡（左袖）のフレームには6㎜厚のグレイシアホワイトを使用。鏡の厚さ分だけ7㎜立ち上げ一体接着し面取り磨きにて造作。フレーム先端は、目隠しと同じ加工で、統一感をもたせた（左）。デュポン™コーリアン® の加工に用いるルーターは、彫刻刀で削ったような仕上げになることからヒントを得て、ラインの表現も採用（上）。「溝がすべて丸くなるため、清掃しやすいということも、クライアントにご提案しやすい要素の一つになりました」と興松氏。

Kazuhisa Kawano

Iwao Machida

Miho Okimatsu

設計：
竹中東畑共同企業体
株式会社 東畑建築事務所 河野和久
株式会社 竹中工務店 美島康人・町田巌・興松美穂

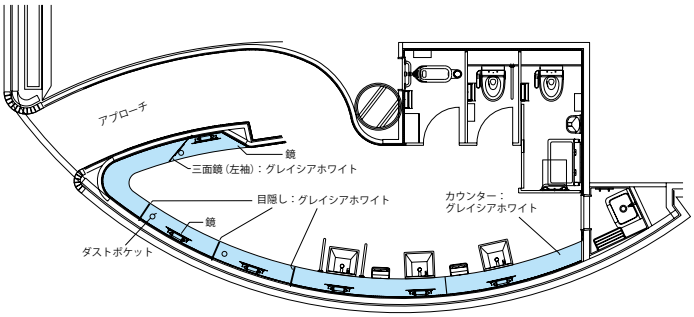
施工：
竹中東畑共同企業体

デュポン™コーリアン® 加工協力：
有限会社友和工房

所在地：
神奈川県横浜市中区宮川町3-70
http://www.jra.go.jp/facilities/wins/yokohama/

施主：
日本中央競馬会

使用色：
グレイシアホワイト



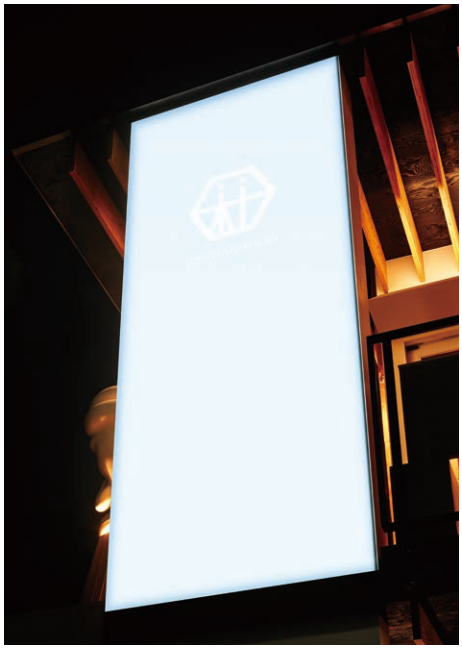
古今東西、文化が交差した宿場町で人々を温かく迎える看板

◆ 大社の杜　みしま

テラス席にはデュポン™ コーリアン®の大テーブル。中央にバイオ燃料の暖炉を組み込んで、暖房器具と一体化した。

テーブルを光らせるアイデアは、屋根のデザイン上、上からの照明をつけることができないため、逆転の発想で生まれた。

ライトアップによって陰影が濃くなり、デザインが際立つ夜の風景。「建物の一部としてなじむ素材感やジョイントの美しさという点でも、優れた素材だと思います」と相澤氏。



ライトアップの際に影が出ないよう、膨大な数の直径 12mm の透明なアクリル棒でデュポン™ コーリアン® を支えている。

下田街道からの眺め。グラーサ® ホワイトの看板と青空の対比が美しい。看板の下、一階部分の壁は漆喰塗り。化粧梁や造作家具には、構造材として用いられることが多い LVL 材を使用し、現代的な和風を表現した。

静岡県三島市は「せせらぎの町」と表現されるように、風情ある水路が張り巡らされた美しい街である。この街の顔である「三嶋大社」は、奈良・平安時代の古書にも記録が残る、由緒正しい神社だ。

その大鳥居の目の前に、門前町らしい佇まいの商業施設『大社の杜 みしま』がある。間口が狭く、奥行きがある敷地に、個性的な店舗が軒を連ねる様子は、まるで裏路地のよう。モダンな建物に囲まれた広場では、週末を中心に、さまざまなイベントが開催されている。

「『大社の杜 みしま』は、地元のゼネコン企業が、門前町の活気を取り戻すべく立ち上げたプロジェクトです。観光客だけでなく、地域の方々が活用でき、集える場所をつくりたいというお話でした」と話してくださったのは、『大社の杜 みしま』の設計を手がけた、アシヤ アーキテクツ株式会社の相澤康子氏。

第1期、第2期工事は、2013年11月に完成し、2014年に静岡県景観賞最優秀賞を受賞している。そして第3期工事となる新店舗が、今年5月、羽切建築設計事務所・羽切直樹氏との共同設計で完成した。

三嶋大社の大鳥居に向かう下田街道に面した新店舗は大屋根の下に整然と並んだ垂木が社寺建築を思わせるデザイン。参拝客を迎えいれる門のようにも見える。

街道筋から最も目につく南西の角には、真っ白な看板が掲げられている。『大社の杜 みしま』ロゴマークが控えめに彫り込まれただけのシンプルなデザインながら、その大きさ、輝く白さで、街道を行きかう人々に施設の存在をしっかりアピールしている。さらに日が沈むと、看板そのものが光りだし、幻想的な雰囲気へと変化する。このようなデザイン、仕掛けを可能にしている素材こそが、デュポン™ コーリアン®だ。

「建物自体が、施設のシンボルとなるようなデザインを目指していましたので、看板も建築の一部として設けたいと考えました」と相澤氏。

そこで、採用されたのが、羽切氏が提案した、看板そのものを光らせるという案だった。

「こうした使い方をする場合、透光性だけでなく、屋外使用に耐える耐久性も備えていなければならず、デュポン™ コーリアン®にかわる素材はありませんでした」と羽切氏。相澤氏にとっても、はじめての試みだったため、デュポン™ コーリアン®の特殊な加工にも精通する株式会社エイペックスに協力を要請。試行錯誤しながら、ライトアップをした際に、下地材の影が極力出ない方法を追求した。

「微調整をぎりぎりまで繰り返していただきました。おかげで、新しいことにチャレンジしていこうというオーナーの意向をしっかりと反映した建物を実現することができたと思います」と相澤氏。

郷土を愛する企業と、仕事に誇りを持つ人々の思いがこもった看板が、三嶋大社に向かう参拝者、地域の人々を末永く歓迎することだろう。

大社の杜　みしま

所在地
静岡県三島市大社町 18-52
http://taishanomori.jp

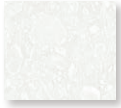
監修・施工
加和太建設株式会社

設計
アシヤ アーキテクツ株式会社
羽切建築設計事務所

看板製作
株式会社エイペックス

協力会社
株式会社微助人
有限会社松田商会

〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉



グラーサ® ホワイト

エクリュ

フルーツ王国の「走るカフェ」へようこそ
優雅な時間が流れるレトロモダンな空間

◆ JR 東日本　フルーティアふくしま

漆黒のカウンターは、会津若松の街並みに見られる黒漆喰や会津塗の質感からインスピレーションを得たもの。「光りすぎず、深みのある色あいがいいですね」と東日本旅客鉄道株式会社仙台支社の渡邊氏。

車窓の風景を眺めながら、地元で人気のフルーツタルトショップ『ルヴェルジェ』がプロデュースした、福島産の旬の果物などを使ったスイーツに舌鼓を打つ。そんな一期一会を楽しむ贅沢な時間を過ごすことができるのは、JR東日本の観光列車「フルーティアふくしま」だ。「走るカフェ」をコンセプトに、明治・大正時代の西洋モダンな雰囲気漂う特別車両で、フルーツ王国・福島県の果物などを使ったオリジナルスイーツと飲み物などをセットにした「スイーツセット」を提供。2015年4月に磐越西線でデビュー以来、女性やグループを中心に人気を誇り、12月からは、東北本線（郡山駅⇔福島駅）を運行している。

企画を担当された東日本旅客鉄道株式会社仙台支社の中神匡人氏と渡邊龍太郎氏にお話をうかがった。

「『フルーティアふくしま』は、2015年4月から開催された『ふくしまデスティネーションキャンペーン』に合わせてデビューしました。福島県の魅力の一つである旬のフルーツを楽しめる列車を、ということで考えた企画です」と渡邊氏。仙台支社内でプロジェクトチームを立ち上げ、いろいろな部署が横断的に関わり、「走るカフェ」というコンセプトが決まったという。車両のデザインについては、レンガや黒漆喰壁、明治・大正時代の西洋モダンな雰囲気の漂う沿線の街並みや、車窓から楽しむことができる雄大な自然と融合するものを目指した。

「実際に会津若松の街を訪れて、インスピレーションを膨らませました」とおっしゃるのは、デザインを担当された、株式会社GKインダストリアルデザインの若尾講介氏。幅広い領域のデザインを手がける同社で、電車・バス・飛行機などの公共交通からショベルカーまで、車両関係のデザインを担当している。

「今回は、既存の車両の改造ということで、設計面での制約も多かったのですが、車両メーカーとやりとりをしながら、構造設計とデザインの兼ね合いを調整して、できるかぎり通勤電車のイメージを払拭しました」と若尾氏。そこで、提案されたのが、1号車は車両全長にわたる伸びやかなカウンター席、2号車はボックスシートを中心に配置した贅沢で優雅な車両デザインだった。

「こうした特別な列車は、お客さまが自ら選んで乗るものですから、空間にも価値を持たせなければいけないという使命があります。また、使用する素材にも質感が求められます」と若尾氏。電車ではない、非日常空間が付加価値になるという提案にプロジェクトチームも納得。しかし、火災対策の観点から、車両では使用できる素材は限られるため、その中でいかにデザインイメージを再現するかが課題だった。

「制約の中で最善のものを作ろう

運行中も快適に飲食できるよう、テーブルには縁やコップを置くくぼみをつけた。「こうした加工をする際、コスト面でも優れた素材だと思います」とデザイナーの若尾氏。

カウンターの一部に設けたセルフサービスのドリンクコーナーは、小柄な方や子どもでも使いやすいよう、高さを下げたカウンターにしている。

ボックスシートは床から一段高く、車窓の景色を堪能できる設え。天井は圧迫感を抑える鏡面仕上げに。

パウダールームに設置された洗面化粧台もノクターンのトップとカメオホワイトのシンクで雰囲気を統一。

ノクターンのカウンターの上で、旬のフルーツを使った色鮮やかなスイーツが一段と映えることだろう。

とプロジェクトチームで検討を重ねました」と渡邊氏。その上で、デザインの肝となる、会津塗をイメージした漆黒のカウンターやテーブルには、デュポン™コーリアン®のノクターンが選ばれた。

「デュポン™コーリアン®を選んだ理由は、完璧な平面ではなく、表面に揺らぎのある素材だからこそ、磨きをかけることで会津塗のような質感を再現できるのではないかと考えたのです」と若尾氏。「仕上がりだけでなく、もし、別の素材で同じイメージを求めるなら、加工の手間が複雑になり、コスト面でも現実的ではありませんでした。何より、デュポン™コーリアン®を使えなければ、車両中にわたって大きく円弧を描くこのようなカウンターは実現できていなかったと思います」。

よいものを作りたいという想いが重なって生まれたこだわりの車両だからこそ、「フルーティアふくしま」には、笑顔と会話があふれ、多くの人に支持されているのだろう。

JR 東日本　フルーティアふくしま

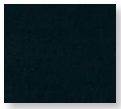
企画・運営
東日本旅客鉄道株式会社　仙台支社
http://www.jr-sendai.com/fruitea

デザイン
株式会社GKインダストリアルデザイン

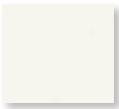
設計・施工
株式会社総合車両製作所

デュポン™ コーリアン® 納入会社
藤田商事株式会社

〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉



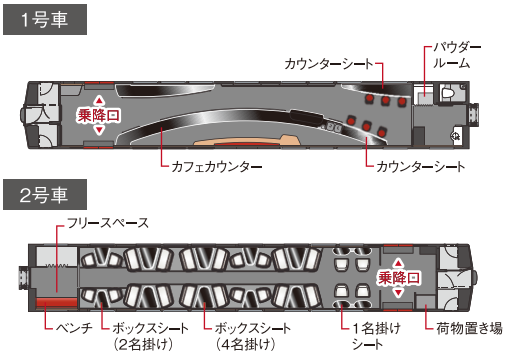
ノクターン



カメオホワイト

※濃色系デュポン™ コーリアン®は水シミ、手油、キズなどが他の色に比べて目立ちます。特性をご理解された上でご使用ください。

通勤電車として使用されていた719系2両を改造。カフェカウンター車両1両と、ボックスシートをメインとした座席車両1両の編成で運行。定員は36名。



1_5階キッチンスタジオ。実際に使用するキッチンであるため、機能上必要な機器を搭載しながらも、デュポン™ コーリアン®で統一したことによって、高いデザイン性を保っている。

ファッションミュージアムを演出する クリエイティブで美しい数々の仕掛け

◆ 伊勢丹 新宿本店　5･6階 リモデルプロジェクト

2015年3月、リモデルオープンを迎えた「伊勢丹 新宿本店」の本館5階、6階フロア。2013年3月のファッションフロアに続く形となった、リビング・アートフロア（5階）とベビー・キッズフロア（6階）のリモデルオープンは、伊勢丹 新宿本店のコンセプトである〝ファッションミュージアム〟を大きく打ち出した形となった。

「百貨店は、もはや〝モノ〟を売るだけではなく、相談やソリューションといった〝コト〟を売る時代だと考えています。フロアの構成もそれを意識してデザインしていただきました。もっと見たい、もっと探したいと思わせる仕掛けのあるフロアに仕上がったと感じています」と語るのは、株式会社三越伊勢丹プロパティ・デザインの仁田野 慎一氏。その言葉を裏付けるかのように、2基のエスカレーター周りの〝パーク〟と呼ばれる広場を中心に、回遊性の高い導線に生まれ変わったフロアの各所には、気軽にお茶を飲みながら相談できるカウンターや、体験できるスペースが配置されている。そして、その象徴となるカウンターや什器に、デュポン™コーリアン®が採用されている。

「リモデルに際して留意したのは、コミュニケーションを取りながら一緒に選ぶというサービスを、空間デザインに反映させることです。使い方を伝えることをテーマにし

2_ キッチンスタジオのカウンターは、シンクまでウィッチヘーゼルで製作。　3_ デュポン™ コーリアン®で木を挟むデザインが新鮮。曲げ加工とシーム接着を駆使して3次元の曲線を描く棚に。　4_ デザイン家電陳列棚はシラスホワイト。一段高くなった中央の台の側面も、曲げ加工で製作。 5_ メッセージカード陳列棚は、デュポン™ コーリアン®をフレームのように演出。 6_ アート & フレーム売り場カウンターにもシラスホワイトを採用。

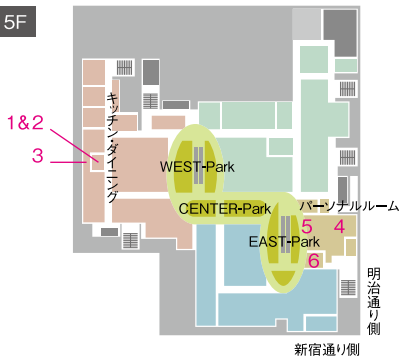
たエリアを可能な限り一体感のあるものにし、かつ奥のお買場へと誘引するフォルムが必要です。さらに、置いてある商品自体が本物ばかりなので、壁や什器もそれに負けない素材を世界中から探しました」とデザインを担当した株式会社グラマラスの佐藤琢磨氏。デュポン™ コーリアン®を採用したことで、イメージを最大限に活かした空間が実現できたという。

たとえば、5階のキッチンスタジオ。継ぎ目のないコの字形のスタイリッシュなカウンターの反対側には、アールを活かした優美なデザインを採用。料理づくりに欠かせないシンクもデュポン™ コーリアン®で統一したことで、カウンター自体に上質感をもたせながら、主役である商品やお客様が際立つ空間となった。また、6階の遊びの広場では、円形のカウンターを継ぎ目なしで表現。淡いグレーの上質な質感が、大人でも楽しめるフロアづくりというコンセプトに合った仕上がりが実現したという。表現したいデザイン、目指すべき理想の着地点があったとしても、素材がそれに耐えうるものでなくては実現は難しい。時には、デザインそのものを変更せざるを得ないこともある。たとえば今回のような創造性豊かな意匠の実現は、デュポン™ コーリアン®あってこそだったのかもしれない。

「デュポン™ コーリアン®を採用したいというのは、デザインチームからの提案でした。リモデルに際しての素材選びは品質、安全性、コストなどさまざまな要因を鑑みてセレクトしなければなりません。お客様に安全にお買い物をしていただくため、より快適な空間にするために、どのような素材が最適なのかというのは、その場その場で検証し、選定しています。そのため、総合的な観点からデザイナーさんの提案をそのまま活かすのではなく、代替えの提案をお願いするケースもあります。けれど、今回はデュポン™ コーリアン®であればまず間違いがないだろうと、そのまま実施に移しました。耐久性、メンテナンス性にも優れている素材ですので、採用して正解だったと考えています」と仁田野氏。

「デュポン™ コーリアン®を使うことによってデザインのイメージを

本館 5F



そのまま表現することができました。加工のしやすさに代表される自在性と加工精度の高さがあるうえに、美的観点からも優れた素材だと感じています。色みや風合いもよく、想像通りの着地ができました。木や金物では表現できない質感と、百貨店の売り場に求められる耐久性とメンテナンス性を両立できたのは、この素材ならでは。他の素材の良さと上手く融合できるデュポン™コーリアン®を適所に使用することにより、マテリアル配置としても、非常にバランスの取れた空間に仕上がったと思っています」と佐藤氏も言葉を重ねる。

リモデル後、商品を展開する面積自体は減少したにもかかわらず、顧客の嗜好が高価格帯にシフトしたことによって、売上そのものはキープされているという伊勢丹 新宿本店の新しいエリア。見て、触れ、体験し、相談して選ぶ、新しい百貨店のスタイルを、デュポン™コーリアン®の什器が支えている。

伊勢丹 新宿本店 5・6階 リモデルプロジェクト

所在地
東京都新宿区新宿 3-14-1

http://isetan.mistore.jp/store/shinjuku/

リモデルオープン
2015 年 3 月

床面積（リモデル部分）
5 階 6200㎡
6 階 4700㎡

建築設計
株式会社丹下都市建築設計

内装設計・デザイン
株式会社グラマラス

監修・施工
株式会社三越伊勢丹プロパティ・デザイン

〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉

ウィッチヘーゼル

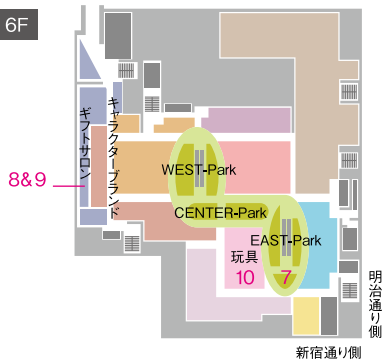
シラスホワイト

レインクラウド

モンタナ スエード

モンタナ リネン

本館 6F



8_ ゆっくり相談ができる6階ギフトサロン相談カウンターには、落ち着きのあるモンタナ スエードを採用。濃色の木目ともよくマッチしている。

9_ お客様を迎えるギフトサロンの受付カウンターには、高級感を備えたモンタナ リネンを採用。やわらかな印象を与える円形フォルムも美しい。

7_ 遊び心のある意匠が印象的なベビーフードコーナーはシラスホワイトを採用。天板に加えオリジナルデザインで作った陳列トレイ類もデュポン™ コーリアン® 製。

10_ 6 階の遊びの広場のカウンターはレインクラウド®、デュポン™ コーリアン® の優しい手触りと清潔に保ちやすい特性は、子どもたちが使う場所にも適している。

1_ アシンメトリーな楕円のガラスケースをやじろべえのように底辺がとがったデュポン™コーリアン® の躯体が支えているようなイメージでデザインされたコンセプトケース。

色とりどりのケーキを抱えて きらきらと輝くショーケース

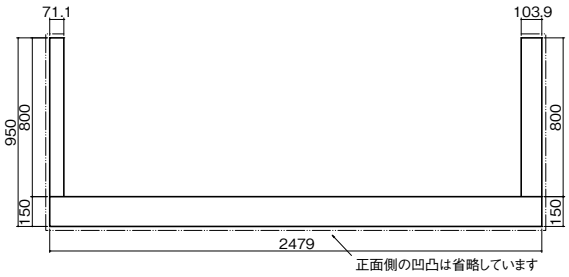
◆ 2015 モバックショウ／アリガ コンセプトケース

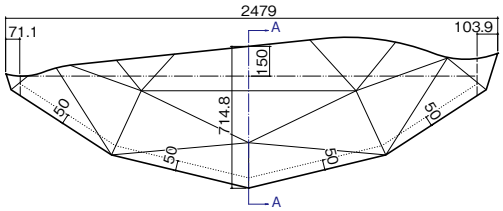
製パン・製菓産業に必要な、あらゆる機械・器具、材料、資材などが一堂に集められるビジネスショウ「2015モバックショウ 第24回国際製パン製菓関連産業展」が2015年2月18日から21日までの4日間、幕張メッセで開催された。

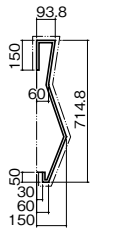
同展は、食のプロ向けの見本市だが、会場内では、有名パティシエや和菓子職人などによるデモンストレーション、パンの世界大会なども開かれ、華やかな雰囲気と甘い香りに包まれていた。また、開催が2年に1度ということもあり、出展している各社がそれぞれに力の入った展示やPRを行っていた。その中でも、ひときわ異彩を放ち、目をひいていたのが、冷蔵ショーケースメーカーである株式会社アリガが展示したコンセプトケースだ。

「まずは興味を持っていただこうという集客の目的もありましたし、ある種のお祭りのような、見本市の雰囲気を盛り上げる役割も果たすデザインを採用しました。また、社内的には、自分たちがここまでできるということを再確認することで、社員のモチベーションを高めることができるよう、技術的にも難易度の高いことに挑戦しました」と話してくださったのは、同社の対面ケース事業部の田中栄二氏。

「最近は、ショーケースも、単なる販売ツールというより、インテリアの一つとして店舗づくりに用いられ







A—A断面（中央部）

2

3

2_ デュポン™ コーリアン® 部分は、六角形と五角形の組み合わせで構成されている。そこに凹凸や曲線が加わって、複雑で印象的な形が生まれた。 3_ ショーケースとは別に展示されていたデュポン™ コーリアン® ミルキーホワイトのトレイ。継ぎ目や角をつくらない加工ができるため、汚れがたまりにくく、清潔に保てるそうだ。

るケースが増えています。そうしたニーズに応えることができると示すためにもデザイン性の高いものを提案しました」と、同事業部の設計担当である佐藤彰修氏。社内コンペで選ばれたという、オブジェのようなデザインの立体感や滑らかな曲線を表現できる素材として、デュポン™ コーリアン®が候補にあがった。

「まずは、こうした加工が可能かどうか、専門知識のある方に相談しました」と佐藤氏。今回、デュポン™ コーリアン®の加工を担当したのは、大日化成工業株式会社だ。「最初に二次元の図面をいただいたのですが、あまりに複雑な形状のため、まず模型を製作してデザインを確認していただきました」と同社社長の平澤正嗣氏。そこで5分1のサイズの模型が製作され、凹凸のバランスなどを調整後、約1ヶ月で完成に至った。

「とにかく初めてのことなので、週に一回、製造部リーダー、若手社員を含めて打ち合わせをしながら、作業をすすめました」と話してくださったのは、製作担当の株式会社アリガ製作所 設計課の村社健司氏。

「デュポン™ コーリアン®ウィッチヘーゼルを使用していますが、凹凸のある形状でも、流れ模様がきちんとつながるように接合するなど、丁寧な仕事ぶりに驚きました」。

株式会社アリガでは、こうしたイベント用の特別なショーケースだけでなく、通常製造しているショーケースでも、デュポン™ コーリアン®が使われることが多いそうだ。

「やはり、つなぎ目のない一体型のデザインができることが大きな魅力でしょう。加工性がよいので、デザインにこだわりのあるお客さまには、デュポン™ コーリアン®をおすすめします。天然石のように個体差があまりなく、色柄が安定していることも、クレームになりにくいという点ですぐれた素材だと思います」と田中氏。また、メンテナンスがしやすく衛生的な点も、食品を扱う店舗へ納入するショーケースには、適した素材であると語ってくださった。

2015 モバックショウ／アリガ　コンセプトケース

会期　2015年2月18日（水）～21日（土）

会場　幕張メッセ

主催者　日本製パン製菓機械工業会

出展者　株式会社アリガ

デュポン™ コーリアン® 加工協力会社
大日化成工業株式会社

〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉

ウィッチヘーゼル

ミルキーホワイト

「デザインはいつもひらめきです。対象となる空間をスケルトンの状態で見て、ふと思いついたイメージがそのまま形になっています」とおっしゃるのは、有限会社リアルプラネット代表取締役の楠 泰緒氏。

今年1月に開院した京都市の医療法人悠涼会 洛央眼科クリニックも、楠氏が現場で思いついたイメージを図面に落とし込み、ほぼ忠実に再現したものだという。しかも、デザインから完工までが、約2ヶ月という短期間。それができるのも、同社が企画から設計、施工、監理までを一貫して手がけているから。

「僕自身がデザインを描いて、施工がはじまると毎日現場へ通って、監理をしています。何か問題がおきても、その場で判断できますから、施工が止まることもありません。また、自分で問題を解決しているので、その経験は次の仕事にも活かせます。施工まで手がけるメリットは大きいんです」と楠氏。

現場に通じているからこそ、ひらめきであっても実現性が高く、また、技術・コスト的に難しいデザインも、施工の方法を工夫するさまざまなアイデアをお持ちだ。たとえば、「受付」の文字や病院名の文字は、デュポン™ コーリアン®に光を透して浮かび上がらせたものだが、これを文字の形どおりに掘り込んで透光しようと考えると、江戸文字(勘亭流)独特の細い線を再現しにくい上に、加工のコストも上がってしまう。そこで楠氏は、文字周辺を四角く掘り込んで薄くし、裏面から、文字の形に抜いたカッティングシートを貼って遮光するという方法を採用。それによって、加工の手間と時間、費用を抑えることができたそうだ。

「今回は、受付から待合まで、シームレスな空間として、ソリッド感を出したいと思っていました。受付カウンターは洞窟のような、かたまりをくりぬいたような、滑らかなラインで表現できたらいいな、と思っていました。それを実現できるのは、デュポン™ コーリアン®しかないなと、思いました」。

使用されているのはグレイシアホワイト。白で統一され、流れるような曲線で構成されたデザインには、視力に関係なく使いやすいインテリアに、という意図も込められていた。「色やサインで機能を説明するのではなく、凹凸と光の陰影で強調したほうが、視力の弱い方でも、認識しやすいのではないかと考えました」。

楠氏は、1990年のデュポン™ コーリアン®デザインコンクールで入選された経歴をお持ちだ。その当時から、シーム接着や曲げ加工など、デュポン™ コーリアン®の特性を最大限活かすデザインを提案されていた。今回は、さらに透光性という特性が加わることで、楠氏の思い描いたイメージを、より忠実に再現できたのではないだろうか。

ひらめきと優しさをそのままカタチに 光と凹凸で誘導するデザイン

◆ 医療法人悠涼会　洛央眼科クリニック

医療法人悠涼会
洛央眼科クリニック

所在地
京都府京都市下京区二帖半敷 655 番
産経京都烏丸ビル 4 階

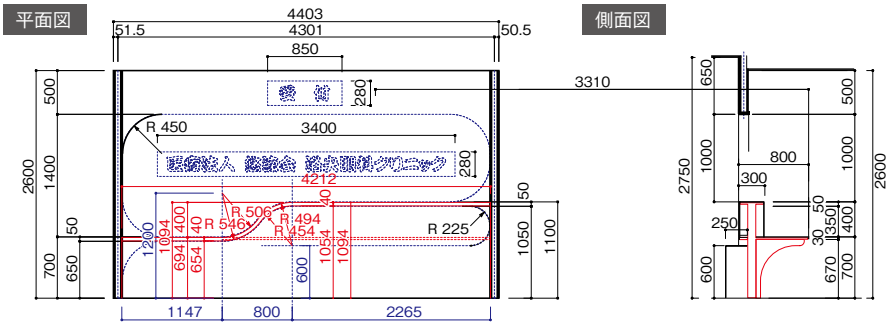
竣工
2014 年 12 月

設計・施工
有限会社リアルプラネット

デュポン™ コーリアン® 加工協力会社
株式会社コスモ建材工業

〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉

グレイシアホワイト



1_「洞窟のような」と楠氏が表現するクリニックの受付。角のないやわらかい形状は、デュポン™ コーリアン® という硬質な素材を曲げてつくったものに見えない。 2_ トイレとパウダールームの近くには、使用中だけデュポン™ コーリアン® に赤いバラが浮かび上がるしかけも。

3_ 車イスでも使えるローカウンターからハイカウンターへ、緩やかに高さが変化し、荷物置きの小カウンターまで、流れるような曲線の中に必要な機能が納まっている。

女性客にも心地よいショールームに親しみやすく洗練された曲線カウンター

◆ Honda Cars 善通寺

空海の生誕地として知られ、香川県西北部に位置する善通寺市は、四国八十八ケ所の霊場札所や大小の古墳が点在する歴史の香り濃い街だ。その中心部に位置する「ホンダカーズ 善通寺」のショールームが、このたびリニューアルオープン。既存店舗での営業を行いながら、敷地内に新店舗を建設して、段階的に移転を行うローリング計画で、２０１４年12月に完工する。この店舗の設計と施工を手がけたのは、大成建設株式会社四国支店だ。

「店舗全体のデザインについては、ホンダカーズ全店共通の基本となるガイドラインがありますので、それに沿うかたちでご提案しました」と話してくださったのは、同社設計部長の伊藤真樹氏。「たとえば、『クルマが引き立つインテリア空間』といったガイドラインに対しては、店舗全体の基調色を白として、ポイントを絞って木の素材感やホンダのコーポレートカラーである赤を用いることで応えています。そのほかに“『先進』と『親しみ』が出会う場所”といったコンセプトもありました」。

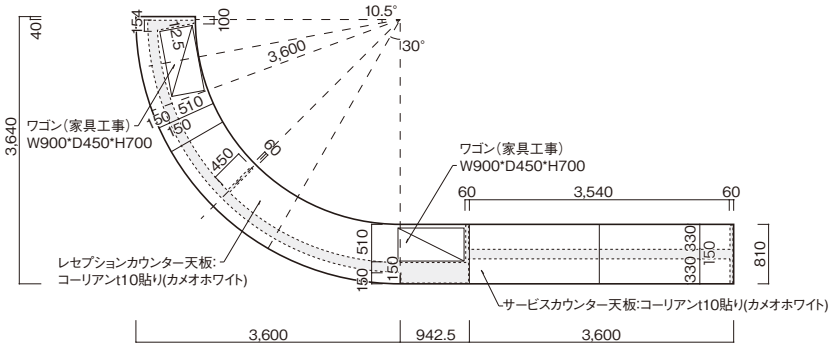
「ホンダカーズ善通寺」ならではの特徴としては、軽自動車の需要が高く女性客の来店が多いことを受け、女性も入りやすく、安心して滞在できる居心地のよい店舗設計を心がけたという。明るいウェイティングスペースや、パウダースペースも確保されたゆとりある女性用トイレな

2

3

4

5



2_Honda Cars 善通寺の外観。 3_ 窓際に設けられたウェイティングカウンターの天板にもカメオホワイトを使用。4_ 高さの違うカウンターを繋いでも、シームレスな印象を保つことができるデュポン™ コーリアン® の天板。5_ 女性用トイレは、洗面カウンターを長く伸ばしてパウダースペースを兼ねた。

1_ レセプションカウンターは高さ 900㎜で 1/4 円程度の曲線を描いている。右手方向に伸びる高さ720㎜のローカウンターの天板もデュポン™ コーリアン®で、継ぎ目なく一体化されている。

ど、女性にうれしい配慮がきめ細かくなされている。

外観も内観も、直線ですっきりと構成された店舗空間の中心で、ひときわ存在感を放ちながらも、来店するカスタマーを優しく出迎えているのが、デュポン™ コーリアン®カメオホワイトでつくられた、印象的なアールのカウンターだ。

カスタマーが最初にアクセスする曲線のレセプションカウンターと、メンテナンスの受付などを行うために着座して対応するサービスカウンターを一体化したカウンターは全長約8メートル。そのサイズもさることながら、継ぎ目のない大きな塊のようなカウンターのインパクトは、店舗の顔としても十分な役割を果たしている。「素材や色で目立つのではなく、アールの形だけで主張したいと考えていました。ですから、色は白、素材はニュートラルな雰囲気でありながら、イメージ通りのアールを造形できる素材ということで、デュポン™ コーリアン®を選びました。特に目地を入れずに、アールを表現できる素材というのは、他にないのではないでしょうか」。

デザインイメージを実現しやすい優れた加工性に加え、耐久性がある点でも、カウンターの素材としてデュポン™ コーリアン®を使う機会が多いという伊藤氏。「今回はカウンターだけの提案でしたが、透光性を活かしたデザインも面白いですね。カウンター背面の壁などで、社名ロゴを内照させるといった手法も、今後は採り入れていきたいと思います」。デュポン™ コーリアン®のユニークな特性から、イマジネーションが広がって、新しいアイデアが次々に、頭の中で生まれているご様子だった。

大成建設株式会社 四国支店
設計部 部長
伊藤 真樹氏

Honda Cars 善通寺

所在地
香川県善通寺市上吉田町 418-2
www.hondacars-zentuji.jp

竣工（グランドオープン）
2014 年 12 月

床面積
1331.83㎡

設計・施工
大成建設株式会社 四国支店

カウンター実施設計・家具製造
株式会社中村谷

〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉

カメオホワイト

色とりどりのネタと、職人の技を引き立てる最高の舞台

◆海鮮処寿し常　アトレ大森店&アトレ上野店

株式会社豊田は、東京を中心に42店舗を持つ「寿し常グループ」を運営している。地域性や立地条件にあわせて「寿し常」「海鮮処寿し常」「寿し処 粋魚(いなせ)」「すしつね匠」など、江戸前の伝統を受け継ぐ立ち食い寿し店から、ゆったりとした空間で本格的な江戸前寿しを楽しめる店舗まで、多彩なスタイルで展開。こだわりは、どの店舗でも、カウンターやテーブルに座って、職人が握った寿しを、気軽に安心して味わうことができる点だ。

2014年7月にリニューアルオープンした「海鮮処寿し常」のアトレ大森店とアトレ上野店のカウンターには、デュポン™ コーリアン®の「プライベートコレクションシリーズ」が採用されている。どちらの店舗も、板場を囲むように配置された長いカウンターが特徴的。「以前は、寿し店らしい檜のカウンターにこだわっていたのですが、やはり年数がたつと傷が目立ってしまい、メンテナンスの手間もかかっていました。天然石のカウンターを採用したこともありましたが、こちらは継ぎ目の目地に汚れがたまるなどの問題が。その点、デュポン™ コーリアン®はシームレス接合ができて、手入れも簡単ですから、改装時や新店舗で採用することが増えています。傷や汚れが付きにくく、扱いに気を使わなくてよいので、現場スタッフからの評判もよいですね」と、株式会社豊田の取締役 事業開発室長の久保敦史氏。

今回、アトレ大森店は「デュポン™ プライベートコレクション」シリーズのバールドビーチが、アトレ上野店では同シリーズのエクリュが使われている。

「モダンすぎず、自然素材に近い抽象的な模様が、寿し常さんのコンセプトに合うと思いお勧めしました」と話してくださったのは、店舗デザインを手がけた株式会社ミュゼオ 設計部 室長の池田健治氏。「素材の質感を感じるのに、主張が強すぎず、カウンターの上に並ぶ寿しを、きちんと引き立てる素材ですね」。

近年、「寿し常グループ」では、女性客へのアピールに力を入れ、店舗デザインにも、女性を意識した雰囲気を取り入れているという。「デュポン™ コーリアン®は、石の重厚感があるのに冷たさがなく、優しい印象の素材ですから、私どもの目指す店舗の雰囲気づくりに、一役買ってくれていると思います」と久保氏。

寿し店の主役は「寿し」そのもの。そして、カウンターの奥で職人技をふるう板前たち。その二つを引き立たせる舞台として、伝統ある檜のカウンターに替わって選ばれたのは、機能性、デザイン性、そして多彩なニーズに応える色柄がそろう、デュポン™ コーリアン®でした。

ディスプレイ用カウンターにもメインカウンターと同色が採用されていた（アトレ大森店）

海鮮処寿し常
アトレ大森店&アトレ上野店

所在地
＜海鮮処寿し常　アトレ大森店＞
東京都大田区大森北 1-6-16
アトレ大森　5階

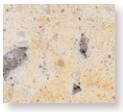
＜海鮮処寿し常　アトレ上野店＞
東京都台東区上野 7-1-1
アトレ上野　2階レトロ館

改装竣工
2014 年 7 月

設計
株式会社ミュゼオ

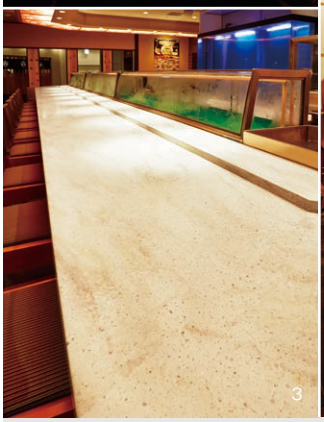
施工
髙島屋スペースクリエイツ株式会社

〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉



バールドビーチ

エクリュ



1_アトレ上野店はパールの粒を含んだ「デュポン™ プライベートコレクションシリーズ」エクリュを採用。　2_1枚で 3600㎜の長さがとれるデュポン™ コーリアン® は材料取りがしやすく、長いカウンターでもジョイントを少なく仕上げることができる。写真はアトレ上野店。3_「デュポン ™ プライベートコレクションシリーズ」バールドビーチを採用したアトレ大森店。「和紙にも通じる自然な流れ模様で、継ぎ目もより目立ちにくくてよいですね」と池田氏。

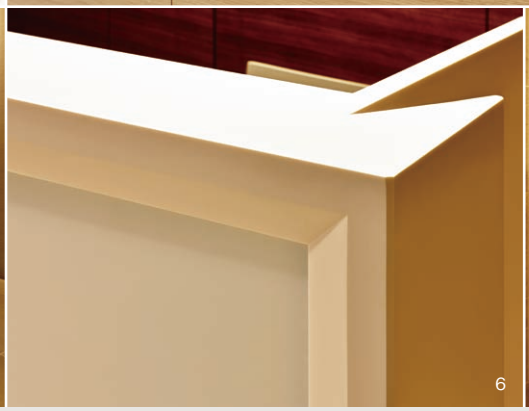
4_アトレ大森店。リーズナブルな価格設定でありながら「カウンター寿し」にこだわる「海鮮処寿し常」では、より多くの人が座ることができる長いカウンターが特徴。

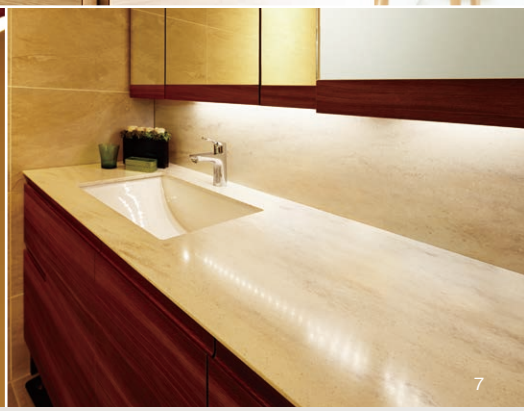
デザイナーの意思を忠実に表現する素材
受付カウンターからキッチンまで多彩な用途に

◆ 三谷産業株式会社・ニッコー株式会社・三谷産業グループ　東京本社＆ショールーム

1_ 東京本社受付カウンターは、デュポン™ コーリアン® グレイシアホワイトで製作。トップと蹴込みの見返し部分にガラスをはめ込んでいる。背面カウンターもグレイシアホワイト。

2_ ショールームのキッチン。小口にテーパーをつけているのは、デザイン性だけでなく、取っ手に親指をかけてしっかり握れるようにとの配慮でもある。





3_ 社員食堂の一角にあるキャビネットの扉を開くと、バーコーナーが現れる。棚板と引き出しの面材がすべてデュポン™ コーリアン® グレイシアホワイトでつくられている。　4_ カウンター裏面の船底デザインが印象的な社員食堂カウンター。立食パーティー等でも利用される。　5_ ショールーム受付カウンターも、デュポン™コーリアン®とガラスという異素材の組み合わせ。カウンター前面の腰板を額縁のようにデザインし、内側にガラスをはめ込んでいる。　6_ カウンター両サイドの意匠にも、こだわりが感じられる。　7_ ショールーム内に展示されている洗面カウンターにもデュポン™ コーリアン®「プライベートコレクションシリーズ」クラムシェルが使われていた。

三谷産業株式会社は、情報システム、化学製品、住宅設備機器の販売など、多角的に事業を展開する企業。同社と、そのグループ企業は2014年3月、そして関連企業であるニッコー株式会社の東京オフィスが、2014年4月に移転。陶磁器製品やシステムキッチン・システムバス等を展示するショールームも、本社近くにオープン。そのオフィスとショールームの随所に、デュポン™ コーリアン®が採用された。デザインを担当されたのは、システムキッチン等の開発・製造を行うグループ企業の株式会社インテンザ 開発課課長 内田武彦氏。現地で実物を見ながら、お話をうかがった。それでは、デュポン™ コーリアン®が採用された代表的な事例を、順番に紹介しよう。

【東京本社受付カウンター】（写真1）

グループ全体のオフィスであることから、上質感のあるシンプルなデザインに。デュポン™ コーリアン®にガラスを組み合わせることで、フォーマルな印象を演出。ニッコーブランドの白い食器とイメージを重ね、上品なグレイシアホワイトを採用。

【ショールーム キッチン】（写真2）

ショールームの主役は、料理教室等のイベントで実際に使うことができるキッチン。料理のプロにも満足していただけるよう、天板素材はメンテナンス性や耐久性も重視。さらに調理器具を置いたときの音の響きもやわらかいデュポン™ コーリアン®が選ばれた。

【社員食堂バーカウンター】（写真3）

社員が自由に使うことができるバーコーナー。システム収納の中からデュポン™ コーリアン®で造作したバーコーナーが現れる。十分な強度を持ちつつ、棚板を薄く見せるため10㎜厚のグレイシアホワイトを採用し、小口のエッジをとっている。

「質感や自然なツヤ感など、天然に近い表情があり、二次加工も自在な品質の高さは、大きな魅力ですね」と内田氏。さまざまな素材に精通するプロにも、デュポン™ コーリアン®のクオリティが認められていた。

三谷産業株式会社・
ニッコー株式会社・
三谷産業グループ
東京本社＆ショールーム

所在地
＜オフィス＞
東京都千代田区神田神保町 2-36-1
住友不動産千代田ファーストウイング

＜NIKKO／INFILL／INTENZA ショールーム＞
東京都千代田区西神田 3-8-1
住友不動産千代田ファーストビル東館1階
http://www.nikko-company.co.jp
http://www.intenza.co.jp

デュポン™ コーリアン® 加工協力会社
緑川化成工業株式会社（写真1～6）
株式会社ハードウェア（写真7）

〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉

グレイシアホワイト

クラムシェル

上質と個性を求めるカスタマーを光の演出で出迎える

◆ アムウェイ・プラザ大阪

大阪市の中心部を縦断する御堂筋は、世界的ブランドが多く出店するブランド通りだ。その一画にある「アムウェイ・プラザ大阪」が、2013年10月にリニューアルオープン。通りを往く人も思わず足を止める、洗練された店舗が誕生した。

「これまでのアムウェイ・プラザ大阪は、年間約46万人に利用されているにもかかわらず、面積が小さく、デザインも10数年前の雰囲気でした。リニューアルにあたっては、私どものプレステージな製品にふさわしい店構えにという希望がありました」と話してくださったのは、日本アムウェイ合同会社の河合浩一氏。

店内に入ると真っ先に視界に入るのが、デュポン™ コーリアン®でつくられたカウンターだ。同社の矢島正嗣氏は、次のように説明してくださった。「会社の顔としてふさわしく、お客様をきちんとお迎えできるカウンターとなるよう、高級感を保ちつつも、どなたにも〝入りやすい〟と感じていただけるデザインにしたいと考えていました」。そこで、提案されたのが、デュポン™ コーリアン®の中でも、洗練された上品な美しさが特徴の「デュポン™ プライ

「デュポン™ プライベートコレクション」シリーズの中でも、透明感のあるベースに明るい茶系の模様を流した天然石調カラーのウィッチヘーゼルで製作された「アムウェイ・プラザ大阪」のカウンター。「東京にあるアムウェイ・プラザでも、レジカウンター回りにデュポン™ コーリアン® を使用しているのですが、数年経ってみて、そのメンテナンス性の良さを実感しています」と矢島氏。常に多くの来場者がある店舗だけに、耐久性も素材選びの重要ポイントだった。

ベートコレクション」シリーズ。その中でも、透光性の優れたウィッチヘーゼルを使用したカウンターだった。「石のような重厚感があるのに、透光させると表情が一変します。その意外性は、個性的なものを求める私どものお客様の感性にもぴったりでした」と矢島氏。

カウンター内部のLEDライトが点灯すると、全体が光るだけでなく、ランダムに走るラインが浮かび上がるという特殊な加工を手がけたのは、マーブル建材株式会社だ。「ラインの部分は裏面から彫り込みを入れています。いただいた図面から数種類のサンプルを作成し、お施主様に具体的なイメージを掴んでいただけるよう配慮しました」と同社の中西正典社長。きめ細かい対応で製作されたカウンターは、昼と夜とで表情を大きく変え、店舗に華やかさをそえる存在となった。

また、矢島氏は、デュポン™ コーリアン®の曲線を表現できる加工性やメンテナンス性なども評価されていて、全国7カ所にあるプラザの別店舗でも採り入れていきたいと語ってくださった。

矢島 正嗣氏　河合 浩一氏
日本アムウェイ合同会社
河合氏はプラザオペレーション、矢島氏はファシリティ＆サービスのご担当。

200種類以上のアイテムを置くショッピングエリア、トライアルエリア、コミュニケーションスペースなどを備える「アムウェイ・プラザ大阪」

アムウェイ・プラザ大阪

所在地
大阪府大阪市中央区博労町 3-6-1
御堂筋エスジービル
http://www.amwayplaza.jp

床面積
約 379 坪（3フロア合計）

カウンター寸法
3100㎜ × 755㎜ × 750㎜

竣工
2013 年 10 月

カウンター製作
マーブル建材株式会社

〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉

ウィッチヘーゼル

ショールームを印象づけるキッチンに華をそえる、プレミアムな天板を

◆ タカラスタンダード　浜松町ショールーム

（右）エクリュを採用した壁付けタイプのキッチン。カウンターには前垂れがなく、デュポン™ コーリアン® の小口をそのまま見せたシャープな仕上げが新鮮だ。

（中）ゴールド調の流れ模様に透明のクランチを散らしたバールドビーチは、2450㎜×1050㎜のカウンターにすると華やかさもひとしお。

（左）シラスホワイトのカウンターは、シンクカバーも同素材で造作されていた。

昨年5月にオープンしたタカラスタンダード浜松町ショールーム。集合住宅向けの製品を扱い、来場するのは、マンションデベロッパー・ゼネコン・設計事務所などで集合住宅の企画・設計を手がける人々だ。

「これまで、都内に集合住宅向けのショールームがなかったこともあり、この1年間で、延べ500組2000名の方にご来場いただくことができました」と話してくださったのは、タカラスタンダード株式会社の坂東一美氏。

現在、キッチン12セット、洗面化粧台が7セット展示されているが、いずれも、都心部のプレミアムマンションやデザイナーズ物件を意識した、上質感あふれる製品ばかりだ。そのショールームの入口正面に配置されたキッチンに、「デュポン™ プライベートコレクション」のバールドビーチが採用されている。

「ショールーム全体を印象づける重要な役割のキッチンですから、組み合わせるカウンターも慎重に検討しました。デュポン™ プライベートコレクションには、他の製品にはない独特な流れ模様という優位性があり、バールドビーチは華やかさもあります。来場された方の印象に残るキッチンになると考え、こちらを選びました。実際、予想以上に多くの方々に、好評をいただいています」。

ショールーム内には、その他にも「デュポン™ プライベートコレクション」シリーズのシラスホワイト、エクリュが採用されたキッチンが展示されている。「カウンターの素材として、デュポン™ コーリアン®は、欠け、割れ、変色などの心配がなく、製造メーカーである私どもも自信を持っておすすめできる天板素材です」と、坂東氏。デザイン性と品質という、集合住宅のキッチンに求められる要素を兼ね備えていると語ってくださった。

坂東 一美氏
タカラスタンダード株式会社
関東直需支社 営業部 営業管理部 商品企画課

タカラスタンダードの代名詞であるホーローキッチンには、シラスホワイトが採用されている。

タカラスタンダード 浜松町ショールーム

所在地
港区浜松町 1-27-16 浜松町 DS ビル 2 階
（予約制）

問い合わせ
TEL.048-259-6041
http://www.takara-standard.co.jp

〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉

バールドビーチ

シラスホワイト

エクリュ

（上）総合受付カウンターは、一般公開展示スペースと隣接しているため、ビジネスライクではない明るい雰囲気に。カウンター前面にあしらわれた葉っぱのデザインは展示スペースと共通のモチーフ。　（下）マルチスペース「Nagomi」のバーカウンター。カジュアルな雰囲気を演出するモンタナ ホワイトジャスミンを使用。　（左ページ）50を超える会議室が集まる18階フロアのカウンター。総合受付カウンターとともに、フォーマル感のあるグレイシアホワイトを採用。

人と人が出会い、アイデアが生まれる。コミュニケーションの要となる3つのカウンター

◆ キリングループ本社

2013年5月に東京・中野に移転したキリングループ本社。これまで点在していたグループ企業17社の本社機能を一カ所に統合し、会社の枠を超えた連携の強化を軸に据えたユニークなオフィス環境も話題になっている。

「キリングループが推進する総合飲料戦略の一環として、すべての社員がキリンブランドを誇りに感じ、消費者を笑顔にするための意識を高めることができる環境をつくりたいというご要望でした。そこで、社員間のコミュニケーションが自然に生まれ、ひとつのグループであることを意識できるような仕掛けを随所に採り入れました」と話してくださったのは、キリングループ本社のインテリアデザインを手がけた株式会社イリアの宮坂亮子氏。

その仕掛けのひとつが、グループ全社の社員が利用できるマルチスペース「Ｎａｇｏｍｉ」。ここは、ランチスペースとして利用されるほか、ミーティングや試飲会、社内外の親睦会、パーティーなど幅広い用途で使われている。その広いオープンスペースの一画で異彩を放っているのが8mを超えるバーカウンターだ。

バックカウンターには、グループ各社の飲料がそろっている。「この場所の象徴として、社員のコミュニケーションの中心になるカウンターをつくりたいと考えました。そこで存在感のあるソリッドなカウンターにするためにデュポン™ コーリアン®を採用しました」と宮坂氏。

また、「Nagomi」と同フロアにある会議室エリアの中心にもデュポン™ コーリアン®のカウンターが配置されている。こちらは、やわらかな曲線を描くオブジェのようなデザイン。背景にはさまざまな人種、性別、年齢の人々の笑顔のグラフィックが掲げられ、カウンターとしての機能だけでなく、キリングループの企業理念を象徴するコーナーとして演出されている。

さらに、総合受付のカウンターもデュポン™ コーリアン®製だ。

「実は今回はじめて、光を透過させる手法を採用しました」と宮坂氏。カウンター内部の照明を点灯すると、前面に葉っぱのシルエットが浮かび上がるというデザイン。

「照明の配置など工夫をしましたが、オフィスのような明るい空間でも、きれいに濃淡の差がでて、狙い通りに見えることがわかりました。表面はフラットであるのに部分的に光って見えるという不思議さもいいですね」。これまでは、シームレスな造形が可能であることや、使いやすい素材の質感などから、デュポン™ コーリアン®を採用することが多かったという宮坂氏。「文字を光らせるとエッジがシャープにならずに、やわらかい雰囲気になりそう。今後はサインなどにも使ってみたいですね」と新しい用途へのアイデアも語ってくださった。

キリングループ本社

所在地
東京都中野区中野 4-10-2
中野セントラルパークサウス

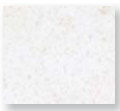
延床面積　約27,300㎡

竣工　2013 年 3 月

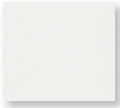
インテリアデザイン　株式会社イリア

カウンター施工　住友不動産株式会社
株式会社三越環境デザイン

〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉



モンタナ ホワイトジャスミン



グレイシアホワイト

すみれ幼稚園では、10部屋ある教室のうち、増築部分の新しい２部屋を除いた８部屋をリニューアル。既存の手洗いを撤去して、同じスペースにデュポン™ コーリアン®インペリアルイエローの手洗いを造作した。スペースに合わせた造作ができるのも、加工性の高いデュポン™ コーリアン® ならでは。

幼稚園の教室を明るく彩る手洗いカウンター

◆文化学園大学附属　すみれ幼稚園

東京・多摩ニュータウンにある文化学園大学附属すみれ幼稚園は、創立42年という歴史ある幼稚園だ。

同園では、一昨年から昨年にかけて園舎のリフォーム工事を行ってきた。その一部として、各教室の手洗いをリニューアル。これまでステンレス製の手洗いがあった場所に、デュポン™ コーリアン®で造作した手洗いが設置された。

「ステンレスは実用的で丈夫ですが、一方で少し冷たい感じもしていました。子どもの夢を育む場所にもう少しふさわしい素材はないかと思っていました」と話してくださったのは、園長の戸室喜道氏。新しい手洗いは、さまざまな色が溢れる教室内でもパッと目をひくインペリアルイエロー。「教室が明るくなったようです」と戸室氏。絵の具などの汚れを落としやすいデュポン™ コーリアン®は、教育施設にもぴったりの素材。やわらかく滑らかな手触りも喜ばれているようだ。

明るいイエローは教室内のアクセントに

文化学園大学附属
すみれ幼稚園

所在地　東京都多摩市諏訪４-11

改修　2012年～2013年

設計・施工　大日化成工業株式会社

〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉

インペリアルイエロー

アートチャイルドケア東淀川

所在地
大阪府大阪市東淀川区豊里 4-3-2

施主　アートチャイルドケア株式会社

建物用途　認可保育所

延床面積　983.15㎡

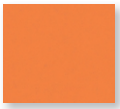
竣工　2014 年 2 月

設計・施工　大和ハウス工業株式会社

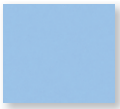
デュポン™ コーリアン® 加工協力
マーブル建材株式会社

〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉

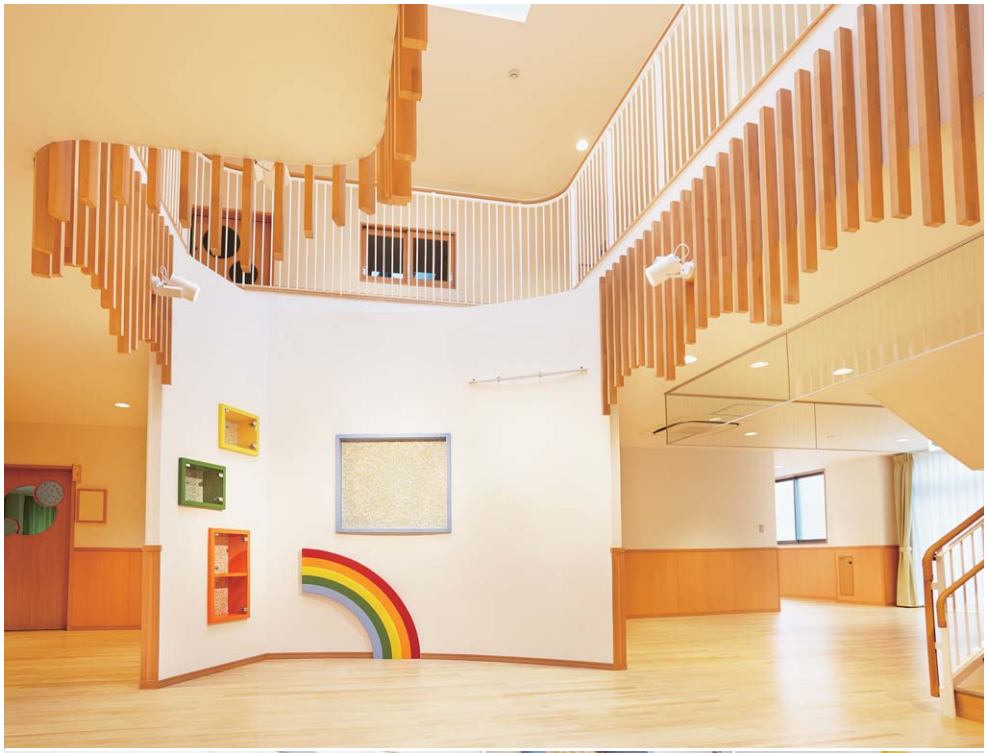
インペリアルイエロー


シトラスオレンジ

ロイヤルレッド


ダイヤモンドブルー

ブルーミンググリーン



（上）トップライトのある明るい吹き抜けの下にある飾り棚。　（下）奥行きのある額はディスプレイ用。ダイヤモンドブルーの大きな額には、アートチャイルドケア東淀川のために描かれた作家による絵画作品が飾られる。

楽しい展示と虹の架け橋が思い出の風景に

◆アートチャイルドケア東淀川

「はじまりは、プレゼンテーション用の建物パースの背景に書き込んだ虹でした」とおっしゃるのは大和ハウス工業株式会社の長谷川拓司氏。今年4月に開園した保育園アートチャイルドケア東淀川には、デュポン™ コーリアン®で作られた虹がある。「子どもの頃、虹の足元には宝物があると思っていました（笑）。園舎は子どもという宝物が集まり、たくさんの個性（色）が重なり合う場所。そのイメージに、虹というモチーフがぴったりでした」。

虹は、園舎に入るとすぐ目につく、玄関ホールの飾り棚にあしらわれている。ここは、園児の作品を掲示するほか、季節行事などのディスプレイが飾られる予定で、壁面には虹と同じカラーのデュポン™ コーリアン®の額も埋め込まれた。

「色合いはカラフルですが、ディスプレイを引き立てるよう、装飾はシンプルに。額としてあまり軽い印象にならない素材をと思い、デュポン™ コーリアン®を選びました」と長谷川氏。質感とともにこだわったのは、色のやわらかさだったという。「子どもたちが長く過ごす場所ですから、刺激の強いビビッドな色合わせではなく、かわいらしさと落ち着きのあるカラーリングにしたいと思いました」。その点、ヨーロッパのデザイナーにも支持されるデュポン™ コーリアン®のカラーは、要望通りだったという。

「これから先、この保育園に通う、たくさんの子どもたちにとって、この虹が園のシンボルとなり、小さな頃の思い出として、心に残ってくれるとうれしいですね」。

大和ハウス工業株式会社　東京本社
建築事業推進部 営業統括部
建築企画プロジェクト
長谷川　拓司氏

幼稚園のトイレ空間を明るく彩る カラフルな手洗いシンク

◆ 行方市立麻生幼稚園

茨城県南東部に位置する行方市は、2005年に3つの町が合併して誕生した、まだ新しい市だ。同市では、児童数減少や建物老朽化などの理由から、公立の小・中学校、幼稚園の統合が進められている。今回ご紹介する行方市立麻生幼稚園も、近隣の幼稚園との統合にともない、既存の敷地内に新しい園舎を建設。そのトイレに、デュポン™ コーリアン®製のシンクが採用された。

「小さい子どもたちがトイレに行く頻度と距離を考えると、教室に近い位置が好ましく、同時に先生たちの目も届きやすいように、トイレを2つの教室の中心に配置しました。また、教室から引き戸を開けると手洗いがすぐに見えるので、清潔感があって、明るい空間となるよう配慮しました」と話してくださったのは、設計を手がけた株式会社桜設計事務所の山田一博氏。そのトイレに設置されたのが、エービーシー商会のオリジナル商品「ラピード®フレキシブルシンクFlapp（フラップ）」だ。

「これまで、学校や幼稚園ではステンレス製のものを使うことが多かったのですが、パッとみてかわいらしく、色が豊富に選べるということもあり、見た瞬間に、これでいこう、と決めていました」と山田氏。

「フラップ」は、シンク・天板・側面もデュポン™ コーリアン®製。シンクは24色、カウンターは71色から組み合わせを選ぶことができる。

「見た目がすっきりしているだけでなく、天板とシンクの継ぎ目部分も手で触っても全くわかりません。だれにでも安全で、汚れもつきにくく掃除もしやすい。先生や子どもたちもきれいに使ってくれると思います」と同社の大森氏。

長く使っても、清潔感と鮮やかさを保つデュポン™ コーリアン®のシンクが、これから先、たくさんの子どもたちの成長を見守り、見送っていくことだろう。

5人用も採用。カウンターのコーナーがR形状で安全性も高い。

行方市立麻生幼稚園

所在地
茨城県行方市麻生 1147-1

延床面積
1189.01㎡

竣工
2013年9月

施主
行方市教育委員会

設計・監理
株式会社桜設計事務所

施工
株式会社ミノワ

「フラップ」製造元
株式会社エービーシー商会

〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉

インペリアルイエロー　ビーチグラス

ティーローズ　グレイシアホワイト

（右）デュポン™ コーリアン®の鮮やかなシンクは、ステンレス製の脚の質感もよく、トイレ空間に明るさとインテリア性をもたらす。木の温もりを感じるインテリアとの相性もよい。（上）トイレや昇降口への動線上にシンクがあり、自然に手洗い習慣づけもできる。

三次元の曲線をシームレスに。新感覚スタンディングバールの光る柱

◆ TOKYO 串 BAR

ＪＲ新橋駅から徒歩数分。飲食店が立ち並ぶにぎやかなエリアを抜けると突如として現れる個性的な店舗。「ＴＯＫＹＯ 串 ＢＡＲ」は、洗練された創作串料理を、手軽に楽しむことができる新感覚スタンディング串バールだ。業務用フライヤー「ウォーターフライヤー」のショールームも兼ねているという。

店舗はオープンエアスタイルで、内装の一部である、デュポン™コーリアン®で作られたたくさんの光の柱が、そのまま店の看板のようになり、道行く人の視線を捉えている。

「これまでの立ち飲み店の印象を一新したいという思いと、〝どこにもない空間をつくりたい〟というオーナーの希望を、このようなかたちで表現しました」と話してくださったのは、店舗のデザインを手がけた今福彰俊氏。店舗全体のイメージは、「ウォーターフライヤー」の特性でもある、水と油の分離する様子を表現。さらに、「空・雲」といったイメージも重ねているそうだ。

「飛行機に乗って、雲の上に出たときの、なんとも言えない爽快感や気持ちのよさを表現したかった。雲の上で食事をしているような気分

（右）店内に油がこびりつくことがない「ウォーターフライヤー」の特性を強調するため、あえて白を基調に採用。光柱をランダムに配置することで、空間の奥行きを感じさせている。　（左）光柱は、曲げ加工によってデュポン™ コーリアン® の板厚にばらつきができないよう、また最小限の継ぎ加工ですむよう、試行錯誤を重ねて、最終的に縦３分割で製作。高い加工技術に支えられて、「シームレス」な「三次元曲線」で「均質に光る」柱が完成した。

を楽しんでもらいたいと考えました」と今福氏。

特徴的な光の柱は、機内から見える、空を覆う雲の間から地上へ降りそそぐ、幾筋もの太陽の光線をイメージしている。「太陽の光のように、透き通っていて、力のある光を表現できる素材は何かと考えました」と今福氏。候補に挙がったのは、天然石や布、そしてデュポン™ コーリアン®だったが、混ざりもののないソリッドな材質、油や汚れにも強いという点で、コーリアン®が採用された。

「正直にいうと、どのくらいきれいに透光するか半信半疑でした。そこで、実際に光柱に使っている10㎜のグラーサ ソリッドホワイトで透光性の実験をしたところ、見た瞬間にOK、これでいこうと決めました」。これまでに手がけてきた物件でも、さまざまな光の使い方で空間を演出してきた今福氏は、「空間デザインの7～8割は光の使い方で決まる」というほど、光にはこだわりをお持ちだ。「コーリアン®を使うと、光がまろやかになって、人の肌もふわっと滑らかに映りました。狙いどおりにそれができて満足ですね。光のやわらかさを演出するには、とても有効な素材。色温度によって、素材そのものの色合いが変わったり、光を強くしてもオブラートで包まれたようなやわらかさは残る。すごくおもしろい素材です」という今福氏の言葉は、光との組み合わせで広がっていくデュポン™ コーリアン®の可能性について、多くの示唆を含む内容だった。

株式会社スーパーマニアック
代表取締役
今福彰俊氏

TOKYO 串 BAR

所在地　東京都港区新橋5-5-5 新橋ビル1F

床面積　18.58㎡

竣工　2012年9月9日（同10月9日開店）

事業主　株式会社ドレミファ

設計　株式会社スーパーマニアック

施工　株式会社 h2プランニングデザイン

光柱照明ディレクション　株式会社t.c.k.w

デュポン™ コーリアン® 加工協力
株式会社エイペクス

〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉

グラーサ® ソリッドホワイト

駅前の立地を生かした新しい図書館
窓辺に伸びる白いカウンターデスク

◆ 寝屋川市立寝屋川市駅前図書館

今年4月、京阪本線「寝屋川市駅」に直結する商業ビル内に「寝屋川市立寝屋川市駅前図書館」がオープン。飲食店や小売店なども入る商業ビルの3階を図書館にコンバージョンし、通勤帰りにも立ち寄りやすい夜9時までの開館、本の殺菌ができる「ブックシャワー」の設置など、これまでの公立図書館のイメージをくつがえす、新しい図書館が完成した。

「駅前という立地を生かした市民への利便性だけでなく、新規層の獲得や貸出蔵書数の増加を目的として計画されました」と話してくださったのは、設計を担当された株式会社昭和設計の中山至氏。最大のターゲットであるビジネスマンや子ども連れの主婦層にとって使いやすい図書館に、ということで、前述のような、さまざまな新しい取り組みが採用された。白と黒を基調としたモダンなインテリアも、ターゲット層を意識した結果だ。ゆとりのある空間に、デザイン性の高い椅子が並ぶ閲覧スペースも「まるでカフェのよう」と、市民に評判だ。

今回、デュポン™ コーリアン®が大々的に採用されたのは、『スカイキャレル』と名付けられた窓際閲覧コーナーのカウンターデスク。

「建物の北側は駅前ロータリーに面しているので、隣接する建物がなく、視界がひらけています。目の前に空が広がり、北向きのやわらかい自然光で本を読むことができるという貴重なロケーションを生かすために、壁一面を閲覧コーナーにと、考えました」。

素材にデュポン™ コーリアン®を選んだ理由は、これだけの長さのものを継ぎ目なくつくることができるという点に加え、メンテナンス性の高さが重要だったからという。

「ペンなどの汚れが、つきにくく、落としやすい素材にというご要望を受け、コーリアン®を提案しました。耐久性に優れている点もよいと思いました」と中山氏。天然石とは違ったやわらかな質感や手触り、カメオホワイトのやさしい色みも、「モダンながらもあたたかみのある空間に」という思いにぴったりだった。さらに中山氏は、「窓からの光を反射するのではなく、うまくとらえてくれるところもコーリアン®ならではですね。本を読むための背景としてはちょうどよいのではないでしょうか。思い描いていた効果はすべて得られたと思います」と語ってくださった。

寝屋川市立
寝屋川市駅前図書館

所在地
大阪府寝屋川市早子町23-2

http://www.city.neyagawa.osaka.jp/index/soshiki/tosyokan/tosyo.html

床面積
約 1,600㎡（蔵書能力 約5万冊）

竣工
2013 年 3 月

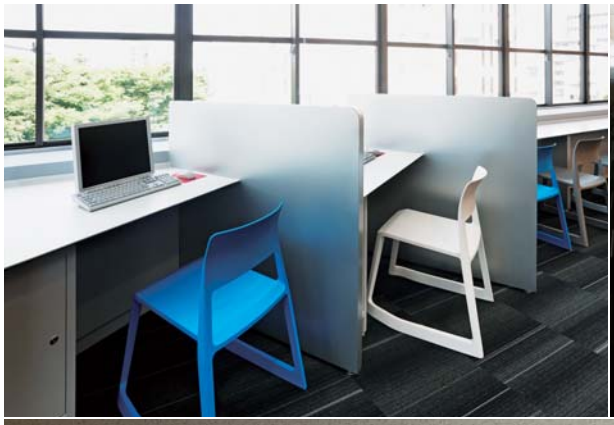
設計
株式会社昭和設計

施工
丸信住宅株式会社

カウンター加工
株式会社テクマ（オーリスグループ）
カウンター施工
アクシス株式会社（オーリスグループ）

〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉

カメオホワイト



（右）駅前ロータリーを見渡すことができる窓際閲覧コーナー。居心地のよさについつい長居をしてしまいそうだ。　（右上）こだわりのチェアが並ぶ空間は、図書館内とは思えないインテリア性の高さ。　（左上）PCコーナーはパソコンの持ち込みも可能。（下）本棚は高さが3～4段に抑えられているため、見通しがよく開放感がある。柱にはジャンルを示すイラストが描かれている。

Carrel ★キャレル 図書館／ギャラリー

見たいものを、見やすい場所に。ユーザー視点で展示された建材ショールーム

◆ エービーシー商会 東京ショールーム

建材の総合商社として半世紀以上にわたり豊富な商品を市場に送り出している株式会社エービーシー商会。東京・赤坂の本社内にあるショールームが、今年5月にリニューアル。来場者の「見たいもの」「知りたいこと」に応えられる空間構成とし、施工イメージを直感的に喚起するシーン展示も多数。その中でも、来場者が最初に目にする場所に、デュポン™コーリアン®のコーナーが設けられた。

「コーリアン®をはじめとする仕上げ化粧材を目的に来場される方が多いことから、今回のリニューアルでは、より見やすい場所への移動となりました」と話してくださったのは、デュポン™コーリアン®事業部の御法川治氏。「ポップなどを活用して、何がどこにあるのか、ひと目でわかるような工夫も施しました」と、同じく樋口阿紗子氏。それでは、写真とともにショールーム内をご紹介しよう。

デュポン™コーリアン®事業部のみなさん（後列）と、ショールームスタッフ（前列）のみなさん。

色・柄のイメージが伝わりやすいように大きめのサイズでカットされたサンプルは自由に取り出すことができる。

カラーによる透光性の違いを比較できるライトボックス。文字を彫り込んだサンプルも用意されている。

コーナーの入り口に展示されているパネルでは、デュポン™コーリアン®の特長をわかりやすく説明。

幼児向け手洗いカウンター「Flapp」。シンクは 24色、カウンターは限定カラーも加えた全71色のコーリアン®から選択できる。2〜5人用の4タイプが標準。間口は1mm単位でセミオーダーが可能。

同社オリジナル商品「Flapp-ES」は、小学生から大人まで使える手洗いカウンター。カウンター側面は、コーリアン®の71色（限定カラー含む）を使用できる。左手のキャンチタイプも今後発売予定。

さまざまなタイプの洗面カウンターが一堂に並ぶ。実物を見て、触れることができる点が、ショールームの醍醐味。専門家だけでなく、施主が訪れることも多いというのもうなずける。

クチーナのキッチンに、2013年新色のグレーリプルのカウンタートップを組み合わせて展示。実際のキッチンと組み合わせて見ることで、イメージもわきやすい。

「ラピード® ホスピタリティーカウンター」は車椅子のままでも、カウンター下に膝が入れやすい配慮がされたシリーズ。継ぎ目のない形状はデザイン性が高いだけでなく、衛生的。

同社オリジナル「ラピード®アソートカウンター」シリーズ。カウンターは同社限定カラーの「エルダーベリー」。カウンターの高さをシミュレーションできるよう展示されている。

[住所] 東京都千代田区永田町 2-12-14　（株）エービーシー商会本社 2・3F
[電話番号] 03-3507-7117
[営業時間] 午前10時〜午後6時（水曜のみ午後5時30分まで）
[休館日] 土曜、日曜、祝日、年末年始
[最寄駅] 地下鉄 銀座線・南北線「溜池山王駅」7番出口より徒歩3分／
地下鉄 千代田線「国会議事堂前駅」5番出口より徒歩3分／地下鉄 千代田線「赤坂駅」1番出口より徒歩4分／
地下鉄 銀座線・丸ノ内線「赤坂見附駅」11番出口より徒歩4分、10番出口より徒歩6分

ABC shokai

企業の枠を超えたオープンイノベーションを実現
新たなビジネスを生み出す共創の場

◆ イトーキ東京イノベーションセンター SYNQA

地下鉄京橋駅2番出口直結、京橋交差点に面したビルの1階～3階に、さまざまなビジネスパーソンが集う施設がある。オフィスや病院、公共施設などのインテリアを手がけるイトーキのイノベーションセンター「SYNQA（シンカ）」だ。

「SYNQAは、企業内の組織の枠を超えて、内部の知と外部の知が交流し、新たな可能性を生み出す場所、オープンイノベーションを実現する場となることを目指して、誕生しました。1階、2階、3階それぞれに異なる目的・デザインを有しています」と語るのは、今回のデザインを担当した株式会社イトーキの香山幸子氏。1階は、登録をすることで外部の人も利用できる会員制のコワーキングスペース。誰でも気兼ねなく利用できる心地よいカフェ空間や、常に新しく期待感を抱かせる企画展示、見ているだけでワクワクするような書籍群、さらにビジネスに役立つ各種ツールが用意され、さまざまな分野で活躍するビジネスハイパフォーマーを、自然に内へと招き入れる環境が整っている。

「1階のこのスペースは、外からたくさんの方に集まっていただきたいので、天然木の温もりを大切にしました。さらに、木以外の素材は敢えてすべてモノトーンにすることで、空間に〝締まり〟を演出。そして空間をつなぐカウンターにはデュポン™コーリアン®を選びました」

もともと、L字型の1階スペースは右半分がカフェ、左半分がワークスペースとなっており、空間が2つに分断されてしまうのが課題であった。そこで、カフェカウンターとコンシェルジェカウンターをコーリアン®で統一。ステンレスの照明とともにコの字型にすることで、空間全体を一つにまとめあげることに成功した。

「カウンターを作る際には、さまざまなマテリアルを取り寄せました。天然木の質感にあうこと、カラーガラスとの相性がよいこと、そしてシームレスで手に触れたときに上質感を感じさせること。こうした条件を満たしてくれたのが、コーリアン®だったのです」と香山氏。さらに、カウンターの下には、LEDの照明を配置。白く浮かび上がるグラーサホワイトは、都会的でありながら温かみを持つSYNQAのインテリアの中心として確かな存在感を放っている。

「唯一無二、他に比べるもののないマテリアルというのは、コーリアン®の大きな特徴。これからもデザイナーとして、さまざまなオフィスに提案していきたいと思っています」

（右）L字型の空間に浮かび上がるコーリアン®のカウンター。斜めに配した床の切り替えとも相まって、空間に奥行きと広さを演出している。

（上）照明と素材にこだわっているSYNQA。透過性のあるグラーサホワイトがLEDの光をやさしく受け止めている。

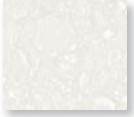
（下）肌あたりのよさや手入れのよさで利用者やスタッフにも評判がよい。

イトーキ
東京イノベーションセンター
SYNQA

所在地
東京都中央区京橋 3-7-1
相互館 110 タワー 1-3F
http://www.synqa.jp/

竣工
平成 24 年 8 月

〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉



グラーサ*ホワイト

真っ白な標本箱に収められたのは新旧の住民の心をつなぐ〝日常の記憶〟

◆ ヌーヴェル赤羽台

昭和37年に建設され、名作団地と呼ばれた赤羽台団地（東京都北区）が、UR都市機構の建て替え事業によって「ヌーヴェル赤羽台」に生まれ変わった。建て替え事業は2000年にスタートし、2010年までにA～C街区が竣工。設計には複数の建築家チームが参加し、それぞれ個性あふれる建物を提案している。画一的な建物が並ぶマンモス団地のイメージを一新するプロジェクトだ。

「すべての街区で共通しているのは、建て替え前の記憶を継承するものをどこかに採り入れていることです」と話してくださったのは、B-2街区の設計を担当されたCAt（株式会社シーラカンスアンド アソシエイツ 一級建築事務所）のデザイナー、高橋好和氏。

団地内のメインストリートであるイチョウ通りに面したB-2街区には、カラフルなベランダの手すりパネルが目を引く5号棟と集会所棟が立っている。この集会所のロッジア（開廊）に、建て替え前の団地で使われていたさまざまな部品が、デュポン™コーリアン®製のフレームに大切に収められ、展示されている。「展示したのは、昭和30年代の〝団地〟を象徴しているものです。それに、ふだん人が手にふれていたもの、記憶に残っているものです」と高橋氏。スチール製の引き戸サッシュ、玄関の黄色いプレスドア、ネームプレートなど、すべて解体前の棟に足を運んで、選んだものばかり。

「展示の方法で目指したのは、博物館の標本ケースのようなものです。採取したそのままの形で、美しい箱に封じ込めた印象にしたかった。フレームは最初からコーリアン®でつくるイメージを強く持っていました。シンプルでソリッドなものをつくろうと考えると、加工の手軽さもありコーリアン®を選びますね」

解体とともになくなる運命だった部品と一緒に収められたのは、人々の何気ない「日常の記憶」。こうした展示がつくられたことで、建て替え前から住む人にとっての宝物のような思い出が、新しく住む人との共有財産となる。人々をつなぐ展示が、いつまでも時間に埋もれることのないよう、大切に守る役割を、経年変化に強いデュポン™コーリアン®がしっかりと果たしていく。

ヌーヴェル赤羽台

所在地
東京都北区赤羽台

事業主
独立行政法人都市再生機構

B-2街区 5号棟・集会所棟 設計
市浦・シーアンドエイ設計共同体

デュポン™ コーリアン® 販売店
株式会社 松崎

使用された デュポン™コーリアン®

グレイシアホワイト

（上右）フレームに刻印された数字は、展示物の来歴を示している。写真のエレベーターボタンは「12号棟の6階／1962年9月竣工」の意味。（上左）向かい合う二つの会議室をつなぐロッジア空間。住人たちの憩いの場にもなるよう計画された。（下）この展示についての説明と赤羽台団地時代の配置図もデュポン™コーリアン®のフレームに収められている。

Photo／Hiroki Kawata

オフィスビルの憩いの場となった イタリアンバールの立ち飲みカウンター

◆ バール・ジェラテリア　ラッフィナート

ショウケースの中で輝く色とりどりのジェラート。真っ白なカウンターと、美しい所作で働くバリスタ。その頭上にはレモンイエローのドット柄上に、くっきりと浮かぶ「RAFFINATO」のサイン。大きなガラス越しに見える、明るくモダンな店内の光景が、そのまま店のファサードとなって前を通る人の目を引き付ける。大阪・中之島フェスティバルタワーにある「バール・ジェラテリア ラッフィナート」は、芦屋の名店「リストランテ ラッフィナート」が、はじめてのインショップとして出店したバール&ジェラート専門店だ。

「中之島フェスティバルタワーは、劇場とオフィスフロアを持つ新しいビルです。ここで働く方たちが、ワークタイムのモチベーションを途切れさせることなく、気軽に立ち寄って一息つき、また仕事に戻れるような店舗を目指しました。そのために、デザインは極力シンプルに、視覚的、心理的インパクトを抑えるように心掛けました。また、店内を白で統一することで、外から見ると、重厚感のある建物とのコントラストが鮮やかになり、一方、内

（右）ベンチシートは、木とコーリアン®の組み合わせが新鮮。テーブルトップもコーリアン®。家具はすべてオリジナルで、できる限りコンパクトにデザインされた。
（左）バールらしく、カウンターでは立ったままコーヒーやジェラートを楽しむ。立ち飲みにちょうどよい高さのカウンターにはグレイシアホワイトを採用

バール・ジェラテリア ラッフィナート

所在地　大阪府大阪市北区中之島 2-3-18
中之島フェスティバルプラザ B1F
TEL.06-6228-3444
http://raffinato-ashiya.com

開業　2012年11月

設計　コングデザインオフィス　河野知二
http://cong-design.com

グラフィックデザイン
ポリフォニック　阪本敦

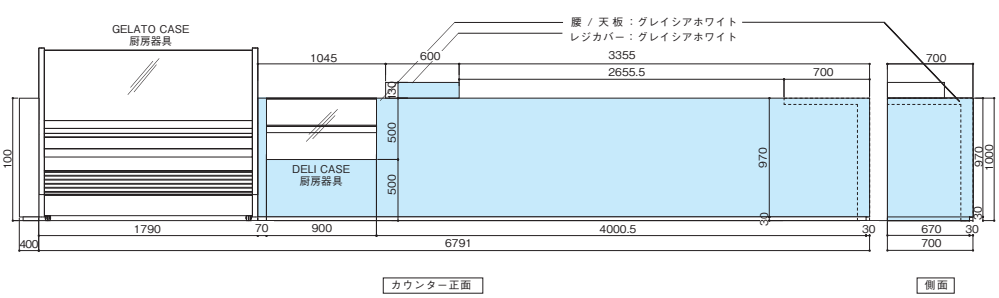
デュポン™ コーリアン® 施工
アクシス株式会社（オーリスグループ）

デュポン™ コーリアン® 加工
株式会社テクマ（オーリスグループ）

使用された デュポン™コーリアン®

グレイシアホワイト

コーヒー



部ではそれらが無の要素となって、今度はショウケースの中の商品やエスプレッソマシンの存在を際立たせるよう計画しました」と話してくださったのは、同店の設計を手がけたコングデザインオフィスの河野知二氏。横長の店内空間は、ショウケースと一体化した大きな立ち飲みカウンターがあるスペースと、テーブルが並ぶイートインコーナーで構成されている。このカウンターとテーブル、そしてベンチシートが、デュポン™ コーリアン®で製作された。「二つの空間に一体感をもたせるために、素材は統一したいと考えました」と河野氏。幅5mのカウンタートップを継ぎ目なくつくることができる素材であること、加工が比較的容易であることも、素材選びの条件であった。「また、汚れや傷などを落としやすいというメンテナンス性の高さや、コーリアン®のサンプルを手にとったとき、常温でも冷たいと感じなかったことも決め手になりました」。

昼時を迎えるとビルで働く人々が次々に店を訪れる。客層は年齢も性別もバラバラ。カウンターに寄りかかり、ジェラートやエスプレッソを楽しみ、あるいはテーブルについてフォカッチャで手軽なランチを済ませる人もいる。デュポン™ コーリアン®も一翼を担っている。〝明るく入りやすい〟店づくりが、ここ大阪の地で、バール文化の普及に貢献していることは間違いなさそうだ。

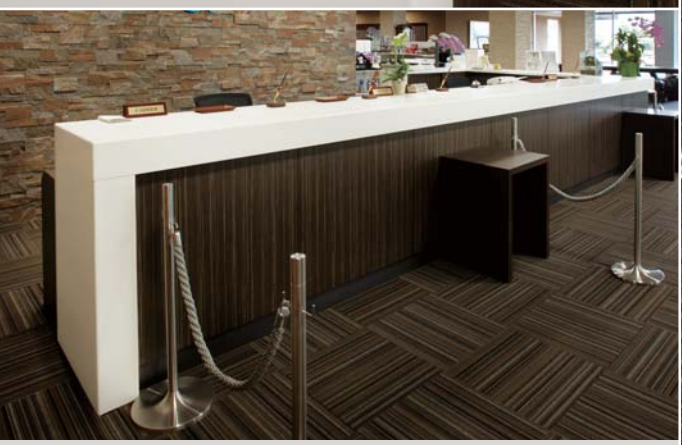
コングデザインオフィス
河野 知二氏
Tomoji Kawano

広島最古の歴史と風格にふさわしいゴルフクラブのカウンター

◆ 広島ゴルフ倶楽部

広島市内から車で20分、県内で最も歴史のあるゴルフクラブとしてその名が知られている「広島ゴルフ倶楽部鈴ヶ峰コース」。60周年という記念の年に、クラブハウスの大幅なリニューアルを行った。新しいクラブハウスは、真っ白いファサードを抜けた先に岩や大地を思わせる落ち着いた色調のエントランススペースが広がり、大きな窓の向こうに1番ホールの緑が広がるという、視覚的なドラマを感じさせるデザインとなっている。そのエントランスホールでひときわ目を引くのが、最大幅6mを超えるコの字形のカウンターだ。「このカウンターは、お客様がチェックイン／チェックアウトをするためのスペース。手を添えたり、字を書いたりするときにも違和感がないよう、継ぎ目のないものにしたかったのです」と話してくださった理事長の小島豊氏。要望を受けた設計の平田欣也氏が選んだのは、デュポン™コーリアン®だった。

「これだけの大きな変形カウンターをシームレスに仕上げられること、そして肌あたりが良い、というのがコーリアン®を選んだ一番の理由です。さらに、ソリッドカラーのカメオホワイトの白を採用する



（上）天板だけでなく、側面も前面もシームレスにつなげたコーリアン®のカウンター。角には丸みを持たせ、シャープな中にも柔らかさを打ち出している。（下）ゴルフクラブでは、お客様業務のほぼすべてをカウンター内で行う。600mmの奥行きをもたせたことで、業務中の手元を見せることなくお客様への対応ができるようになった。

ことによって、石の壁と床の間で浮遊するようなイメージをつくることができました」と平田氏。また、1日に何十人もの人を出迎え、会計し、送り出すカウンターとあって、メンテナンス性がよく汚れに強いというのも、大きな魅力であったようだ。

「こうした大きな決断には、いつも賛否両論がつきまとうもの。けれども先日の理事会で〝新しくなったロビーはいかがですか？〟と聞いたところ、大きな拍手をいただきました。来場するお客様からも高い評価をいただき、大成功のリニューアルとなったと感じています」と小島氏。広島の社交場としてこの先も愛され続けるであろうこのゴルフクラブで、コーリアン®のカウンターはたくさんのお客様を出迎えながら、いつまでも白く変わらない輝きを放っていくことだろう。

広島ゴルフ倶楽部

所在地
広島県広島市佐伯区五日市町大字皆賀413

http://www.hiroshima-gc.net/

竣工　昭和27年（平成24年10月改装）

設計　一級建築士事務所 アトリエ平田

施工　株式会社マルニアステリア

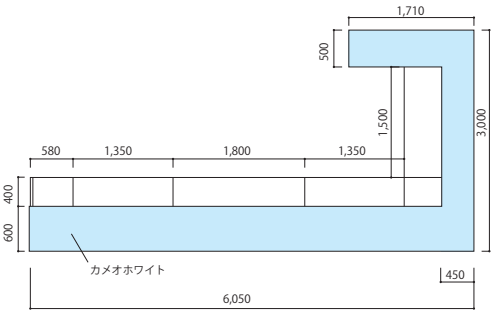
カウンター製作　株式会社オバラボード

協力会社　だいだ産業株式会社

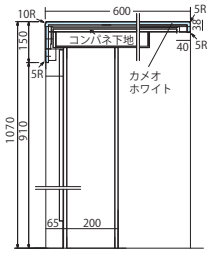
使用された デュポン™コーリアン®

カメオホワイト

広島ゴルフ倶楽部
理事長
小島　豊氏



受付カウンター平面図



受付カウンター　断面詳細図

（上）「“KIZUNA” World」では、実際に行われている製剤作業や検査の様子が見学できるほか、学習用の映像なども視聴できる。デュポン™コーリアン®でつくられたレリーフから壁面のグラフィックへ、とぎれることなくリボンがつながっていく。（左）レリーフ部分の赤いリボンはアクリル樹脂に赤いフィルムを貼ったもの。リボンの質感を演出するため５種類の赤色を貼り分けている。暗くなると背面に組み込まれたLEDライトが点灯してまた違う表情を見せる

血液でつながる生命をデザイン 見学コースの始まりを飾るレリーフ

◆ 日本赤十字社 近畿ブロック血液センター　見学展示ホール“KIZUNA” World

日本赤十字社では、医療機関などへ血液製剤を供給する血液事業を、これまで各都道府県の血液センター単位で行っていたが、安全かつ、安定した供給をめざして、２０１２年４月から広域的なブロックを単位とする運営体制を導入、全国に７ヵ所のブロック血液センターが開設された。大阪府茨木市にある近畿ブロック血液センターもそのひとつだ。

各センターには、関係者や広く一般の方へ向け、血液事業の活動を紹介する見学コースが設置されはじめているが、近畿ブロック血液センターにも「“KIZUNA” World」と名付けられた見学コースが設けられている。「その名の通り、命と命、心と心をつなぐという、わかりやすいテーマを、どのようにデザインに落とし込むかを検討し、赤いリボンで表現することになりました」とおっしゃるのは、同センターの設計・施工を担当した株式会社丹青社のチーフデザイナーである湯沢幸子氏。見学コース内の壁面には、一本の赤いリボンがコースの始まりから終わりまで一つながりで描かれている。

「どこにいてもマインドが途絶えないように、エレベーター、階段室ま

で、くまなくリボンがつながっています。そうやって意識をつなげることで、見学したことをしっかり記憶に刻んでほしい。ここへ来たことがきっかけで、若い世代にも献血に対する意識を高めてもらえればうれしいですね」と、丹青社のプリンシパルクリエイティブディレクター洪 恒夫氏。

リボンの始まりは、見学コース入り口に設置された大きなレリーフ。人間と動物のシルエットがリボンと同じ赤い線で描かれた白いレリーフは、デュポン™コーリアン®グレイシアホワイトで製作された。「出会いがしらに、何か強いメッセージを伝えたいと考え、このレリーフを提案しました。わざわざ見学施設まで来てくださった人に思い出として刻んでいただくためにも、情報だけではわからない物質感やアート作品のようなインパクトを持たせたかった」と湯沢氏。シンプルでありながら、単調にならず、求める施工精度を実現できる素材で、さらに修理が必要になったときも安定して調達できるということで、コーリアン®が選ばれた。

「血液事業というお仕事柄、お客さまは安全第一で衛生面には細心の注意を払っていらっしゃいます。ですから、見学コースに使用する素材についても、安全性やメンテナンス性を非常に重視されました。その点、いくら手で触れても表面が剥落しないデュポン™コーリアン®は自信を持っておすすめできました」と話してくださったのは、丹青社の営業担当の高下真希子氏。

施設に入ったとたんに目を奪われ、思わず触れてみたくなるインパクトのあるレリーフ。その意匠とともにコーリアン®の手触りも、訪れた人の記憶に刻まれるのだろうか。

日本赤十字社
近畿ブロック血液センター
見学展示ホール"KIZUNA"World

所在地 大阪府茨木市彩都あさぎ7-5-17

http://www.kk.bbc.jrc.or.jp/

見学エリア床面積　約1,000㎡

パネルサイズ　2,700 x 2,700 x 200mm

竣工　2012年2月

設計・施工
株式会社丹青社
プリンシパルクリエイティブディレクター
洪 恒夫
チーフデザイナー　湯沢幸子

デュポン™コーリアン®加工協力会社
株式会社エイペクス

使用された
デュポン™コーリアン®

グレイシアホワイト

南房総の海を臨む人気病院
コーリアン®と光が演出するファサード

◆ 亀田総合病院

室内側から見たカーテンウォール。三角形にカットしたデュポン™コーリアン®カメオホワイト（6mm）に曲げ加工を施して製作された

充実した医療サービスで人気の千葉県鴨川市、亀田総合病院。革新的な経営とともにメディアに取り上げられることも多い同院の建物は、亀田信介院長が独自の視点でプロデュースしている。インテリア部材やファニチャーも院長自ら米国へ買い付けに行くほど熱心だ。「つくるからには、居心地よく。病院だからデザインは必要ないということはないと思います」と亀田院長。このようなこだわりから、2012年8月にオープンした新病棟の一部にデュポン™コーリアン®製のカーテンウォールが誕生した。

カーテンウォールが設置されたのは、新病棟と既存の病棟をつなぐ連絡棟として新たに建設されたL棟。全面ガラス張りのため窓周りのインテリアがそのままファサードのデザインとなる。「ヨットの白い帆をモチーフに何か印象的な造作ができないだろうか、というお話を最初にいただきました。また、病院前がバスの停留所になっているため、夜間に到着した人に安心感をもたらすような、光の演出を採り入れたいというご意向もありました」と話してくださったのは、L棟装飾について、デザインディレクションから制作技術ディレクションまでをトータルに担当した株式会社丹青社の松村麿氏。「海に面した立地なので、その環境に耐え得る素材コーリアン®で何か面白いものがつくれないかと考えました」と松村氏。そこで、建築からグラフィックまで幅広いデザインを手がける有限会社テラダデザイン一級建築士事務所の寺田尚樹氏・平手健一氏とともにデザインチームを編成し制作に取り組んだ。「光による演出がテーマのひとつでしたので、パーツを湾曲させることで、陰影を強調したいと考えました。コーリアン®は光も透けて、曲げ加工にも向いている。また、素材のキャラクターが全面にでるのではなく、光の陰影や透け感が素直に目に入ってくるような、中性的な存在感もよかったですね」と寺田氏。

こうして完成したカーテンウォールは、光の演出により24時間さまざまな表情を見せながら、訪れる人々をやさしく見守っている。

亀田総合病院

所在地　千葉県鴨川市東町929番地

http://www.kameda.com/

竣工　2012年8月

基本設計　アーキテクツハワイ

実施設計
一級建築士事務所 モノリス
株式会社フジタ一級建築士事務所

建築工事　株式会社フジタ

＜連絡棟・新A棟装飾工事＞
デザインディレクション
株式会社丹青社　松村麿

グラフィック・アートディレクション
テラダデザイン一級建築士事務所
寺田尚樹、平手健一

照明設計
岡安泉照明設計事務所　岡安泉

工事　株式会社丹青社

デュポン™コーリアン®加工協力会社
株式会社エイペクス

使用された
デュポン™コーリアン®

カメオホワイト

（右）ヨットの帆をイメージしてデザインされたL棟ファサード。室内の灯りによって変化するグラデーションが美しい。
（上・右）亀田信介院長。（上・左）サッシのガラス面とロールスクリーンの間の260 mmを活かして立体的な表現が提案された。

有限会社
テラダデザイン
一級建築士事務所

平手健一氏

有限会社
テラダデザイン
一級建築士事務所

寺田尚樹氏

株式会社丹青社

松村麿氏

▸▸▸ この記事は、現在こちらで拡大版をお読みいただけます。→ http://www.japandesign.ne.jp/

入りやすく、心地よく。市民が集う駅前図書館

◆ 徳島市立図書館

デュポン™ コーリアン® ミルキーホワイトで製作されたカウンター。写真は6階のもの。トップから側面までシームレスにつながり、カウンター下にはLED照明が組み込まれて、足元を照らしている。車椅子のままでストレスなく使えるよう高さは750mmに統一し、カウンター下の奥行きも天板を350mm持ち出したユニバーサルデザイン

2012年4月に移転オープンした徳島市立図書館は、徳島駅前の百貨店やホテルが入る複合商業ビルの5階と6階フロアにある。駅前という便利な立地を活かして、誰でも気軽に利用できる生涯学習の拠点としての図書館づくりが行われている。館内には、社会人専用コーナーや屋外で読書ができるテラス、飲食もできるラウンジのほか、託児サービスが受けられる施設も隣接。これらの充実した設備だけでなく、館内に緑をふんだんに採り入れた明るく開放的なデザインも新しい。

改修の設計を担当された、株式会社アール・アイ・エーの大室悟史氏にデザインコンセプトなどをうかがった。「自然が豊かな土地ですので、建物の中でも自然を感じられるような図書館にしようということになりました。また、隣接する百貨店と行き来できるという立地も珍しいと思いますので、重厚さより、明るく入りやすい雰囲気を目指しました」。子ども向け図書に力を入れていることもあり、壁面やファニチャーのデザインは、親しみやすい曲線で構成されている。

デュポン™ コーリアン®は、5階と6階、それぞれに設けられたカウンターに採用されている。いずれも流れるような曲線と光による演出で構成されたシンプルなデザインだ。

「あらかじめ機器類を組み込んで設計すると、すっきりしてかっこよくはなるのですが、こうした施設では、カウンターの用途やパソコン等の個数が限定されないデザインのほうがよいと考えています。長く使うものですから、使い方が変わることもある。だからこそ、プレーンな形で、継ぎ目がなく、自由に使えるほうがいい。そうした可変性を持たせることができるのは、シームレスな仕上がりのコーリアン®だからだと思います」と大室氏。

また、長く使うものである以上、耐久性も重視された。「素材自体の耐久性ももちろん、塗装をせずに使えるということもポイント。塗装が必要な場合、塗装の耐用年数しか持ちませんから。コーリアン®は、いざとなれば表面を削っても同じ品質が保たれるという点もよいですね」。

気軽に立ち寄れる憩いの場として、これから何十年も徳島市民に愛されるであろう、居心地のよい図書館。コーリアン®のカウンターも、多くの人の手に触れられながら、いつまでも変わらぬ佇まいで年月を重ねていくことだろう。

（右&上右）5階のカウンターは徳島市の観光名所「ひょうたん島」にちなんだ形。カウンター上のサインも同じフォルム
（上左）レファレンスカウンターもコーリアン® で製作されている

徳島市立図書館

所在地　徳島市元町1-24

http://www.city.tokushima.tokushima.jp/toshokan

床面積　約3,000㎡（蔵書能力 約50万冊）

竣工　2012年4月

設計　株式会社アール・アイ・エー

施工　鹿島・北島コーポレーション建設工事共同企業体

カウンター製作
株式会社テクマ（オーリスグループ）

カウンター施工
アクシス株式会社（オーリスグループ）

使用されたデュポン™コーリアン®

ミルキーホワイト

機能と品質にこだわった国産サングラスのための光る棚

◆フォーナインズ ジェイアール名古屋タカシマヤ店

陳列された商品自体が店舗のサインに

掛け心地や耐久性、日本人のための機能をとことん追求しながら、洗練されたデザインで注目される眼鏡ブランド「フォーナインズ」。全国にフォーナインズ ショップ19店舗と500以上の取扱店で展開している。そのひとつが今年2月に名古屋にオープンしたジェイアール名古屋タカシマヤ店だ。

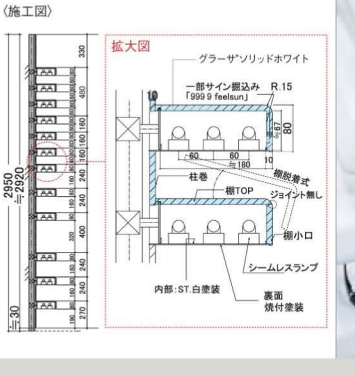
「昨年春から展開しているサングラスラインの〝フォーナインズ・フィールサン〟をはじめて店頭できちんと打ち出した店舗になります」と株式会社フォーナインズ 専務取締役の櫻井利也氏。サングラス専用にデザインされた柱巻造作に、デュポン™コーリアン®が採用された。店舗デザインを担当された吉田健太郎氏に素材選定についてうかがった。「商品を置くだけではなく、棚自体を光らせたいというご要望がありました。光らせたときに、安っぽく見えないこと、メンテナンス性がよいこと、ジョイントがきれいに消せることなど、希望する条件をクリアする素材がデュポン™コーリアン®でした」。

天井までの柱状の陳列什器は、もともと店舗入り口付近の目立つ場所にあった構造柱を活かしたもの。本来はデメリットとなる柱を見事にディスプレイに変身させた。商品が小さいので、遠くからでもサングラスを扱っているお店だと分かってもらえるデザインにと考え、天井近くまで商品を陳列できるようにデザインしました。棚自体を光らせるという手法も有効だったと思います。光り方もフレームの素材感を引き立てるほどよい明るさに仕上がりました」と吉田氏。

なお、今後、新規開店する店舗では、同タイプの意匠が導入される予定とのことだ。

ロゴは手作業で表から彫り込まれている。眼鏡の形が一番美しく見えるよう開いて陳列するのがフォーナインズ流

株式会社フォーナインズ 専務取締役 櫻井利也氏（左）と、デザイナーの吉田健太郎氏（右）



（右）ジョイント部分や角が暗くならないよう数種類のサンプルを製作して確認した。
（左）壁面やアイランドの什器は桐材を使用。（左ページ）光源は蛍光灯。内部にこもった熱は天井の換気口へ抜けるよう設計されている。背面もコーリアン®を使用している。

フォーナインズ ジェイアール名古屋タカシマヤ店

所在地
愛知県名古屋市中村区名駅1-1-4
ジェイアール名古屋タカシマヤ7階
052-566-3949

営業時間ほか
10:00～20:00　不定休

ホームページ
http://www.fournines.co.jp/

竣工　2012年2月

延床面積　51㎡

設計
有限会社 吉田健太郎デザインスタジオ

施工
髙島屋スペースクリエイツ株式会社

使用されたデュポン™コーリアン®

グラーサ* ソリッドホワイト

◆この記事は、現在こちらで拡大版をお読みいただけます。→ http://www.japandesign.ne.jp/

東北復興を牽引するスパリゾート
源泉掛け流しの湯を目でも愉しむ

◆ スパリゾートハワイアンズ モノリスタワー

（右ページ）「すみの湯」では屋外に設けたドライエリアとの境界に「糸滝」を設置。（このページ・右）「うずの湯」は丸をモチーフにデザインされているため、アールのついた壁に取り付けられている。（左上・下）吐き出しピット。きれいに湯が落ちるよう、滝の落ち口の角度など、試作を重ねて細かい調整がされた。清掃のしやすさなども配慮されている。

厳しい使用条件でも安全な素材を

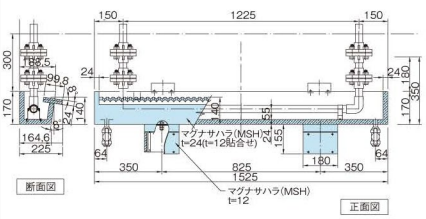
東北復興のシンボルとなった「スパリゾートハワイアンズ」。今年2月の再開と同時に新ホテル「モノリスタワー」がオープンした。

「新ホテルは、施設全体のシンボルになるもので、さまざまな点で差別化をはかっています。中でもスパ施設は、ほかにない半露天風呂で、強いコンセプトを持ったものをご提案させていただきました」と話してくださったのは、新ホテルの設計を手がけた大成建設株式会社の藤悠子氏。男女入れ替え制の二つのスパは、四角をモチーフにハワイアンズの原点である炭鉱の坑道空間をイメージした「すみの湯」と、ハワイでは輪廻転生を表す際に用いられる巻き貝から発想を得た「うずの湯」からなる。使用しているお湯は源泉かけ流し。通常のスパ施設の3倍量だという。その湯量の豊富さを表現したいというのが、クライアントからの要望だった。

「同じ湯量でも、より大きな浴槽をつくるために、水深の深いところと浅いところを組み合わせて広大なスケールを表現しました」と藤氏。さらに、天井から落水させる「糸滝」をつくることで、視覚的にも贅沢に愉しめるようにした。この「糸滝」の吐き出しピットがデュポン™コーリアン®で製作されている。コーリアン®としては珍しい用途だ。

「見た目もきちんとしていながら、温泉質に対して耐候性のあるもので、天井から吊るすことができる重量のもの、ということで素材を検討しました。安全性が一番の理由でした」と藤氏。吐き出しピットの製作を担当したのは噴水をはじめ水施設を専門とする株式会社ユーノスプリング。「コーリアン®をご提案した理由は、加工性と色や柄が選べるという点でした。また、泉質などに影響されないということも大切でした。錆びなどの問題もありませんので」と同社の中村亨氏。数多くの施工例を持つ同社でも、スパ施設でのコーリアン®の採用は、はじめてのことだという。

〈うずの湯 吐き出しピット施工図〉



スパリゾートハワイアンズ モノリスタワー

所在地　福島県いわき市常磐藤原町蕨平50

運営者　常磐興産株式会社

ホームページ http://www.hawaiians.co.jp/

竣工　2011年11月

客室数　121室
延床面積　12589.84㎡

設計　大成建設株式会社一級建築士事務所

施工　大成建設・常磐開発共同企業体

技術協力　株式会社ユーノ スプリング

デュポン™ コーリアン® 加工協力
株式会社エイペクス

使用された デュポン™コーリアン®

モンタナ ジョラスグレー

ラバロック

マグナ サハラ

WOWOWの新スタジオにコーリアン®製ベンチが登場

［WOWOW 渋谷ステーション］

〈ザ・プライムショー〉
WOWOW プライム（BS デジタル 191ch）
月～金 18:55　※無料放送

使用された
デュポン™コーリアン®

グレイシアホワイト　ノクターン

2011年10月にスタートしたWOWOWのエンターテインメント番組「ザ・プライムショー」のために新設されたスタジオに、伊藤節・伊藤志信両氏がデザインしたデュポン™コーリアン®製のベンチ"OPS SOFA"が採用された。

今回の採用について、新スタジオ「WOWOW渋谷ステーション」のプロデュースに携わった株式会社アックスの吉田健二氏にお話をうかがった。「このスタジオはWOWOWの新しい試みのひとつでした。番組自体も無料放送で、生放送の情報番組というこれまでにないスタイル。そこで視聴者との距離感を縮めることができるオープンスタジオを提案しました」。場所は、渋谷公園通りに面したビルの1階。収録のない時間には、さまざまなイベントが行われるコミュニケーションスペースとしての機能も備えている。「セットのつくり方も、これまでとは違う方法論で行いました。たとえば、タイアップを採り入れることで、本物志向のよりよいものがつくれるということを示したいと考えたのです」。

誰もが自由に立ち寄ることができるスタジオという特性をいかし、ギャラリーのように、それ自体が作品として魅力ある家具を置くことを提案。女性の視聴者を意識して、落ち着いたヨーロピアンスタイルのデザインがよいと考え、伊藤節・伊藤志信氏の作品に注目したという。「今回はデザイナーとのタイアップという形で作品の展示が実現しました。いくつか置いた作品の中で"OPS SOFA"は異色の存在。ひとつ個性の強いものを置きたいと思って採用しました。デュポン™コーリアン®の持っている"本物感"は今回のコンセプトにもぴったり。伊藤節氏も、加工技術の限界に挑戦したこの作品を、ぜひ多くの人に直接触れて感じてもらいたいと、展示を快諾してくれました」と吉田氏。渋谷散策の折には、ぜひ「WOWOW渋谷ステーション」に立ち寄って、実物を見ていただきたい。

〈表紙の写真〉黒檀＋デュポン™ コーリアン®の箸「森の調べ 湖」¥5,250
新潟県三条市の老舗メーカーが手がける黒檀とデュポン™ コーリアン®の八角箸。塗装をかけず天然木の風合いをそのまま生かした仕上がりと、コーリアン®の無垢な質感がバランスよくなじみ高級感を漂わせる逸品。パリのメゾン・エ・オブジェなどにも出品されている。
（問）マルナオ株式会社 -MARUNAO-　http://www.marunao.com　TEL.0256-34-3741

三菱レイヨン　DUPONT® 合弁事業 MRC・デュポン株式会社

本　社：〒107-0062
東京都港区南青山1丁目15番9号 第45興和ビル
TEL: (03)5410-8551　FAX: (03)5410-8501

URL:http://www.dupont-corian.net

CN96-2012.03 8.5M DP　©MRC・デュポン株式会社　著作権：いかなる形式においても許可無く、本書の一部又は全部の複製を禁じます。©2012 DuPont-MRC Co., Ltd., JAPAN. All rights reserved.
"CORIAN®" 及び "コーリアン®" は、米国デュポン社の登録商標です。＊はMRC・デュポン社の登録商標［シリーズ名］です。

屋外

多様な生物が集う楽園空間がオフィスワーカーの憩いの場に

［住友商事八重洲ビル］

写真撮影：鈴木 研一

[住友商事八重洲ビル]

所在地
東京都中央区京橋 1-13-1

施主
住友商事株式会社

屋上面積（屋上庭園）
約335㎡

設計・監理
株式会社日建設計
（佐藤 健、竹内 跡）

屋上設計
株式会社ランドスケープ・プラス
（平賀 達也、小林 亮太）

施工
前田建設工業株式会社

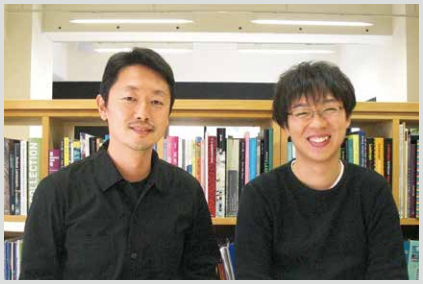
デュポン™ コーリアン®加工協力会社
株式会社エイペクス

使用された
デュポン™コーリアン®

カメオホワイト

住友商事八重洲ビル外観

▲有機的な曲線は上から見ても楽しい。展望デッキからは東京スカイツリーも見える。



ランドスケープ・プラス代表の平賀 達也氏（左）と設計担当の小林 亮太氏（右）

▲バーベキューコーナーには心地よい木陰ができ、ベンチと同じカメオホワイトでつくられた屋外シンクも設置されている。

空に向かって枝を広げ、鮮やかな花を咲かせるサルスベリ。鳥たちが集まり、何十種もの草木がのびのびと育ち、その陰には大小さまざまな生きものたちの存在を感じる。複雑な曲線を描いて広場を囲むように配置されたデュポン™ コーリアン®のベンチではランチや休憩の時間に、思い思いのひとときを過ごせる。そんな楽園のような空間が、東京駅にほど近いビルの屋上に広がっていた。

住友商事八重洲ビルは2011年1月に竣工した地上10階建てのオフィスビルだ。この屋上庭園の設計を手がけた株式会社ランドスケープ・プラスの平賀達也氏にお話をうかがった。「東京都は、東京湾を起点に、皇居、新宿御苑、明治神宮といった都内の大規模緑地を街路樹などでつなぎ、海の風を都心部へ引き込むという計画を進めています。その周辺で多くの再開発計画を進めている住友商事さんも、屋上緑化などで緑のネットワークを築く計画を立ちあげており、この屋上庭園もその一環として位置づけられています」。

植栽には、利根川流域で育てた材料のみを採用。東京の中心にありながら、多様な生態系を守り続けている皇居の森をお手本に、日本固有の鳥や虫が飛来しやすい緑地にするためだ。「見た目優先なら、冬でも色みのある外来種なのですが、社会に貢献できる緑地をつくることが、ビルの価値も高めるはずだと考えています」と平賀氏。

世界的にも注目されている生物多様性を意識して計画された屋上庭園のベンチは「バイオミミクリー（生物模倣）」をコンセプトにデザインされている。「ビルというのは、かなり直線的で機能的なものですから、屋上にはなるべく正反対の空間をつくりたいと考えました。バイオミミクリーとは、自然界の中にある形をデザインの中に採り込んで、快適性を表現していくというもの。例えば水と陸の境界も、複雑な形になっているほうが生物にとって快適なコロニーがたくさんできて、豊かな生態系が育まれるそうです」。

対象となる土地の持つ歴史的な背景や地形、社会的な意味を大切に、その場所でなければ実現できないランドスケープをデザインする平賀氏にとって、描いた世界観を自在に表現できる素材を選ぶことも、また、重要であるという。

「今回は、有機的な連続性が表現できる素材を、ということでコーリアン®を選びました。柔らかい曲面をつくることができて、アールの部分のエッジをとるなどの細かい仕上げができる材料というと限られるんですよね。工場である程度加工ができるので、高い精度でデザインを再現できることも安心材料でした」。

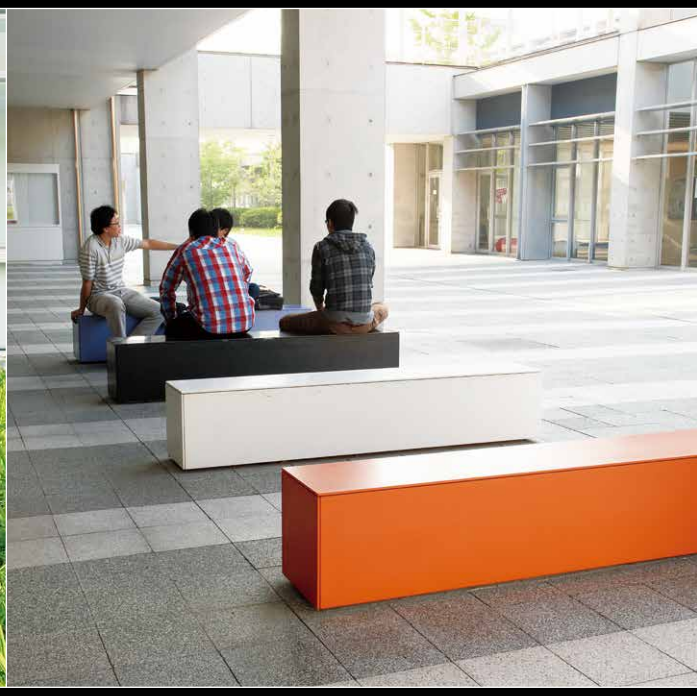
現在、すぐ近くのエリアで同じテーマの屋上庭園を手掛けているという平賀氏。「頭の上にこんもりと緑が茂って、鳥が行き来できるようなビルが、たくさん増えていくといいですね」と語ってくださった。

街に、人に、風景になじむ デュポン™ コーリアン®のベンチ

屋外

▲銀座三井ビルディング／（左下）外構に置かれた円盤状の「フローティングディスク」などがデュポン™ コーリアン®で製作された。使用色はカメオホワイト、サテングレー（写真は竣工時撮影）。（上、右下）6 年たった今も竣工時と変わらない美しさが保たれ、近隣で働く人々の憩いの場になっている（2011 年撮影）。

▲ラゾーナ川崎プラザ／（右）子ども連れのファミリーを中心に幅広い世代の人々が集う色とりどりのベンチ。有機的なフォルムの「自然のベンチ」。（左上）川崎の街のスカイラインをかたどった「都市のベンチ」。（左下）カップルのための特等席「ラブベンチ」。使用色はサテングレー、カメオホワイト、ノクターン、ホット、マンダリン、サンほか（すべて 2011 年撮影）。



▲北九州学術研究都市・早稲田大学大学院／（右・左）キャンパス内にはデュポン ™ コーリアン®でつくられたカラフルなベンチが点在。長方形や正方形の箱のようなデザインは重さを感じさせず、大学キャンパスのはつらつとした雰囲気にぴったり。学生たちのちょうどよい居場所になっている。グレイシアホワイト、マンダリン、ノクターンほか（すべて 2011 年撮影）。

〈ご注意〉※濃色系のデュポン™ コーリアン®は、日当たりの良いところで使用した場合、表面が高温になることがあります。また、屋外の使用環境によっては、退色することがあります。退色の度合いは色によって異なります。

香港発・変幻自在なコーリアン®製ベンチ

2009年に香港で開催された建築・都市計画ビエンナーレ「アーバンピクニックプロジェクト」では、香港を拠点として活躍する建築デザイナー・ジェイソン・カーロウ（写真）がデザインした、コーリアン®と竹の化粧合板を組み合わせたベンチが展示された。ベンチといっても、ただ座るだけでなく、その場の状況やプログラムに応じてパーツを回したり、つないだりすることで、寝椅子やテーブルなどにも、自在に変化させることができるユニークな作品だ。

光

最先端の技術と情報を発信する研究施設のコンセプトを光の波紋で表現

［デュポン エレクトロニクスセンター］

▲曲げ加工、象嵌、光の透過と、デュポン™コーリアン®の特長を最大限に活かしてデザインされたコンセプトウォール。グラフィック部分はステッカー。ウォール全体は背面から頑丈な支柱で支えられているが、その構造をリブ材で隠すことで、幅約４メートルもの大きさを感じさせず、まるで浮いているように見せている。

デュポン社の国内における研究開発と情報発信の拠点

かながわサイエンスパークにある「デュポン エレクトロニクスセンター（DEC）」は、デュポン株式会社のエレクトロニクス分野の４つの事業部が複数集まった研究開発拠点のひとつだ。各事業部のオフィス&ラボがあり、100人以上のスタッフが勤務している。

２011年９月、このDECが拡張リニューアルされたことに伴い、新たにセンター全体のエントランス空間が設けられた。その中心には、デュポン™コーリアン®でつくられた、大きなコンセプトウォールが掲げられている。

「DECの役割としては、デュポンのエレクトロニクス分野の中核を担う研究開発の場であると同時に、他分野の事業部や外部の機関、例えば大学や研究所、デュポングループ内の研究開発組織などと協調しあい、新しい成果をあげることができる情報拠点として機能するよう位置づけられています」と、デュポン株式会社電子材料事業技術開発部の北垣高志氏。エントランス空間全体が、波紋をモチーフにデザインされているのも「ネットワーク」や「協調」を表現したものだ。

また、エレクトロニクス関連の各事業部で扱う製品や材料が非常に多岐にわたるため、DECを訪れる取引先や研究者の方たちにとって、DEC内では他にどのような研究開発が行われているのか具体的にわかりにくいという課題があった。そこで、エントランスからオフィス空間へと続く通路を活用して、デュポン全体の事業説明とDECの説明、さらに各事業部の製品や技術を紹介する展示コーナーも新たに設けられた。「この空間が、新しいビジネスネットワークが広がるきっかけになればと考えています」と北垣氏。

センターの顔となる印象的な造形と表現

今回のリニューアルにあたり内装設計を担当された株式会社丹青社のデザインディレクターである半田亘氏と、デザイナーの海老根浩子氏にもお話をうかがった。

「DECの役割についてお話をうかがい、ここから『情報の波紋』が広がっていくイメージを空間全体を

［デュポン
エレクトロニクスセンター］

神奈川県川崎市高津区坂戸 3-2-1
かながわサイエンスパーク（KSP）

改装竣工　2011年9月

改装床面積
全体1,357㎡　エントランス部105㎡

設計・施工　株式会社テクノ菱和

エントランス部分 設計・施工
株式会社丹青社

コンセプトウォール製作・施工
株式会社代田橋製作所

デュポン™ コーリアン®加工協力会社
大日化成工業株式会社

**使用された
デュポン™コーリアン®**

グラーサ* ソリッドホワイト

グレイシアホワイト

ビーチグラス

（上）青いLEDを消したところ。（下左）曲面に象嵌を施す加工が技術面で一番配慮を要した。
（下右）ウォール自体の厚みはコーリアン®を２枚分程度。その中にLEDライトが仕込まれている。

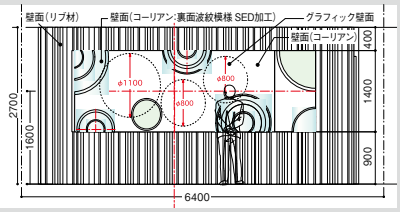
使って表現しましょうと、今回のデザインコンセプトをご提案しました。さらにこの波紋は、施設としての意味合いを表現すると同時に、エントランスを中心に、左右にオフィススペースが配置されているという空間的な広がりも表現しています」と半田氏。

エントランスについては、センターの顔となるスペースにしたいというクライアントからの要望があったが、利用できるスペース自体はあまり広くなく、さらに変形していたため、できることは限られていた。「当初は映像のモニターやデュポン社のロゴサインを置くことなども検討しましたが、施設としてのコンセプトをひと目でわかっていただけるような場所にするのがよいだろうということで、正面の壁を利用したコンセプトウォールを設けることになりました」と半田氏。

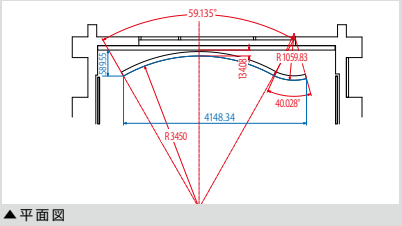
ある程度の大きさがあり、立体感を感じられるデザインにということで、大きな曲線を描く幅約4メートル×高さ1.4メートルのデュポン™コーリアン®製のウォールが計画された。「造形については、コーリアン®の特長を生かせるように、大きな面でアールを描くデザインにしました。また、象嵌加工ができること、光が透過することなどを踏まえて、今回のデザインコンセプトである波紋のイメージを膨らませて表現しました」と海老根氏。

やわらかな曲線と透過する光、背面の壁と一体化してまるで浮いているかのように見えるコーリアン®のコンセプトウォールは、波紋が軽やかに広がっていく様子を見事に表現している。

▲株式会社丹青社 デザインディレクター 半田亘氏（左）、デザイナー 海老根浩子氏（右）



▲立面図



▲平面図

光

九州の自然をテーマにしたガーデンで静かに光と水をたたえる水盤

［シティダイニング くうてん］

［シティダイニング くうてん］

所在地
福岡県福岡市博多区博多駅中央街 1-1
アミュプラザ博多 9・10 階

経営者
博多ターミナルビル株式会社

竣工年月
2011 年 2 月

面積（ガーデン）
約 550㎡

内装設計
乃村工藝社

デュポン™ コーリアン®加工協力会社
ワールド産業株式会社

使用された
デュポン™コーリアン®

グラーサ*ホワイト

2011年3月にオープンしたJR博多駅直結の「アミュプラザ博多」。その9・10階にあるレストランゾーン「シティダイニング くうてん」には、大小32か所のインドアガーデンが設けられている。すべて本物の植物で、九州のさまざまなエリアの自然を現したというガーデンのひとつに、静かに水を湛えて光るデュポン™ コーリアン®製の水盤が置かれていた。

「シティダイニング くうてんは、博多の新しい顔となる駅ビルの最上階2フロアに位置しています。大回廊をメインストリートとして、要所に緑あふれるガーデンが設けられています。また、9階の吹き抜けと10階のトップライトがオーバーラップして配置されることで、2フロアの共有部分が、光と緑で有機的につなげられています」と説明してくださったのは、FFE設計を手がけた乃村工藝社の安藤陽介氏。さまざまな機能が集まる駅ビルの中でも、シンボルゾーンとなるような個性的な空間デザインに、という施主の要望と、事前のリサーチ調査で多かった「緑の多い居心地のよい環境」を求める声に応え、大規模な植栽で演出された空間が完成した。

「水盤については、装飾的な表現を排したシンプルなひとつの塊としての表現を心がけ、そのものの形ではなく、光り方や水の流れなどの"現象"が際立って見えるようなあり方を目指しました」と安藤氏。そこで、ソリッドな仕上がりを可能にする加工性や、柔らかく光る照明器具に必要な透光性を持つデュポン™ コーリアン®が素材に選ばれた。デザイン意図をお聞きして、実物を見ると、決して小さくはない水盤そのものの存在感よりも、美しく溢れる水と光のはかなさや優しさを感じることができた。

▲植栽の間に置かれたフロアランプもコーリアン®製。浮いているように見える。

▲周囲が暗くなると、水盤が内側から発光している様子がよくわかる。

日本全国の食文化を応援する企業の活気と遊び心を表現した受付カウンター

［ぐるなび大阪営業所］

［ぐるなび大阪営業所］

施主　株式会社ぐるなび

www.gnavi.co.jp

所在地
大阪市北区梅田３丁目１番地３号
ノースゲートビルディング 15F

移転開設　2011年6月

プロデュース　株式会社内田洋行

設計　パワープレイス株式会社

施工　株式会社ウチダテクノ

デュポン™ コーリアン®加工協力
株式会社エイペクス

使用された
デュポン™コーリアン®

グレイシアホワイト

ホット

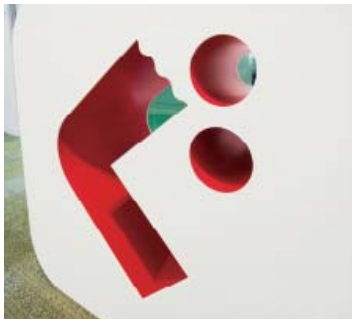
2011年6月、リニューアルオープンしたばかりの大阪駅直結のノースゲートビルディングに、株式会社ぐるなび大阪営業所が移転。その受付カウンターが、デュポン™コーリアン®でつくられた。

応接3室が隣接し、待合スペースのあるオフィスのエントランスは、「食」の源となる、大地と空をイメージさせるグリーンとブルーを基調色に。そこに、ロゴマークから取り出した「ぐ」の字をかたどった受付カウンターが置かれている。

「予算やスペースに限りのある中でも、大阪らしく、遊び心があって、活気のある会社の雰囲気を直感的に伝えられるようなものにしてほしいとお願いしました」とおっしゃるのは、株式会社ぐるなび管理本部の小川浩司氏。今回、オフィスの内装を手がけたのは株式会社内田洋行。デザインは、関連会社であるパワープレイス株式会社が担当した。「小口の処理がシームレスにできるという加工性と、コーポレートカラーに近い色があったこと、メンテナンス性などの理由でデュポン™コーリアン®を採用しました」とパワープレイス株式会社の渡辺充氏。

「単なる受付のカウンターではなく、大阪営業所の顔になるもの、オブジェ的な要素も持ち合わせるので、しっかりしたものをつくりたいということでしたので、素材にもしっかりしたものを使おうということで、コーリアン®をご提案しました」と株式会社内田洋行の寺門創氏。

また、汚れや傷が落としやすく、耐久性に優れていることが、長い目でみればコストパフォーマンスの高さにつながると判断されたことも、採用理由のひとつのようだ。



▲文字の部分を抜くことで厚みを感じさせ、背後のオフィスエリアとのつながり感も演出。

▲左から、パワープレイス株式会社 渡辺充氏、株式会社ぐるなび 小川浩司氏、株式会社内田洋行 寺門創氏。

真っ白な食器を引き立て 美しい時間を生みだす漆黒の大テーブル

［居酒屋　東京十月］

［居酒屋　東京十月］

経営
株式会社アーツ&カルチャルマネジメント社

www.tokyo-jugatsu.com

所在地
東京都港区南青山 5-7-17
小原流会館 B1

事業内容
アルゼンチンワインバー

デザイン
アンテ・ヴォジュノヴィック

設計・製作
アッシュ・ペー・フランス株式会社

デュポン™コーリアン®加工協力
株式会社エイペクス

使用された
デュポン™コーリアン®

ノクターン

南青山にある「居酒屋 東京十月」は、アルゼンチンワインと小皿料理を饗する大人のためのバール。もともと1975年にオープンした老舗しゃぶしゃぶ店であった店内は、柱や梁にヒノキやケヤキの大木を用いた日本建築のようなつくり。「非常にメンテナンスが行き届いており、ほとんどがそのまま利用できる状態でした。そこで、既存の内装を活かし、現代感覚を採り入れた店づくりをしたいと考えました」とおっしゃるのは、「居酒屋 東京十月」を運営する株式会社アーツ&カルチャルマネジメント社の代表取締役・埜田容生氏。インテリアは、ファッション、アート、空間設計も手がけるアッシュ・ペー・フランス株式会社に依頼。店の中央でひときわ目をひく大テーブルは、フランス人彫刻家のアンテ・ヴォジュノヴィック氏がデザイン。アスティエ・ド・ヴィラットの真っ白な食器を引き立てる漆黒の天板はデュポン™ コーリアン®ノクターンだ。テーブルの中央には大きな水盤が据えられ、美しい波紋を描きながら、静かに水が流れている。

素材については、ヴォジュノヴィック氏からの提案であったが、メンテナンス面での不安もあったという。「店内の既存部分の重厚感と風格に負けない素材、ということではコーリアン®以外は考えられませんでした。また、循環式ポンプを用いた水の流れるシステムを構造に組み込むので、防水性、加工性などの条件でもぴったりでした。ただし、素焼きの食器を使用するため、傷がつきやすいのではないかということと、指紋や脂の心配もありました」と埜田氏。だが、さまざまな条件を総合的に判断し、採用に踏み切った。実際に使い始めると、指紋や脂は拭き掃除でとることができているという。また、細かい傷は使い込んだ漆器のような味わいとなり、築36年のリノベーション物件である店内の雰囲気にもしっくりと馴染んでいる。埜田氏も「使いはじめて約1年ですが、コーリアン®にして本当によかったと実感しています」と語ってくださった。

▲ 静かに流れる水の音がBGMに。

働く人、暮らす人が行き交う広場で憩いとくつろぎを提供する白いベンチ

［豊洲フロント］

▲豊洲フロントが立つ「豊洲３街区」では『グリーングローブ～豊洲の中心に森を創る～』をキーワードに街区全体で都市計画を行っている。豊洲フロント敷地内の「カルチャーパス」に置かれたデュポン™ コーリアン® 製のアートファニチャーは、1800mm×1800mm の正方形でゆったりとした大きさ。夜間は内部に設置した LED が点灯し、ベンチ全体が光る。

昼と夜で表情を変えるアートファニチャー

豊洲エリアの新しいランドマークとなる大規模オフィスビル「豊洲フロント」が2010年8月に竣工。そのランドスケープの一部として、デュポン™ コーリアン®製のベンチが置かれた。そこで、ランドスケープの設計監理を手がけた株式会社三菱地所設計のご担当者にお話をうかがった。

豊洲フロントは、このエリアのメインである晴海通りと、その反対側のけやき通りに面して立っている。この二つの道路を結ぶ歩行者専用空間「カルチャーパス」が、敷地内につくられた。「住宅、商業施設、学校、そしてオフィスと、いろいろな機能が詰まった複合的な都市ですので、さまざまな方が楽しみながら歩ける散策路をイメージしました。また、賑わいを演出しながら、ちょっと休んでいただける場所にもなるように、数種類のアートファニチャーをつくりました。デュポン™ コーリアン®で製作したものは、ベンチというより、縁台のようなイメージで自由に使っていただけるデザインです」と、設計を担当した萩原麻衣子氏。

グラーサ* ホワイトでつくられた正方形のベンチの中には、LED照明が設置され、夜になるとベンチ全体が光るように設計されている。「素材選定では、緑に映える素材にしたいと考え、計画初期段階からデュポン™ コーリアン®を考えていました。さらに透光性もあることから、光るベンチを設計協力のプレイスメディアと共に発想しました」と萩原氏。

ベンチの製作にあたっては、いくつもの試作をつくり、検証を重ねたという。「光の透過具合を見ながら、コーリアンの厚みやLEDとの距離を検討しました。アクリル板でつくった骨組みは、子どもだけでなく大人が乗って飛び跳ねても安心な強度を持たせるために、どのぐらいのピッチにするか、また、骨組みが目立たないようにするには、透明のものがいいのか、乳板がいいのか、など繰り返し調整しました」と話してくださったのは、同じく設計担当の松榮宏幸氏だ。ほかにも、子どもたちが乗って遊ぶことも想定して防滑処理を施し、雨水が貯まらないようにわずかな勾配をつけるなど、きめ細かい配慮がされている。

［豊洲フロント］

所在地
東京都江東区豊洲 3-2-20

事業主
株式会社IHI、豊洲３の１特定目的会社

敷地面積
13,700㎡

延床面積
106,860.72㎡

設計監理
株式会社三菱地所設計

設計協力
株式会社プレイスメディア

施工
鹿島建設株式会社

使用された
デュポン™コーリアン®

グラーサ*ホワイト

▲右／LEDが点灯していないときには、よりソリッド感が際立つ。左／けやき通りに面したウッドデッキの広場には木を囲むようにベンチが置かれている。天気の良い日中のほか、夜も照明の効果でベンチ座面に木陰ができる。

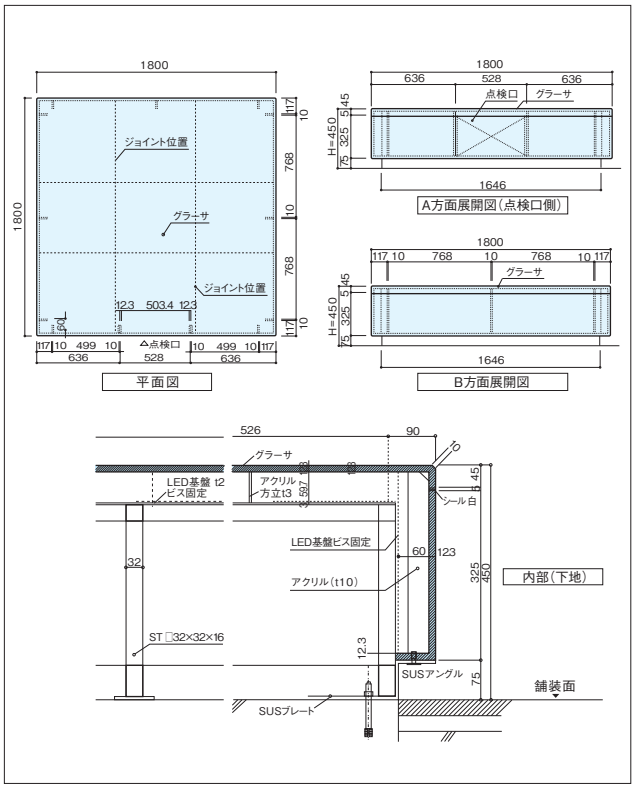
▲小さい子ども連れのお母さんたちの利用も想定して、ベビーカーを横に置けるようにベンチの間隔を広く開けている。さらに広くとってあるところは、車いすが入れるバリアフリー設計。テーブルとベンチの脚部は鋼板メッキ仕上げ。

交流や語らいが生まれる住む人のための場所

一方、けやき通りに面し、ビル前の広場には、広いウッドデッキが配され、こちらにもデュポン™コーリアン®製のテーブルとベンチが配置されている。

「けやき通りに対面している街区には集合住宅と公園があります。そこで、こちら側は住んでいる方を意識し、開けた空間にしようと計画しました。買い物や公園にきた人の休憩場所になれば」と萩原氏。樹木を囲むように配置されたベンチやテーブルには、アートファニチャーと同じグラーサ*ホワイトを採用。「全体の統一感という意味もありますが、飲食する可能性がある場所で、長期的に清潔に、清掃もしやすくて、衛生的に使える素材ということで、コーリアン®を採用しました」。

お話を聞くほどに、豊洲フロントのベンチは、さまざまな使われ方と条件を検証し、緻密に設計されたものであることを実感する。そして、きめ細かい検証をクリアして、ベンチの素材として採用された事実は、デュポン™コーリアン®の活躍の場が、今後さらに広がっていくという予感をもたらしてくれた。



▲店舗のエントランス付近に配置されたバーカウンター。足元にはLEDライトを仕込んで軽さを演出。営業中は、前を通る人たちに陽気なバリスタがカウンターの中から声をかける。

北欧のポップなデザインが溢れるカフェレストラン

［デンマーク・ザ・ロイヤルカフェ］

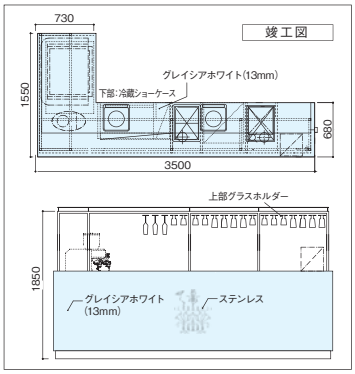
デンマーク・コペンハーゲンからやってきた、ファンタスティックなインテリアの「デンマーク・ザ・ロイヤルカフェ」が銀座三越にオープンした。

「オーナーのルド・クリスチャンセン氏はとても独創的な方で、店舗についてもしっかりした構想をお持ちでした」と話してくださったのは、内装デザインを手がけた株式会社船場のデザイナー丸山弘敏氏。完成した店舗には大きな木がそびえ立ち、カラフルなアートウォールやディスプレイで空間が彩られている。「全体的に要素が多いので、カウンターはプレーンにして調和をとろうと考えました。素材についても、シームレスにできるものがよかったのでデュポン™コーリアン®を提案しました」。

店内には、デュポン™コーリアン®製のカウンターが二つ置かれているがそのうちバーカウンターには、ステンレスを埋め込んだ繊細な象嵌が施されている。

▲反対側の入り口にはショーケースと一体化したレジカウンターを配置。多様な機能を内包しながらすっきりと見せている。

「ステンレス部分にはアクリル板を重ねて、コーリアン®との厚みの差を調整しています。はじめて挑戦した処理なので、どこまでの精度がだせるか心配でしたが、きれいにできましたね」と丸山氏。その完成度の高い仕上がりに、デュポン™コーリアン®の加工性をあらためて実感する事例でもあった。



［デンマーク・ザ・ロイヤルカフェ］

経営：RCダイニング株式会社

所在地：東京都中央区銀座4-6-16
銀座三越1階
TEL：03-3561-7018

営業時間：10:00～23:00　不定休

内装デザイン：株式会社船場

什器製作：真栄工芸株式会社

使用された
デュポン™コーリアン®

グレイシアホワイト

株式会社船場　第1事業本部
設計ディビジョン　デザイナー　丸山弘敏氏

石けんの泡のように白く、やわらかく

［花王本社ロビー］

▲曲線のパーティションはすべてデュポン™コーリアン®グレイシアホワイトでつくられている。外周約50m、高さは一番高いところで150cm、低いところは50cmと高低差がある。また、トップが内側に傾斜している部分もあり、かなり複雑な形状。すべてをスムーズに、シームレスにつなげることで自然な動きを感じる仕上がりに。

企業イメージを牽引する新社屋のロビー

2010年5月、花王株式会社は日本橋茅場町1丁目交差点に面するオフィスビル・澁澤シティプレイスA棟に本社を移転した。

この移転にあたり大改修された新社屋ロビーに足を踏み入れると誰もが驚くはずだ。総合受付から廊下を通り、その奥へと進んでいくと、そこは壁、床、天井も真っ白な空間。光と曲線の効果的な演出で境目は曖昧になり、まるで異次元に紛れ込んだ気分を味わう。

中央に配置されているのは、巨大なバスタブのようであり、石けんの泡や、流れる液体のようにも見えるパーティションだ。この曲線が美しいオブジェのようなパーティションは、デュポン™コーリアン®でつくられている。その周りにはテーブルとチェアが置かれ、オープンミーティングスペースとして使用できる。さらに、この空間を取り囲むように、個室の会議室が配置されているのだが、部屋ごとにテーマがあり、全く違う個性が楽しめるインテリアになっている。綿密なデザインワークは壁や床や照明のみにとどまらず、テーブルやミーティングボードまでオリジナルで製作するという凝りようだ。

「改修にあたり大切に考えたのは、企業の顔となる本社ロビーですので、これからの花王の企業イメージを牽引するようなブランディングスペースとなることです。同時に高いホスピタリティを確保すること。更に社員のモチベーションとクリエイティビティ向上が図れるような会議空間となること。これらを目指し、上質で先進性を感じさせる斬新な意匠を採用しました。またデザイナーの細部に渡るこだわりを尊重・信頼することで、高いクリエイティブの実現を目指しました」とおっしゃるのは、花王株式会社コーポレートコミュニケーション部門 企業文化情報部 シニアクリエイティブディレクターの大森文樹氏。インテリアデザインを手がけたのは、神山和裕氏と堀川純一氏のユニット「HaKo Design（ハコデザイン）」だ。

「デザインコンセプトをまとめる上で、花王グループの今後の方向性として掲げられている"グローバル化"や"エコロジー"といったキーワードも意識しました」と神山氏。

[花王本社ロビー]

施主
花王株式会社

所在地
東京都中央区日本橋茅場町 1-14-10

工事種別：内装のみ

移転開設：2010年5月

プロデュース
凸版印刷株式会社

設計
HaKo Design
（神山和裕・堀川純一）
www.hakodesign.com

PM・設計アシスタント
PIKE INC.
（樋口桃子・稲継恵祐・板垣芳典）

施工
株式会社エス・ピー・ディー明治

デュポン™ コーリアン® 加工協力
株式会社インテック

使用された
デュポン™コーリアン®

グレイシアホワイト

《写真》
上／エコロジー活動に積極的に取り組んでいる企業姿勢を意識して、自然をモチーフにした意匠も随所にちりばめられた。待合の壁には、デュポン ™ コーリアン ® の端材を木の形にカットしたものが壁紙の模様のように貼られている。

右／まるで宙に浮いているように見える鋭角の固まりは、長いテーブルの端の部分。足下に照明が仕込まれている。

左／ロビースペースの一部はショールームを兼ね、商品が陳列されている。センターに置かれたカウンターもデュポン ™ コーリアン ® 製。照明効果で浮遊感を演出している。

スムーズでやわらかく“白らしい白”を求めて

「素材と色の選定については、やはりまず企業のイメージカラーといってもよい“白”にこだわって決めていきました。白の中でも、やわらかさやなめらかさ、ツヤ感のあるものを、ということで、空間全体では、いくつかテクスチャーの違う素材を組み合わせて使用しています」。

ツヤ感を強調したい場所には、金属に鏡面塗装をほどこしたものを、間接照明とのコラボレーションでやわらかさを演出した壁面には漆喰と、さまざまな白い素材を使い分けている。「パーティションには、スムーズでシームレスな形状をつくることができる素材を、ということでデュポン™ コーリアン®を採用しました。色については、最も“白らしい白”と感じるグレイシアホワイトを選んでいます。あまり透光性がありすぎると、下地が見えてしまいますが、グレイシアホワイトはそれほどの透け感はないのに、透明感があり、深みのある白だと感じます」と神山氏。

花王株式会社の大森氏も、これまでに店頭向け什器やオフィス、企業ミュージアムなどで使用する機会が多く、素材としてデュポン™ コーリアン®をよく知っていただいていたという。「とにかく継ぎ目のない美しい造形を実現できることが魅力だと思います。また、質感が非常になめらかな上、色合いも柔らかく、今回のオフィス空間によく馴染んでいます。メンテナンス性においては、磨くことで何度でも傷や汚れを消すことができることもポイントだと感じています」と大森氏。

さらに神山氏は次のように語ってくれた。「デザイナーならだれもが言うことだと思いますが、やはり加工のしやすさや継ぎ目なく施工できること、光を透すことができること、形状が自由になることというのは、大きな魅力です」。

今回の取材は、発売から45年たった今でも、デュポン™ コーリアン®の基本性能が、他のものに代え難い個性であることをあらためて教えてくれた。

HaKo Design　神山和裕氏／堀川純一氏

写真撮影：Nacása & Partners

潮風が心地よい遊歩道の公園に ふわり浮かぶ真っ白なベンチ

［東京都立シンボルプロムナード公園］

▲お台場・東京都立シンボルプロムナード公園の「副都心広場」に設置されたベンチ。座面はデュポン ™ コーリアン ® カメオホワイトを曲げ加工で製作。脚部分はアルミ鋳物でできている。イベント開催時などは、固定金具をはずせば、移動も可能だ。デュポン ™ コーリアン ® は、これまでにも屋外ベンチでの使用実績があることも、採用の理由のひとつだったという。

［東京都立シンボルプロムナード公園］

所在地
東京都港区台場1丁目・2丁目／
江東区青海1丁目・2丁目／
有明2丁目・3丁目

開園
1996年4月

面積
26.4ヘクタール
（総延長約4キロ）

設計（副都心広場一帯）
株式会社森緑地設計事務所

施工
東武緑地株式会社

ベンチ製作・施工
株式会社中村製作所

デュポン™ コーリアン® 加工協力
株式会社エイペクス

使用されたデュポン™コーリアン®

カメオホワイト

東京ウォーターフロントを代表するレジャースポットとして、一年中多くの人でにぎわうお台場。このエリアにはいくつもの公園が整備されているが、中でも、総延長約4km、面積26.4haという広大な敷地をもつ「シンボルプロムナード公園」は、臨海副都心全体を結びつける歩行者ネットワークの中心にもなっている。平成21年から公園内の中心的広場である副都心広場一帯の本格的な整備が始まり、デュポン™ コーリアン®を使ったベンチが設置された。

「シンボルプロムナード公園は、周辺の魅力的な景観資源を効果的に取り込み、公園内にもさまざまな要素を有機的に取り込むことで、回遊式庭園のような、歩行そのものが楽しみになる空間づくりをめざしました」と話してくださったのは、公園のランドスケープデザインを手がけた森緑地設計事務所の山元誠氏。デザインコンセプトは「すべての施設について、丁寧で質の高いデザイン」「日本の伝統的な空間構成技法の援用」「自然を活かし、街全体の調和と統一を図るデザイン」の3つ。「ベンチについても、これらコンセプトを踏まえた上で、かつては海であった臨海副都心にふさわしく"海"を感じさせるデザインにと考えました。また、戦後に埋め立てられた土地にゼロからできた21世紀の街であることから、使用する材料やデザインには、何か新しい斬新なものが必要であるとも考えました」と山元氏。

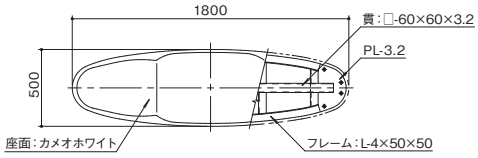
これを受けて、ベンチ製作を担当したのが、公園施設やエクステリア・景観・スポーツ施設の専門メーカーである株式会社中村製作所だ。

「コンセプトをお聞きして、ほかのいくつかの案とともに、このサーフボードをイメージしたデザインをご提案しました」と同社の企画営業次長 泉地善雄氏。「素材に対するご要望としては、2人ぐらいで移動可能な重量、耐久性が高く、補修が可能であることなどが挙げられていました。それに加えて、加工性が高く、デザイン表現の自由度があるデュポン™ コーリアン®がよいのではないかと考えてご提案をしました」と話すのは、同社設計室副室長の岩満恭大氏。ベンチ素材としての斬新性や、デュポン™ コーリアン®の持つ上質感も決め手になったそうだ。

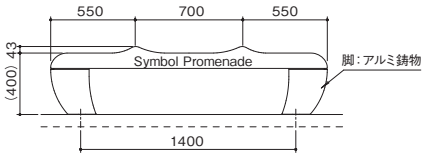
完成したベンチは、サーフボードのようであり、海上に浮かぶ船の帆や雲のようにも見える有機的なデザイン。コーリアン®独特の質感とあいまって、やわらかな印象だ。

「今回、デュポン™ コーリアン®という素材を採用したことで、私たちのデザインやアイデアの幅が広がりました。これからも取り入れていきたい素材ですね」と泉地氏。

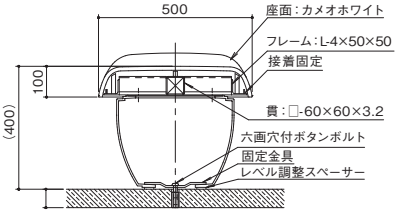
文字部分は擦れて消えてしまわないよう0.5mm彫り込んで塗料で着色。彫りが深すぎてもひっかかりの原因になり、加減が難しい。



平面図



立面図



側断面図

開かれたキャンパス、人を集めるベンチ

［立正大学 熊谷キャンパス］

▲750mm × 3000mm のベンチ 65 台がずらりと並ぶ様子は、屋外教室のよう。丸いテーブルと組み合わせたものが交じっていたり、間に植えられた木が落とす影が時間によって変化するなど、均一に見えて異なる条件を、学生は自由に選んで、好きな場所に集うことができる。すぐ脇には水路が流れ、その対岸にライブ演奏などもできるステージも設けられている。

広大な敷地の中に居場所をつくるベンチ

熊谷駅からバスで10分ほど行くと、約35万㎡の広大な敷地を持つ立正大学の熊谷キャンパスが見えてくる。現在、大規模な再開発プロジェクトが進行中で、第一期工事が今年の6月に完成する予定だという。このキャンパス内に、かなりの数のデュポン™ コーリアン® 製のベンチが置かれている。屋外でこれほど大々的にコーリアン®が使用されるのは初めてのことだ。そこで、再開発プロジェクトの設計を手がけた石本建築事務所の榊原由紀子氏と、ランドスケープデザインのオンサイト計画設計事務所の長谷川浩己氏にお話をうかがった。

「熊谷キャンパスは昭和40年頃に開設され、その後、少しずつ増築を繰り返すうちに、いろいろな機能が分散してしまいました。建物の老朽化が進んだこともあり、再開発のプロジェクトの話がもちあがりました」と話してくださったのは、石本建築事務所の榊原由紀子氏。「今回のテーマは『分散から融合へ』です。老朽化した建物を整理し、空いたスペースを広場にするなど、ランドスケープを整えることも大きな目的です。大学側からもランドスケープという観点からもキャンパスを整備したいという意向がありましたので、プロポーザル段階から、オンサイトさんに参加してもらいました」。

第一期工事では、いくつかの建物を新校舎に集約し、同時に敷地内に緑豊かな森を有する立地条件を活かして「水路」や「森のゾーン」「林の広場」などが計画された。デュポン™ コーリアン® のベンチは、キャンパスの中心に配置された中央広場など3か所に置かれている。

「旧い建物を整理してできたオープンスペースはかなり広いものでした。茫漠とした空間になってしまうと学生が分散してしまうと思いましたので、ある程度、機能をかためて拠点をつくることにしました」とオンサイト計画設計事務所の長谷川浩己氏。「ベンチがあって、木が生えていて、何かアクティビティが発生する。学生にとって"居場所"になる"島"のような空間を、広場内の3か所に作りました」。

キャンパスの中心的な建物「アカデミックキューブ」前には、松の木の間を縫うように配置された曲線のテーブルと丸椅子。水路沿いの一角

［立正大学 熊谷キャンパス］

所在地
埼玉県熊谷市万吉 1700

敷地面積
約35万m²

設計
株式会社石本建築事務所

施工
大成建設株式会社

ランドスケープデザイン
オンサイト計画設計事務所

ベンチ・テーブル製作・施工
株式会社ユー・ビー・コム

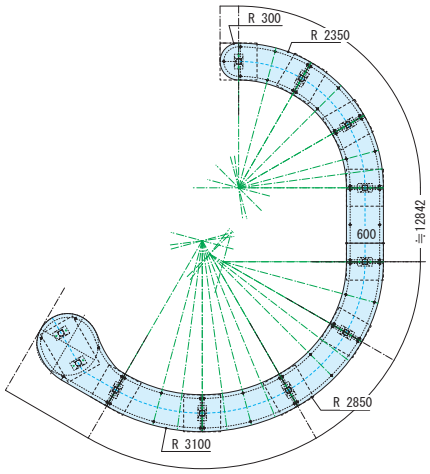
デュポン™ コーリアン® 加工協力
株式会社エイペクス

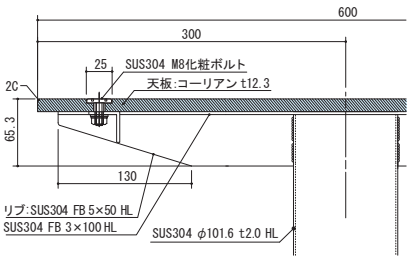
▲等間隔に空いているのは水きり穴。十分な大きさがあるので座る、横になる、物を置くなど使い方も自由だ。

▲コンクリートのスツールも、座ったときの冷たさをなくすため座面にはデュポン ™ コーリアン® を採用。

今回使用された
デュポン™コーリアン®

カメオホワイト
ほか





《テーブル施工図面》
出図：株式会社ユー・ビー・コム

には、一脚がシングルベッドほどの大きさがあるベンチが整列し、テニスコートや3on3のコートがある運動広場にも、コートを囲むようにフラットベンチが配置された。

ローメンテナンスでも長く美しく保てる素材

「これだけ大々的にデュポン™コーリアン®を使用したのは、僕らの事務所としてもはじめてです。外部でテーブルやベンチに使えて、耐久性のある素材というのは、意外に限られています。コーリアン®は、屋外での使用実績もありますし、触った時に冷たさが少ないところもベンチに向いていますね」と長谷川氏。

長谷川浩己氏
オンサイト計画設計事務所
代表取締役

榊原由紀子氏
石本建築事務所
プロジェクト推進室
設計主幹

汚れが落としやすい点も、外部で使用する上では重要なポイントだったそうだ。「学校などの施設は、必ずしもハイメンテナンスとは限らないので、コーリアン®のようにさっと拭いてきれいになる素材は理想的です」と榊原氏。「ランドスケープが整備され、ベンチができてからは、学生が待ち合わせや休憩に利用してくれているようです。近所の方が子ども連れで散歩に来ているところも見かけるようになりました」。『地域に開かれたキャンパス』となることも、大学側の要望のひとつだったそうだ。学生が自然に集まるランドスケープデザインは、近隣にお住まいの方にとっても、散歩の途中にふと立ち寄りたくなるような、居場所を提供しているようだ。

▲松の木立の間を縫うように配置された曲線のテーブル。端の部分は膨らんで丸テーブルのようにデザインされている

都市と人をつなぎ、機能とデザインがつながるホテル

［ナインアワーズ 京都寺町］

[ナインアワーズ 京都寺町]

経営者　株式会社キュービック

所在地
京都府京都市下京区寺町通
四条下ル貞安前之町 588
TEL：075-353-9005
http://9hours.jp

床面積　906.39㎡（地上９階建て）

クリエイティブディレクション・
プロダクトデザイン
柴田文江

サイン＆グラフィックデザイン
廣村正彰

インテリアデザイン
中村隆秋

建築設計
株式会社シグマ設計事務所

協力 パナソニック電工株式会社（照明）、
株式会社コトブキ（カプセル）

施工　株式会社間組

デュポン™コーリアン®加工施工会社
有限会社ネクストネット

今回使用された
デュポン™コーリアン®

カメオホワイト

▲シャワーブース前のタオルラック。壁から突き出ているようなデザイン。エジプト綿（長繊維）のタオルを採用するこだわりも。

▲ラウンジはカウンターテーブルにデュポン™コーリアン®を使用。一人分ずつトレーのようにトップを薄く彫り込んである。

「ナインアワーズ」は、2009年12月に京都に誕生した新しいホテル。名前の由来は、シャワー1時間、睡眠7時間、身支度1時間で合計9時間という、宿泊施設を利用する際に最低限必要な機能と時間からきている。形状としては、カプセル型の宿泊施設だが、コンセプト段階からデザイナーチームが関わって、オリジナルのカプセルユニット（スリーピングポット）のデザインから、タオル、ウエア、アメニティまで徹底的にこだわり、短い滞在時間をいかに心地よくし、質の高い眠りを得られるかを追求している。

この「ナインアワーズ」では、チェックインカウンターや洗面化粧台などさまざまなところに、デュポン™コーリアン®が採用された。その理由を、クリエイティブディレクションを担当されたプロダクトデザイナーの柴田文江氏と、インテリアデザインを手がけた中村隆秋氏にうかがった。

「最初に、自然界にある巣穴や穴をイメージして、壁に穴が空いているかのようにカプセルユニットを並べたいと伝えたら、中村さんが『シームレス』というキーワードをくれたんです」と柴田氏。その後、『シームレス』は重要なキーワードとなり、インテリアデザイン、サイングラフィック、機能デザイン、そして互いの領域を超えてコラボレーションするデザインチームの活動にも反映された。

『シームレス』な素材として、デュポン™コーリアン®を選んだのは中村氏だが、継ぎ目がなく加工できて、形の自由度があるデュポン™コーリアン®は、プロダクトデザイナーの柴田氏にもなじみやすい素材だったという。「硬質感があるのに、柔らかさも表現できるのもいいですね。使えるところはすべて使いたかったぐらい、ナインアワーズのコンセプトを表現するには重要な素材でした」と柴田氏。

「機能と空間とサインをすべて一体化させることを目指してデザインをしました。そこに立つと何をするのかがすぐに分かるようになっています」と中村氏。「コンセプトが固まると、かなり早い段階からデュポン™コーリアン®を使うことを考えました。小口の処理などを考えずにすむ加工性も重要でした」。多くの人が利用するホテルという場所柄、ハードな使われ方にもたえうるメンテナンス性もニーズに合っていたそうだ。

「建築そのものをプロダクトとして作りたいという柴田さんの意向もあり、出隅・入隅にアールをとってソリッド感を出す処理などをしています。そういったデザインも、コーリアン®を使うことが決まっていたので、できたことだと思います」と中村氏。

『素材とデザインの一体化＝シームレス』という点でも、デュポン™コーリアン®の特性が役立ったようだ。

ナインアワーズ　京都寺町
チェックインアウト／24時間フリー
客室数／125室
宿泊料金／通年一律4900円

中村隆秋氏

柴田文江氏

写真撮影：ナカサアンドパートナーズ

▲鏡部分からカウンター、洗面ボウルまで、ソリッド感のあるデザインでプロダクトのように作られた洗面コーナー。

▲メイクコーナー。下段のカウンターには、ティッシュボックスやドライヤーを置くトレイが埋め込まれている。

内側から輝く美しい肌を思わせる透き通る光に満たされたカウンター

［ザ・エピステーム］

2009年9月、東京・汐留にオープンしたスキンケアサロン「ザ・エピステーム」。柔らかな光に包まれた白い空間の中で、ひときわ輝くショップカウンターほかに、デュポン™コーリアン®グラーサ*ソリッドホワイトとカメオホワイトが使用されていた。

「ザ・エピステーム」は、製薬会社から生まれた化粧品として注目を集めている新スキンケアブランド「エピステーム」のプレステージサロンだ。販売カウンターでは難しい、きめこまやかなカウンセリングや肌診断、トリートメントなどを行っている。

「エピステームというブランド名は、"真の知"を意味するギリシャの哲学用語から生まれました」と話してくださったのは、同ブランドの発信元であるロート製薬株式会社マーケティング担当・山田悦子氏。ヘルス&ビューティーを提案する製薬会社の「知力」を集結したスキンケア製品のほか、サプリメントなどもラインナップされ、内からも外からも輝く肌づくりを目指すブランドなのだ。

パッケージデザインやロゴなどのアートディレクションはロスアンゼルス在住で、世界的に活躍するグラフィックデザイナー・八木保氏が手掛けた。「サロンは、製薬会社ならではの、信頼感、効果感、先進性などを念頭に置いたうえで、エピステームブランドのキーワードである、本質、真実、洗練、輝き、知性などを表現するスペースとしました」と八木氏。サロンを訪れた人が、ブランドの世界観を感じることができる空間を目指したのだという。

たとえば、内側から輝きがもれてくるような透光性のある素材、過剰な装飾や色の使用を避けて見た目のテクスチャーを統一したこと、実際に触れた際にも肌触りの良さを感じることができるテクスチャーを採用したことなど、さまざまな要素のすべてが、ブランドコンセプトを表現している。

見て触れて、柔らかな質感もポイントに

「内側から輝く肌や、物事の本質をとらえた上質な美しさといったことを、特に意識してデザインを仕上げています」と話してくださったのは、八木氏のデザインコンセプトに基づいて、エピステームのデザインワーク全般を担当した株式会社アクシスの

[ザ・エピステーム]

所在地
東京都港区海岸 1-2-3
汐留芝離宮ビルディング 3階
TEL:03-6459-0650

http://www.episteme-net.jp

アートディレクション
八木 保氏

デザイン
株式会社アクシス

ショールーム空間施工
株式会社丹青社

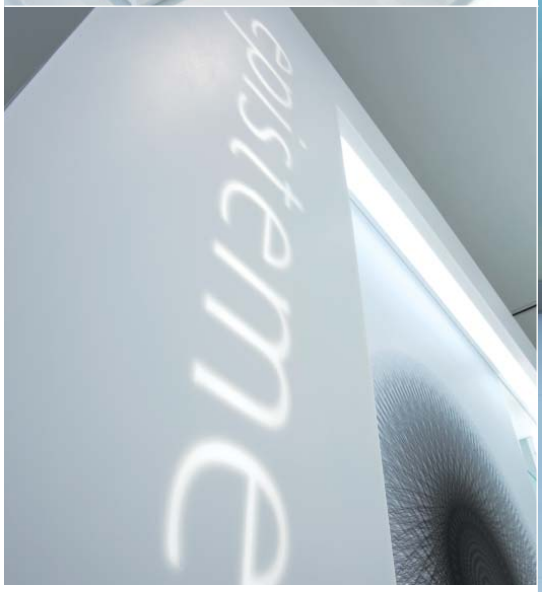
カウンター・什器製作
株式会社乃村工藝社

デュポン™ コーリアン® 加工協力
株式会社エイペクス

**使用された
デュポン™ コーリアン®**

グラーサ＊ソリッド ホワイト

カメオホワイト



《写真》
右／「ザ・エピステーム」のショップカウンター。デュポン ™ コーリアン® カメオホワイトの質感や色合いを生かしつつ最大限の透光性を引き出すために、薄く削ったカメオホワイトの裏側に、透光性の高いグラーサ＊ソリッドホワイトを接着した二重構造。色のグラデーションが美しいメスシリンダーのグラフィックは、内側にグラフィックシートを貼り、やわらかく映し出されるように演出している。

左上段／製品を陳列したテスター台もコーリアン® 製。ボトルキャップのデザインに合わせて、砂丘の稜線を思わせるやわらかな曲線をあしらった。

左下段／ブランドロゴ部分は、文字を薄く削って内側からの光をあてることで、やわらかく浮かび上がるように見せている。

鈴木万利子氏。たとえば、製品ボトルはPETとPPの二重構造として内側からの輝きを表現。ディスプレイカウンターは、デュポン™ コーリアン®グラーサ＊ソリッドホワイトとカメオホワイトの異なる透光性を生かし、内側からの柔らかい光と、上質な佇まいを表現している。

「プロダクトのクオリティの高さを伝え、さらに女性のしっとりとした肌の質感を感じさせるテクスチャーの素材という点で、コーリアン®の質感はちょうどよく、透光性は、内側からの輝きを表現できるという点において、とても重要なポイントでした」と八木氏。

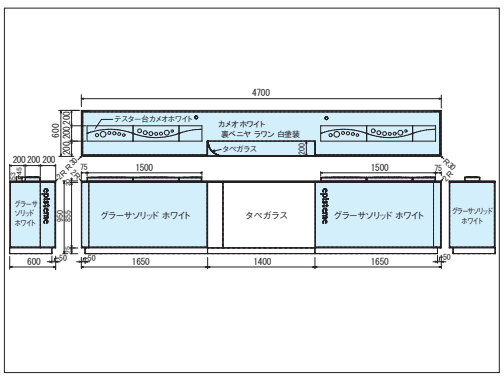
ディスプレイカウンターのほかに、カウンセリングや診断を行うカウンター、トリートメントを行う個室のドレッサーなどにもデュポン™ コーリアン®が採用されている。

「汚れに強い素材であることはもちろんですが、お客様が触れる場所は質感を大切にしたいと考えました。コーリアン®は触ったときに冷たさがないことに加えて、見た目にも冷たいイメージにならないという特長があります。全体が真っ白な空間でありながら、堅すぎる印象にならないようにするために、コーリアン®の質感はよりどころになりました」とアクシスの鈴木氏。

「ザ・エピステーム」は、コーリアンの機能性、加工性、デザイン性のすべてを引き出し、活用していただいた事例と言えるのではないだろうか。

八木保氏

1984年、サンフランシスコのアパレルブランドESPRITのアートディレクターとして渡米。ダイナミックなグラフィックデザインによってESPRITの企業イメージを高め、世界的に評価される。1991年、Tamotsu Yagi Designをサンフランシスコで設立。イタリアBENETTONの香水ボトル「TRIBU」のデザインは1994年Clio Awardを受賞。Apple Storeのコンセプトデザインコンサルタントを行うなど、建築家とのコラボレーションも多い。（写真／筒井義昭）



デュポン™コーリアンで生まれ変わったビュッフェバーのカウンター

［テラス モルチェ］

［テラス モルチェ］

席数
112席

改装（カウンター）
2009年2月

カウンター製作
株式会社 エス・エス・アイ

デュポン™ コーリアン® 加工協力
大日化成工業株式会社

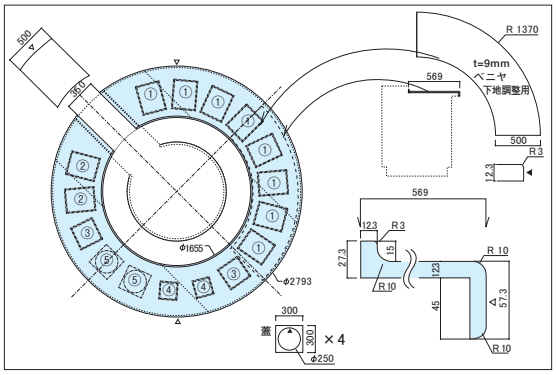
使用された
デュポン™コーリアン®

トレンテメープル

▲下地の木組み部分はそのまま残し、デュポン™ コーリアン® トレンテメープルで製作したカウンタートップを上から被せるように施工。大がかりな改修にならず、工期も短くすんだそうだ。トレンテメープルの控えめな光沢感は、並べられた料理を引き立て、やわらかな木目調の模様は店内インテリアともよくなじんでいる。

東京・広尾の「テラス モルチェ」は、輸入食材などを扱うスーパーマーケット明治屋の直営レストラン。ハヤシライス、ハンバーグステーキなど、昔懐かしいメニューに加え、コース料理なども用意されている。中でも、幅広い世代から人気を集めているのが、食べ放題のビュッフェバーだ。店の中心に配置された円形のカウンターには、サラダやスープを中心に、ピザやグラタン、カレーなど、バラエティに富んだメニューが並ぶ。このカウンターは、開店当時から使用しているものだが、昨年、一部を改装。その際、カウンタートップにデュポン™コーリアン®トレンテメープルが採用された。

「温かい料理は常に温かい状態で食べていただくため、一部は湯せんができるつくりになっています。湯気がでますので、木質系の素材は、長く使っているうちに腐食してしまいました」と話してくださったのは総支配人の末綱英華氏。また、ビュッフェバーの利用率は一日を通してかなり高いため、傷や汚れに強い素材であることも大切だったという。「料理がこぼれてもさっとふきとることができますし、傷も目立たないのはありがたいですね」と末綱氏。



▲改修後：カウンタートップを耐久性のあるデュポン™コーリアン®に変更。仕上がりも美しい。

▲改修前：湯せんや料理からでる湯気で、継ぎ目部分などの木材が腐食してしまっていた。

未来の技術を内包する柔らかな皮膚

[MI・RA・Iゲート(日本信号)]

▲「MI・RA・Iゲート」は、「MI・RA・I (MIcro cell RAdio Identifier)タグ」を身につけることで、シームレスに通過できるタッチレスゲートシステム。ゲート本体はグラーサ*ホワイト、床面には強化ガラスを採用している。また、日本信号では写真のように、改札を通った人に合わせて発車時刻や乗り場を案内するナビゲーションサービスなども研究・開発中だ。

鉄道信号や交通信号、駅務機器など交通インフラに関わる製品やシステムを手がける日本信号株式会社は、今年2月に創業80年を記念した新製品展示会を開催。そこで発表された改札機のプロポーザルモデル『MI・RA・Iゲート』に、デュポン™コーリアン®が採用された。

ユビキタス社会での改札機の新しい役割

「タッチレス、ドアレス、そしてカメラ画像による人間検知。この三つを実現することが、将来の改札機のかたちであると考えます」と話してくださったのは、日本信号株式会社開発センター AFC開発部部長の今井達二己氏。「ユビキタス社会で我々が目指す改札機は、システムを意識させないもの。現状の改札機は、運賃をひいたり、パスをチェックするものですが、今後は、境界の区切りとして、ここから先は属性が変わることを利用者に伝えるためのものになると考えます。区切りでありながらシームレスという、相反する特性を実現する個性がこれからの改札機のありようなのです」。チケット情報などを記録した「MI・RA・Iタグ」を身につけることにより、タッチレスで改札を通過できるシステムは、誰にとっても利用障害のないスムーズな改札を実現。ドアレスは、よりストレスなく安全に通過できる環境を創り出す。「現行の改札機でも、ドアの働きというのは、悪意の人を止めるほど強くはなく、ドアが動くことで可否を知らせている部分が大きい。これからの高齢社会のことも考え、より安全性の高い、光や音でお知らせすることを提案しました」と今井氏。また、画像による人間検知は、セキュリティ面での応用性だけでなく、センサー式にくらべ、装置を簡略化できるというメリットもある。

「タッチレスや画像処理など個々の技術の開発にはそれぞれ苦労はありましたが、それらの技術を内包するアピアランスとして、我々の考えているイメージをどのように具現化できるか、デザイナーの齋藤さんとは、ずいぶん議論をしました。『MI・RA・Iゲート』は、技術の進歩とデザインを融合させることで、どこまで改札機の概念を変えることができるかに挑戦した結果です。これまでにないかたちを表現できたという点では、素材の特性も影響していると思います」。

[MI・RA・Iゲート]

開発
日本信号株式会社

デザイン
株式会社カブ・デザイン

制作協力
株式会社グラスキューブ
株式会社ミネルバ
株式会社福澤製作所
株式会社グルコム
有限会社アシストコガ
ＦＫＫ株式会社

デュポン™コーリアン®加工協力
株式会社エイペクス

今回使用された
デュポン™コーリアン®

グラーサ*ホワイト

▲ 右上／信号の光源は内部に仕込んだLDEライト。左上／開発チームのメンバー。左から小嶋仁氏、川邉恵一氏、今井達二己氏、坂口隆則氏、池田明氏。左中／ミライ駅構内イメージ。下／人が通過すると、足元のライトが点灯し、光と音で入場の可否を知らせる。

デザインで目指したのは「知性ある美しき制御」

「私は『技術の進化』を『人類の文明の進化』と捉えています。そして『人類の文明の進化』をどのように表現するのか、がデザイナーに課せられた、テーマであると考えています」とおっしゃるのは、開発プロジェクトにデザイナーとして参加された株式会社カブ・デザインの齋藤善子氏。

扉による物理的抑止をせず、知性による制御を試みた『MI・RA・Iゲート』では、「光と音」で人間の五感に訴え、制御する。「プロジェクトスタート当初から"光"の力でどのように人を誘導するのか、を集中的に議論しました。さまざまな実験を重ね、試行錯誤した結果、コーリアン®を透過する赤と青の光が、プロジェクトチームの心をとらえました」。

デザインコンセプトについては次のように語ってくださった。「ふと目にとまった風景、それは交差点の人と自動車の流れでした。音と光と『人類の知性』による制御が完成された見慣れた光景。まさに技術が日常に溶け込む風景。何気ない日常生活の中で、人類の過去と未来が繋がっていることをあらためて体感した時に、『MI・RA・Iゲート』のデザインの本質を見つけることができました」。

素材には、直感的にデュポン™コーリアン®をイメージされたそうだが、あらためて検証しても、施工性や、今回採用されたグラーサ*ホワイトの透光性は求めていた条件に一致していたという。「グラーサ*ホワイトに出会えたおかげで、『知性ある美しき制御』を表現できたと思います。私は人類の文明の進化の先には、『MI・RA・Iゲート』が指し示すような、技術もデザインも、溶けこんでしまう、原始的で直感的な日常があるのではないかと想像します。生命体としての五感を研ぎ澄ませ、人類の知性を持って生きていかねばならない、知的で豊かな人類の未来。今回は、そのほんの一部を表現できたのではないかと考えています。また、コーリアン®をメイン素材とし、機器の表皮としての視点でデザインしてみて、生命を内包するコーリアン®という、新しいデザインの可能性に出会えたと感じてます」。

株式会社カブ・デザイン
齋藤善子氏

時代のニーズに応える
新しいクリニックの顔となるカウンター

[呉竹メディカルクリニック]

フォーマルな存在感と柔らかさを併せ持つ素材

今年4月、埼玉県・大宮駅近くに東洋療法と西洋医学の融合を目指した新しいクリニックが誕生した。日本の伝統医療教育を80年以上リードしてきた呉竹学園の呉竹医療専門学校に併設する「呉竹メディカルクリニック」だ。同クリニックは、最新の検査機器を備えた3階建て。内科・整形外科・リハビリテーション科・皮膚科・婦人科が設置されている。また、学校附属の施術所（はり・きゅう施術、ほねつぎ施術）と連携することにより、選択肢の多い治療方針を提案している。

「この周辺は高齢者の方も多く、また大宮駅周辺で働く会社員など中間層の患者さんの来院も見込まれますので、幅広い利用者層を意識したデザインにしています」と話してくださったのは、クリニックの設計を手がけた東京ジュピタープランニング株式会社の伊藤達彦氏。

総合受付である1階はシックなイメージに、整形外科のある2階はブルーと白のストライプを基調にしたスポーティーで力強い印象、婦人科など女性が多くなる3階は、やさしいベージュを中心にと、各階ごとに雰囲気を変えてコーディネートされている。「受付はクリニックの顔のような存在ですから、各階のコンセプトを反映しながらも、共通の素材を用いて、存在感のあるものにしたいと考えました。そこで受付カウンターには、天然石ほど冷たい印象でなく、加工性もよいデュポン™コーリアン®を採用しました。ガラスと組み合わせることで、より有機的な表情を出すことができたと思います」。

1階は深い色合いのコーヒー、2階は柔らかな縞模様のトレンテ グレー、3階はトレンテ ベージュが用いられている。「2階と3階はカウンターの形に特徴があるので、柄があっても派手でないものをと考えました。ソリッドカラーでは無機質な印象になってしまうので、トレンテシリーズがぴったりでしたね」。

医院建築では、カウンターなどにデュポン™コーリアン®を採用することが多いという伊藤氏に、その理由をうかがった。「最近の傾向として、痛みやつらさを抱えて来院する患者さんにとって、少しでも居心地のよい空間づくりを、いかにするかという建築的配慮が必要とされています。内装やインテリアにも、ある程度のクオリティが求められるのです」と伊藤氏。受付にふさわしいフォーマルな印象をつくりやすく、柔らかさも併せ持つデュポン™コーリアン®は、そのようなニーズに応える素材であると話してくださった。

［呉竹メディカルクリニック］

所在地
埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-185-1

TEL
048-658-0100

施設
リハビリテーション室、
レーザー・ピーリング室、
MRI撮影室、CT撮影室、X線撮影室、
調剤室など

床面積
1268.14㎡

竣工
2009年3月

設計・施工
東京ジュピタープランニング株式会社

デュポン™コーリアン®加工施工協力
中外交易株式会社

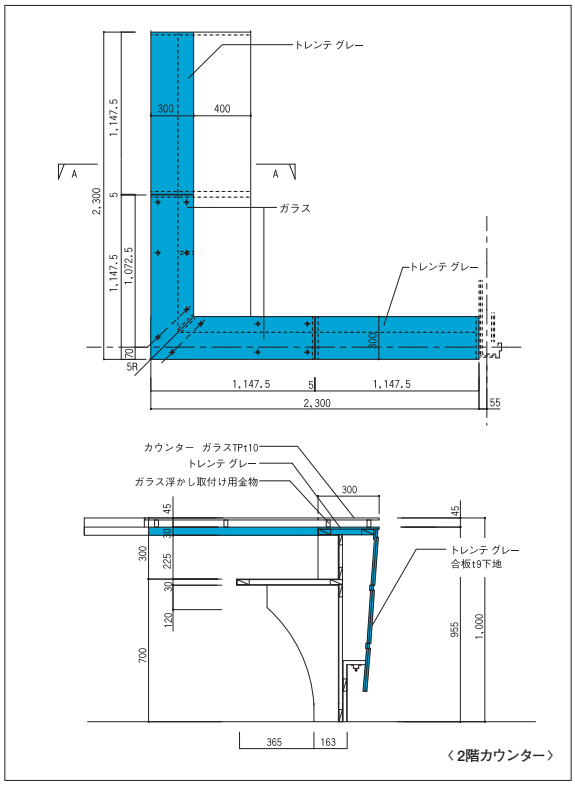
今回使用された
デュポン™コーリアン®

コーヒー

トレンテ グレー

トレンテ ベージュ

東京ジュピタープランニング株式会社
伊藤達彦氏



《写真》右ページ上／呉竹メディカルクリニック2階受付カウンター。カウンタートップと側面にデュポン™コーリアン®トレンテ グレーを使用している。フォルムだけを見れば、エッジのきいたシャープさを感じるが、淡い色調で有機的な模様の入ったトレンテ グレーを素材に用いることで、柔らかさも併せ持つ仕上がりとなっている。

右ページ下／1階の総合受付カウンター。角はすべてアールをつけ、2階・3階のカウンターとは異なる印象だが、共通するモチーフとしてストライプを取り入れている。トップのみデュポン™コーリアン®コーヒーを使用。

左ページ／3階受付カウンターは2階のカウンターを小ぶりにしたデザイン。使用色はトレンテ ベージュ。3階は女性患者が多い婦人科や皮膚科があるため、やさしい雰囲気を大切にコーディネートされている。

存在しているのは「光」だけ。引き算のインテリアデザイン

［ユニクロ新宿西口店］

［ユニクロ新宿西口店］

所在地
東京都新宿区西新宿1-1-1

www.uniqlo.com

床面積
約580坪（地上4階・地下1階）

設計
グエナエル・ニコラ
（有限会社キュリオシティ）

設計協力会社
株式会社エフ・ディー・エス（照明）
株式会社丹青社（設計協力）

施工
株式会社丹青社／大成サービス株式会社

什器施工
シーシービー株式会社

デュポン™コーリアン®加工協力
緑川化成工業株式会社

今回使用されたデュポン™コーリアン®

グラーサ*ソリッド ホワイト

この春、新宿に誕生したメガストア「ユニクロ新宿西口店」。新宿駅に隣接するビルの地下1階から4階までを改装した売り場面積は約580坪で、ユニクロが都内で展開する店舗では最大級の広さだという。

店舗デザインを手掛けたのは、グエナエル・ニコラ氏。「ユニクロの店舗は、基本的にインテリアデザインが必要ありません。商品と、スタッフと、情報があれば、それだけで十分ユニクロらしい。そこで新宿西口店では、インテリアをなくす演出をしました。でも、〝なくす〟という引き算のプロセスがとても難しいのです」とニコラ氏。具体的には、天井からの照明ではなく、天井、壁、床などあらゆる面を光らせ、店内に影をつくらず、空間のかたちを曖昧にすることで、インテリアの存在を無に近付けている。

「床と壁と天井を同じ色にしているので、写真で見ると、全てがフラットで不思議な感じがすると思います。でも、実際には床・壁・天井は素材が異なるので、同じ光では違う色に見えます。ですから、照明の色や強さなどのスペックを変えて、すべてが同じ色に見えるように調整しています」。

什器やカウンターも同様に、それぞれの機能までを隠して、存在感をなくす必要があった。そこで、採用されたのがデュポン™コーリアン®グラーサ*ソリッド ホワイトだった。「たとえば陳列カウンターも、いろいろな面を光らせることで透明感をつくりだし、そこには何もないように見せています。そして、商品だけが明るく浮いているように見えるのです。このような演出は、これまでの素材では透光性と強度の両立が難しく、なかなかイメージ通りのものになりませんでした」とニコラ氏。厚さを変えることで光の透し方を調整できる点や、光源を変えることで異なる色を表現できるフレキシビリティなところも魅力だという。

「インテリアデザインでは光は大切な要素です。素材と光の組み合わせで、デザインの可能性が無限に広がっていくグラーサ*ソリッド ホワイトは画期的な素材ではないでしょうか」と語ってくださった。

グエナエル・ニコラ氏

デザイン事務所「キュリオシティ」代表取締役。1966年フランス生まれ。91年来日。銀座ソニービルなどの店舗、カッシーナ・イクスシーのブーメランシリーズ、任天堂ゲームボーイアドバンスなど幅広い分野のデザインを手掛ける。
MRC・デュポン南青山ショールームもニコラ氏のデザイン。

子どもたちが集う水飲み場には やわらかなフォルムがよく似合う

［北川辺町立西小学校］

▲3階に配置されたアイランド型の水飲み場。「オニバス（古代蓮）」をイメージしてデザインされている。廊下のつきあたりは、この水飲み場を中心としたフリースペースになっていて、休憩時間などに、子どもたちが集まっておしゃべりができる場所になっている。洗面ボウルもデュポン™コーリアン®製。シーム接着で一体化しているので、汚れが溜まりやすい継ぎ目などもない。

自由自在に曲線を表現できる素材

北川辺町は、埼玉県の北東部、利根川と渡良瀬川が合流する地点に位置する、緑豊かな田園の町だ。町内には2つの町立小学校があり、そのひとつである西小学校の校舎が新しくなり、水飲み場にデュポン™コーリアン®が採用されたという。そこで、設計を手掛けた豊建築事務所にお伺いした。

「学校の中にコミュニケーションの生まれる場所を作りたいという考えが、設計コンセプトの中にありました。学校に必ずあるパーツ、たとえばトイレや水飲み場などを発展させることによって、そのような場にできないかというのがスタートでした」と話してくださったのは、同社の中里道雄氏。

2階と3階の廊下の端などに配置された水飲み場のデザインは3種類。中でも、3階の水飲み場は、北川辺町に生息する希少な古代蓮である「オニバス」をイメージした曲線の美しいフォルムだ。

「基本設計の段階でこれらのデザインがあがってきて、まず、どんな素材でつくろうかと考えました。

北川辺町立西小学校
[埼玉県]

施主
北川辺町

竣工年月
2008年11月

設計
株式会社豊建築事務所

施工
佐田建設株式会社

家具工事
株式会社西尾家具工芸社

デュポン™コーリアン®加工施工会社
株式会社インテック

▲2階の水飲み場は深型のシンクをデュポン™コーリアン®で製作。「アール型のシンクに排水勾配をつけるという加工はかなり難易度が高いとのことで、ほかの素材も検討しましたが、やはり難しいと言われました。この形が実現できたのもコーリアン®だからです」と内田氏。

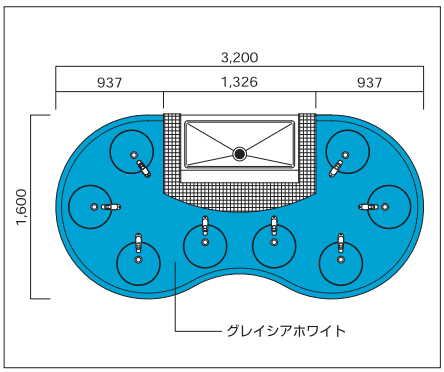
▲2階と3階の廊下の途中に壁付けで配置された水飲み場。蛇口を一直線に並べるのではなく、曲線をつけることで、人が自然に集まりやすい空間を演出している。これだけの長さがあっても、継ぎ目なくつくれる点は、デュポン™コーリアン®ならではだ。

今回使用されたデュポン™コーリアン®

グレイシアホワイト

自由に形がとれて、強度もあって、シンクの底面は勾配もつけなければいけないし。いろいろな条件をクリアする素材がデュポン™コーリアン®でした。通常はステンレスが多いのですが、加工性や仕上がりイメージの点でも今回は違うと思いました」と、同じく豊建築事務所の内田美佐子氏。

「学校建築で使用する素材は、メンテナンスがしやすい素材というのも重要です。簡単に汚れを落とせるという点でも、コーリアン®は条件を満たしていました」と中里氏。加工性の問題で、デザインを変更するようなこともなく、イメージを忠実に再現できたこともよかったとのことで、「コーリアン®だからできた形とも言えます」と話してくださった。



コミュニケーションが自然に生まれるやわらかな曲線のテーブル

［埼玉平成高等学校　PRIMROSE HALL］

埼玉平成高等学校
PRIMROSE HALL

学校名
学校法人山口学院 埼玉平成高等学校

所在地
埼玉県入間郡毛呂山町市場333-1
http://www.saitamaheisei.ed.jp/

設計
守山登建築研究所

施工
斎藤工業株式会社

インテリア製作・施工
株式会社大塚家具

デュポン™コーリアン®
加工協力会社
中外交易株式会社

使用された
デュポン™コーリアン®

ビーチグラス

座る場所を選べる変化のある空間

秩父連峰を望む、緑豊かな埼玉県入間郡に所在する埼玉平成高等学校は、スポーツ、学業の両面で優れた実績をもつ県下有数の私学である。同校では2008年9月に生徒ホール（食堂）をリニューアル。テーブルトップや販売カウンター、洗面台などにデュポン™コーリアン®の新色、ビーチグラスが採用された。

「学校側のご要望は、女性が喜ぶ空間にしたいということでした。もと女子高だったこともあり、女子生徒にとって魅力ある学校であることを大切にされているのだと思います。また、開校以来、"挨拶運動"をされていると聞き、実際に学校を訪ねてみると、すれ違う生徒さんたちがみな気持ちよく挨拶をしてくれました。人とのふれあいを大事にする学校だからこそ、もっとコミュニケーションのとりやすい空間にしたいと考えました」とおっしゃるのは、今回のリニューアルにあたり、設計を担当された守山登氏。そこで、単に食事をするだけの場所ではなく、生徒同士のコミュニケーションの場所として設計をされたそうだ。

まず、規則的なテーブルの配置をやめ、着席している生徒がいろいろな方向を向くように席を配置した。さらに、アミダ状の動線をつくり、ホール内を歩くと、自然に多くの人の顔を見ることできるようにした。ホール入口から奥に向かって上るスキップフロアにすることで、着席している生徒と、歩いている生徒の目線が同じ高さになる工夫も施した。「変化のある空間をつくることで、生徒さんたちは毎回、自分で座る場所を選択できるようにしました」。

曲がりくねった川のように、ホール内を自由に横断する長いカウンターテーブルは、デュポン™コーリアン®ビーチグラスで作られている。

「やわらかい曲線が表現できること、汚れがつきにくく、落ちやすいこと、また、不特定多数が使用する場所ですから、当然、耐久性のある素材ということで考えました。メラミン樹脂なども検討しましたが、何かをぶつけてはがれた場合に、補修ができないことがネックでした。その点はデュポン™コーリアン®なら問題がありませんし、汚れなどが溜まりやすい継ぎ目もなく作れるということも大きな魅力でした」と守山氏。ホール全体のテーマカラーとなっているミントグリーンに近いカラーがあったことも決め手になったという。

「先生方は、テーブルだけでなく、椅子やその他の家具、設備も、長く美しく維持することについて心配をされていました」というのは、家具の製造・施工を担当した大塚家具の竹岡良二氏。「そこであえて、スチールなどではなく、美しく経年変化する曲木の椅子をおすすめしました。軽くて丈夫ですし、無垢材ですから、傷などもかえって目立ちにくい。耐久性、メンテナンス性に優れる曲木の椅子とデュポン™コーリアン®のテーブルトップは相性のよい組み合わせだと思います」。

リニューアル後は、以前より多くの生徒が食堂を利用するようになり、また、憩いの場としても活用されているという。生徒たちの楽しげな声が響くコミュニケーション空間づくりに、デュポン™コーリアン®も一役買うことができたようだ。

ニュートラルな空間をつくることができる色、質感

［ユナイテッド・シネマ浦和］

▲スタイルも、スケールも、空港を想像させるチケットカウンター。空間全体に占めるボリュームの多きな部分だからこそ、素材の選定にもこだわったそうだ。

▲メゾネット2階部分にある「スルークカフェ」のカウンターにもグレイシアホワイトが採用されている。

右／男性用トイレの洗面カウンター。限られたスペースでより多くの人が利用できるレイアウトになっている。

中／「スルークカフェ」には映画に関する蔵書約1000冊が揃う。本棚やテーブルトップもグレイシアホワイト。

新しい価値を持つシネマコンプレックス

日本有数のシネコン・チェーンであるユナイテッド・シネマは、映画を見るだけでなく、「映画館のある豊かな生活」を提案するシネマコンプレックス「HI LIFEシリーズ」を展開している。2006年10月に東京・豊洲、2007年3月に群馬・前橋の二劇場をオープンし、同シリーズ三番目の劇場となる「ユナイテッド・シネマ浦和」が、2007年10月に完成した。

豊洲では、鄭秀和氏率いるインテンショナリーズが、前橋では寺田尚樹氏＋teradadesignが空間デザインを担当したことで話題となったが、今回の浦和を手掛けたのは、駒沢の「バワリーキッチン」や「ロータス」などの有名カフェのデザインで知られる形見一郎氏が代表を務めるKataだ。

「通常、シネコンというと商業施設の最上階にあることが多いのですが、浦和の場合は建物の6・7階に位置し、下はパルコさんで、上には市立図書館があります。そこで、人が自由に行き来し、動き回れる空間というのが、ひとつの大きなテーマでした」とおっしゃるのは、Kataの小島浩氏。そこから導きだされたイメージは、空港のロビーだった。出発を待つ人や見送りの人、到着した人が、それぞれの目的で動き回り、あるいは立ち止まり、通過していくパブリックな場所。そのようなイメージを重ねてデザインされたユナイテッド・シネマ浦和は、シンプルでダイナミックな空間構成、白を基調とした「ニュートラルな空間となった。

もうひとつの特長は、開かれた劇場であること。「映画館は閉じられた空間という印象が強いのですが、ここは吹き抜けや窓などの開口を活かした構成になっています」と小島氏。たとえば、チケットカウンター前の空間の一部は、メゾネット2階部分（建物7階）までの吹き抜けで、壁面は浦和駅を見下ろす大きなガラスカーテンウォールになっている。6階にはベンチを置いたラウンジ、7階部分にはライブラリーカフェが設けられ、そのどちらからも外の眺めを楽しむことができる。

また、劇場エントランスは開口が広く、エレベーターホールなどの共有スペースとの境界は緩やか。カフェ、ラウンジスペースには、チケットを持っていなくても入れる。さらに、映写室は一部の壁をガラスにし、内部を見学できるようにしている。誰もが気軽に立ち寄れるという意味でも、開かれた劇場だ。

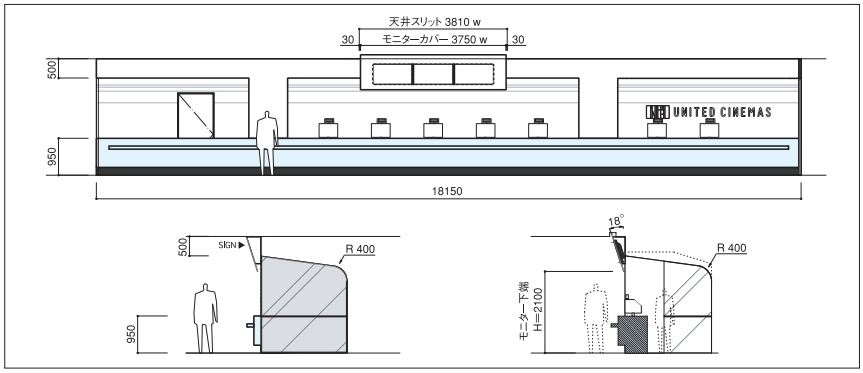
真白を表現できる無垢な素材

ユナイテッド・シネマ浦和では、デュポン™コーリアン®が大規模に採用された。特に、18m以上もあるチケットカウンターは圧巻で、腰板、トップとも、グレイシアホワイトでつくられた。

「手を触れる場所は、本物感のある素材にしたいと考えていました。コーリアン®は、塗装などでは実現できない無垢感があります。他の部分のコストを抑えたとしても、ここだけはコーリアン®にしましょうとご提案しました」と小島氏。フードカウンター、カフェやラウンジのテーブルトップ、そして4つのトイレの洗面カウンターなどもグレイシアホワイトが採用されている。

「今回のような、空間のカタチやバランスで勝負するデザインの場合は、なるべく色や要素を排除したいと考えます。ですから、コーリアン®の白の中でも、より真白に近いグレイシアホワイトを使いました」と小島氏。要素を排除するという意味において、シームレス接合ができるという点も重要だったという。「ジョイントがみえないことで、ハリボテではない無垢な固まりとして求めている形が素直に表現できます。グレイシアホワイトは、純粋にソリッドな形を見せることができるという意味において、今回のテーマに一番適した素材だったと思います」。

グレイシアホワイトの色と加工性は、「ユナイテッドシネマ浦和」の「ニュートラルな空間をつくるうえで大きな役割を果たしたようだ。



ユナイテッド・シネマ浦和

所在
埼玉県さいたま市浦和区東高砂町
（JR浦和駅東口）

建物概要
パルコと公共施設が一体となった
駅前大型複合ビル

店舗運営
ユナイテッド・シネマ株式会社

劇場規模
9スクリーン・約1800席

<トイレ内洗面カウンター什器>
デザイン：kata
設計：大林組
施工：株式会社ハードウェア

<その他チケットカウンター、
コンセッションカウンター、
カフェカウンター等>
デザイン：kata
設計・施工：株式会社スペース

使用された
デュポン™コーリアン®

グレイシアホワイト

発光するオブジェのような什器。シンプルな形が多様な組み合わせを生みだす

［ユマ コシノ　日本橋三越店］

ユマ コシノ
日本橋三越店

経営
株式会社 ユマコシノ　アソシエイツ

住所
東京都中央区日本橋室町1-4-1
日本橋三越本店 新館4F

設計
アライアーキテクツ一級建築士事務所

施工
株式会社イシマル

床面積
40m²

デュポン™コーリアン®
加工施工協力会社
株式会社イシマル

使用された
デュポン™コーリアン®

グラーサ*ベージュ

▲単なるディスプレイ用の台ではなく、商品と組み合わせることで、ひとつのインスタレーションのように展開する什器としてデザインされている

▲シューズやアクセサリーが置かれている什器のトップ面は、裏面の一部を削って厚みを調整し、内部に仕込んだLEDの光が透るようにしている。

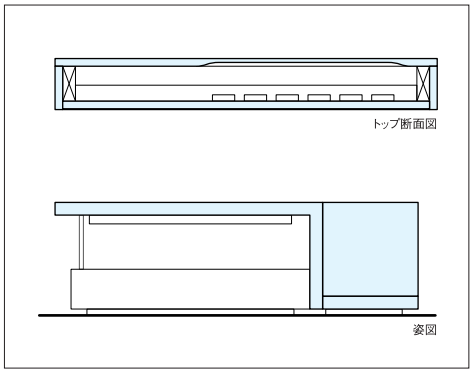
自立した新世代の女性に向けた、上質な大人の服を提案するファッション・ブランド「ユマ　コシノ」。その日本橋三越店の展示什器に、デュポン™コーリアン®グラーサ*ベージュが採用された。店舗のデザインを手掛けたのは、建築家であり京都精華大学・建築学科の教授でもある新井清一氏だ。

「ブランド立ち上げの際にショップ・イメージをご提案したのですが、その時に、オブジェとしてのデザイン性もある什器を展開して商品を展示する方法、壁や什器が全体的に光って商品を浮き立たせるというプランを考えました。今回の什器も、その延長線上から生まれたものです」と新井氏。

今回制作されたのは、段差をつけたトップにグラーサ*ベージュを用いた可動式什器。百貨店内のショップであることから、レイアウト変更が簡単にできるように、システム化されたユニットとして考えられている。「縦横、左右の組み合わせで多様な展開ができるものにしました。また、トップの内部にも照明を入れています。通常、ソリッド感のある素材は、単調になりがちですが、什器自体が光ることで、雰囲気がでてきます。また、そこに商品が展示されると、空間の中に浮いているような感じになります。そのような効果も狙った手法です」と新井氏。

デュポン™コーリアン®をよく使っていらっしゃる新井氏に、これからの可能性についてもおうかがいすると、「素材が自分で考えて進化するようなものになったら面白いでしょうね。それ自体が機能を持つ、例えば、自ら光を出すとか、何か役に立つことをするとか、そうなるともっと多様性がでてくるのではないでしょうか」と、斬新で夢のあるご提案をいただいた。

新井 清一 氏
南カリフォルニア建築大学大学院修了。MOPHOSIS Architects（USA.CA.）を経て、1991年にARAI・ARCHITECTSを設立。主な作品・入賞歴に熊本アートポリス杖立橋Pホール、Ci4、はなしべレストラン、新潟市民ホールコンペ優秀賞、霧島アートホールコンペ優良賞、SDレビュー入選（93、94、97、99年）などがある



見て、触れて、感じるための ディスプレイツール

[第40回東京モーターショー・アルパインブース]

撮影/工藤明敏

ブース全景。中央に置かれたスマートは、iPod® 専用カーオーディオ『iDA-X001』を搭載したデモカー

先端ソリューションをひきたてるデザイン

2007年10月27日から11月11日までの約2週間、千葉県・幕張メッセで第40回東京モーターショーが開催された。『世界に、未来に、ニュースです。』をテーマに掲げた今回のショーは、乗用車・商用車・二輪車をはじめ、自動車分野のすべてが大集合した11年ぶりの総合ショー。開催前から話題を集めていた日産GT-Rをはじめ、77台ものワールドプレミア（世界初公開）の車両が展示され、連日、大勢の来場者を集めた。

この「クルマの祭典」ともいえる東京モーターショーでは、最先端の車両や製品を引きたてている出展各社の展示ブースのデザインや演出も見どころのひとつ。今回は、これまでの華やかな演出は全般的に控えめとなり、企業のテーマやコンセプトをより明確に伝える演出が主流になったとの評判だった。

そんな中、アルパイン株式会社は、展示コンセプトをより効果的に表現する素材として、什器の造作にデュポン™ コーリアン®を採用。ブースデザインを担当された株式会社丹青社のデザイナー・小松一格氏にお話をうかがった。

「ブース全体のデザインテーマは、『ソリューションカンパニーとしてのアルパイン』です。単に、カーオーディオやナビゲーションシステムをはじめとする製品を提供するだけではなく、最先端技術を用いて新しい価値を創造してゆく企業というブランドイメージを表現しました」。

約4メートルまで立ち上がり、しなやかな曲線を描くブース壁面は、上から下への流れを感じさせる波状のデザイン。中央に配置されたターンテーブルに向かってすり鉢状に構成され、来場者に徐々に迫ってくる。「この壁面は、アルパインが車室内の問題をさまざまな角度から解決するために、考え、創造し、ユーザーの手元に製品を送り出していくプロセスを表現しています。波のひとつひとつをより快適な製品を生み出そうとする様々な熱意や創造のフィルターとしてイメージしています。それぞれのフィルターを通って、最終的にアウトプットされた製品が、ターンテーブルの周りに配置された什器によってユーザーの手元に届けられるという流れになっています」。

デュポン™ コーリアン®が用いられているのは、ターンテーブルの周り

第40回
東京モーターショー2007
アルパインブース

開催期間
2007年10月27日(土)～11月11日(日)

会場
幕張メッセ

主催
社団法人日本自動車工業会

出展者
アルパイン株式会社

ブースデザイン
株式会社丹青社

デュポン™コーリアン®
加工施工協力会社
株式会社エイペクス

使用された
デュポン™コーリアン®

グラーサ*ソリッドホワイト

右／アールの美しい『iDA-X001』用什器　左／リアビジョンも同時に見せる機能的な形状の『Mobile Media Station X075』用什器

とブース左手に配置された什器部分。曲線で構成された独創的なフォルムは、圧迫感を与えないスリムな形でありながら、製品を操作しやすく、展示用什器としての機能性にも優れたデザインだ。

「加工のしやすいデュポン™コーリアン®を用いたことで、これまでにないシャープな形状をつくりだすことが可能になり、展示物のひとつひとつを際立たせるデザインを実現できました」と小松氏。

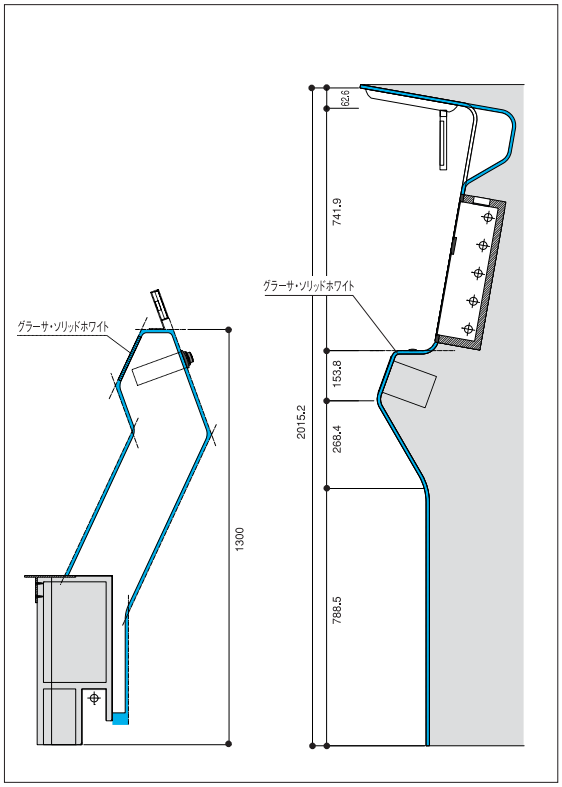
素材の手触りで上質感を演出

「来場者の方が手を触れる部分にはすべてデュポン™コーリアン®を使っています」とおっしゃる小松氏。今回の東京モーターショーでは『タイヤ・オーディオ館』という会場が設けられ、これまで会場内に点在していた車載製品メーカーが、初めて一か所に集合した。その中で、ナンバーワンの展示ブースを目指してほしいとの要望を受けての選択だったという。

「求められたのは、演出の派手さではなく質的なナンバーワンでした。そこで、什器部分はデュポン™コーリアン®を用い、その独特な手触りや厚みで、上質感を表現しようと考えました。プレゼンテーションの際にサンプルを持っていったところ、クライアントもデュポン™コーリアン®の質感を気に入って、ぜひ使いたいと言っていただけました」。

また、今回製作をした什器類は、今後、2つの展示会でも使用される予定。そのため、解体・設置や搬送に耐えられる素材であることも条件のひとつだった。

「実は、スチールや木に塗装で造作することも検討したのですが、傷や塗装のはがれなどができてしまった場合に補修が困難になることがネックでした。仮に補修をしても、きれいに元通りというわけにはいきません。その点、デュポン™コーリアン®であれば、傷の補修が簡単で、ほとんどわからなくなりますから、素材としてベストな選択だったと思います」と小松氏。そのお話に、リユース可能な展示用什器の素材という、デュポン™コーリアン®の新しい価値を教えていただいた。



インスタレーション空間に舞う コーリアン®の蝶々

[MAZDA DEMIO NEW TARGET EXPO in 横浜赤レンガ]

▲ワイヤーで吊られた蝶は風に揺られてふわふわと動く。足元には白い砂が敷かれ、間接照明とミラーボールでドラマチックに演出されていた。テーブルにはグレイシアホワイトとノクターンが使用されている。

自由に走り回る開放感を蝶々に重ねて

真っ白な空間に、たくさんの白い蝶々が飛び回っていた。横浜赤レンガ倉庫の広場に置かれたコンテナの中は、周囲とはまるで別世界だった。デュポン™コーリアン®で作られた大小さまざまな蝶々が、まるで生命を持っているかのように、生き生きとして見えた。

空間デザイナーの長谷川喜美氏が手がけたインスタレーション『私とデミオと東京蝶々』は、今年5月にフルモデルチェンジをした「マツダ デミオ」のデザイン展示イベント「MAZDA DEMIO NEW TARGET EXPO」のために制作された。このイベントは「東京デザイナーズウィーク」を手がけるNPO法人・デザインアソシエーションがプロデュースし、2007年7月28日から9月9日まで開催。五十嵐久枝氏、長谷川喜美氏、メグホソキ氏の3人の女性クリエイターが、それぞれの手法で新型デミオの特徴をコンテナの中で表現した。

「自分でクルマを運転できるようになったころの想いを表現しました。クルマというパートナーと出会ったことで、いろいろなところに、いつでも自由に行けるようになった。まるで自分に羽が生えたような感覚でした」と長谷川氏。その楽しさや開放感が、花から花へ自由に飛び回る蝶々に重なったのだという。そこで、長谷川氏自身が2007ミラノサローネで発表した蝶々をモチーフにしたコーリアン®製のテーブル『東京蝶々』と、新型デミオのコラボレーションが生まれた。

「コーリアン®が自分のイメージを表現できる素材であることは、テーブルを製作した際に実感していました。今回のインスタレーション用の蝶々は特に、来場者の方の目線が近いということもあり、素材自体のクオリティが高いコーリアン®をぜひ使いたいと考えました」。

素材のポテンシャルを最大限に引き出すデザイン

「新型デミオのチーフデザイナーの方からオリエンテーションを受けた時に、コンパクトカーながらクオリティの高い車だと感じました。立体的な造形や繊細な曲線のライン

長谷川 喜美（ハセガワ キミ）**氏**

桑沢デザイン研究所卒業。施工会社、デザイン事務所を経て2004年6月ベルベッタ・デザイン・オフィス・トウキョウ設立。商業空間・イベント・エキシビション等の空間デザイン全般を幅広く手がける。
近年では2007ミラノサローネ/ TOKYO DESIGN PREMIOや表参道ヒルズ/クリスマス等の空間をデザイン。
DDA産業大賞[通商産業大臣賞]/DDA奨励賞等 多数受賞。
「私とデミオと東京蝶々」はこの秋開催の「東京デザイナーズウィーク」にも出展予定。

MAZDA DEMIO NEW TARGET EXPO in 横浜赤レンガ

開催期間
2007年7月28日（土）～9月9日（日）

会場
横浜赤レンガ倉庫

主催
マツダ株式会社

空間デザイン
長谷川喜美
（ベルベッタ・デザイン）

デュポン™コーリアン®
加工施工協力会社
株式会社エイペクス

使用された
デュポン™コーリアン®

グレイシアホワイト

ノクターン

上段／テーブルの脚の部分に彫られた模様が光に照らされて浮かび上がる。　下段／ボンネットで羽を休める蝶。

の入ったフォルムにも、職人の仕事がきちんとされているような印象を受けました。ですからインスタレーションも単に蝶々のイメージを訴求するのではなく、新しいデミオにふさわしいクオリティと、匠の技が生かされたものにしたいと考えました」と長谷川氏。

「MAZDA DEMIO NEW TARGET EXPO」のために制作されたのは約50個の蝶々。サイズは3種類で、小さいものは130×140㎜、最大で835×900㎜。抜き加工された蝶々の羽の模様は、NCルーターで加工可能な最小の2Rをベースにデザインされている。大きな蝶々は6㎜厚のグレイシアホワイトをそのまま使っているが、小さな蝶々は小口の厚みで模様の抜けが潰れてしまわないように、3㎜程度まで薄く削った。

「『東京蝶々』のときは、海外で発表する作品だったこともあり、日本のDNAのようなものを表現したいと考えていました。デザイン的なものだけでなく、日本の匠の技ともいえる技術の高さも含めて見せたいと思ったのです」。テーブル製作の際には、何種類もの模型をつくり、加工会社のスタッフと試行錯誤を重ねながら、イメージしたものと実際にできることとの着地点を模索したという。精密に加工された蝶々は、ミラノサローネの展示でも注目を集めていたそうだ。

「今までコーリアン®というと硬くて真っすぐなものという印象だったのですが、アールをつけたり、ここまで繊細な加工ができるということが実感できて、さらに幅広い使い方ができるのではないかとイメージが膨らみました」と長谷川氏。すでに具体的なアイデアもいくつか浮かんでいるとのこと。そのデザインがコーリアン®のポテンシャルを、さらに引き出してくれるに違いない。

環境と共生する菜園施設でコーリアン®が選ばれた理由

［アグリス成城］

▲ラウンジのキッチン。カウンタートップだけでなく腰の部分もデュポン・Mウッドで作られたソリッドなデザイン。シンクなどの機能を極力隠し、大きなテーブルのように見せている。

▲ 受付カウンターはキャスターを付けて可動式にし多目的に使用できるように設計された。

右／キッチンのシンクは蓋をかぶせて隠すことができる。▶
左／パウダールームのカウンタートップもデュポン・Mウッドで統一。

世田谷に誕生した都市型貸菜園

東京・成城学園前駅の目の前に、広大な会員制貸菜園が誕生した。約5000㎡、307区画の貸菜園を擁する「アグリス成城」は、小田急線の複々線化事業により成城学園前駅ホームを地下に移設したことで生まれた敷地を利用した施設だ。この菜園のクラブハウスに、デュポン・Mウッド メープルが採用されたという。早速、オープン間もないアグリス成城に取材にうかがった。

「成城学園前駅ホームの地下化の際、線路上にコンクリートで蓋をしたため、約5000㎡の人工地盤ができました。これを何かに利用できないかと考えたのが、そもそもの始まりです。環境共生への取り組みのひとつとして緑化事業を行うことになり、さまざまなプランを検討しましたが、単なる緑地や公園ではなく、地域の方に利用していただける貸菜園を作ることに決まりました」と話してくださったのは、小田急電鉄株式会社沿線事業部の正木弾氏。農園ではなく、"菜園"という言葉が用いられているところに、成城学園前という土地柄への配慮がある。

「この街の品格にふさわしい、ナチュラルラグジュアリーをコンセプトとした"都市型貸菜園"を目指しました。見て楽しむこともできるデザインされた菜園で野菜作りを身近に感じ、好きになっていただくきっかけになればと。たとえば、主婦の方がお買い物のついでに立ち寄れるようなものにしたいと考えました」。

手ぶらで来て野菜作りが楽しめるように、道具のレンタルも充実させている。取り揃えているのは、使うのが楽しくなるような英国製、日本製のデザイン性の高いガーデニング用品ばかり。長期不在にするときには、スタッフによる代行管理も行ってくれるそうだ。

木や石と列ぶ選択肢のひとつ

「アグリス成城」のクラブハウスは成城学園前駅の西口ロータリーに面した場所に立っている。

「建物の外観は、街になじむデザインにとお願いしました。機能としては、都市型貸菜園として必要な設備を整えた結果、スポーツクラブに通じるところが多くなりました」と正木氏が言うとおり、ロッカールームやシャワー室のあるパウダールームなどが用意されている。二階には、菜園を一望できるラウンジと広々としたテラスが設けられた。天気のよい日には、富士山を望むこともできるという眺望のよさだ。この、クラブハウスの受付カウンター、キッチン、洗面カウンターに、デュポン・Mウッド メープルが使われている。

「キッチンはドリンク類の提供や料理の講習などにも使われる予定で、受付カウンターもハサミやシャベルといった道具類、鉢などを置くこともあるとのことでした。ハードに使われることが予想されましたので、耐久性にすぐれていて、メンテナンスも可能なデュポン・Mウッドがよいと判断しました」と話してくださったのは、クラブハウスの設計監修をされた樋口建築設計室の樋口一博氏。「以前から、飲食店のカウンターなどにデュポン・Mウッドを採用しています。しかし、使い始めた当初は、木の代用品という発想でしかありませんでした。ところが、使い続けているうちに、デュポン・Mウッドの良さが分かってきて、今では、木や鉄などと並列のものとして、素材の選択肢のひとつになっています。特に、私自身が得意とするソリッドなデザインを実現できる素材だと考えています。また、経年変化がほとんどなく、10年たっても品質が変わらないことや、加工性がよく製作会社が変わっても仕上りが安定している点などがよいですね」。

サステイナブルな素材としての価値

ラウンジの中心に据えられたキッチンは、天板だけでなく側面にもデュポン・Mウッドを使い、一体感のある仕上げになっている。テーブルとしても機能するようにと、シンクの蓋もデュポン・Mウッドで製作されている。無垢材のフローリングや薪をディスプレイした壁などのインテリアとも、デュポン・Mウッドの自然な木目は違和感なく馴染んでいた。

「環境共生をコンセプトにつくられた施設ですから、クラブハウスのデザインも環境に配慮したものとしました。デュポン™コーリアン®は環境にやさしく、リサイクルも可能な素材ですから、コンセプトにもぴったりだと思いました」と樋口氏。

「AGRIS(アグリス)の"S"には、Sustainable(サステイナブル)の意味も込められています。ですから、長く使える素材を選ぶということも、私たちの考え方と一致していました」と正木氏。デュポン™コーリアン®の環境素材としての価値も、高く評価してくださった。

アグリス成城（AGRIS SEIJO）

事業主
小田急電鉄株式会社

運営
株式会社小田急ランドフローラ

所在地
東京都世田谷区成城5-1-1

総面積
約5,000㎡

区画数
307区画（一区画 2坪程度）

クラブハウス延床面積
155.00㎡

竣工
2007年4月

設計監修・クラブハウス設計
樋口建築設計室

設計・監理・施工
小田急建設株式会社

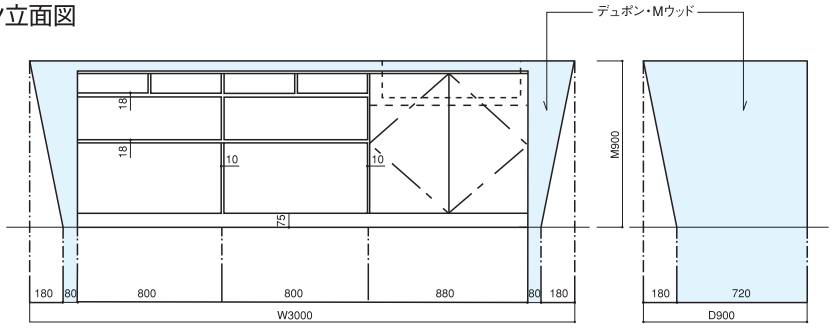
キッチン製作
武蔵興産株式会社

デュポン™コーリアン®
加工施工協力会社
中外交易株式会社

使用された
デュポン™コーリアン®

デュポン・
Mウッド メープル

キッチン立面図



静かなる祈りを透す光の壁

［習志野市営海浜霊園合葬式墓地］

納骨堂内部。外部からの光りがグラーサ*ベージュを透してやわらかく幻想的に差し込んでいる。

水平を強調した静謐な場

「合葬式墓地」という新しい形態の墓地が増えている。核家族化や少子化などで承継者がいなかったり、都市部で墓地用地を確保することが困難になっていることなどから、ひとつの納骨室に多くの遺骨を納める「合葬式墓地」が注目され、首都圏の公営霊園を中心に、全国に広まっているようだ。

東京のベッドタウンである習志野市でも、こうした諸問題を解決するため、東京湾に面した海浜霊園の一角に「合葬式墓地」を設置することに。1400体の遺骨を納める納骨室と、納骨後20年を経た遺骨を移す地下合葬室、そして参拝広場を備える地上1階、地下1階の「合葬式墓地」が、2007年3月に完成した。

墓のデザイン・設計を手掛けたのは平賀竜之助氏と下村純氏のお二人。墓地という特殊な建造物を手掛けるにあたり、どのようなコンセプトでデザインをされたのか、お話をうかがった。

「あくまでも墓であるため、なるべくディテールのない建物となるようにデザインをしました」と平賀氏。具体的には、コンクリート打ち放しの重厚な外観に、窓を設けず、ドアなど建物の機能的な部分は正面から見えないように配置。コンクリートの壁を折り曲げて、ふわりと宙に浮かせたようなフォルムにデザインし、建物の重量感をなくし、水平性を強調することで、静謐な空気を作り出している。

「ただし、倉庫のような印象になってしまうことは避けたいと考えました。それではあまりに寂しいと思ったからです」と平賀氏。そこで、建物を構成するコンクリートの面に木目を映すことで表情を持たせ、参拝広場の床面には、天然の玄晶石を用いるなど、無機質感をやわらげるデザインが随所に施された。「また、納骨室は遺族の方も立ち入る場所なので、内部が閉鎖された真っ暗な空間でよいのだろうか、という思いもありました。そこで、以前、アメリカで見たイエール大学の図書館を思い出したのです」と下村氏。イエール大学の図書館は窓のない巨大な建物。壁面は、光を透す大理石と、花崗岩でつくられている。建物内部には石を透した淡い光りが差し込み、その美しさが印象的で、

習志野市海浜霊園・合葬式墓地

所在地
千葉県習志野市芝園3-1-1

延床面積
167.56㎡

設計
横田睦／社団法人全日本墓園協会
平賀竜之助／平賀竜之助建築研究所
下村純／下村純建築設計事務所

構造
羽田野裕二／
G.DeSIGN我伊野構造設計室

設備
柿沼整三／ZO設計室

監理
習志野市

施工
田久保建設

竣工
2007年3月

デュポン™コーリアン®
加工施工協力会社
株式会社ハードウエア

使用された
デュポン™コーリアン®

グラーサ*ベージュ

緩やかな曲線を描き屏風のように作られたコーリアン®の壁。

参拝広場には、コーリアン®の壁に抱かれるように球体のモニュメントが置かれている。

折り曲げられたコンクリートの壁が、まるで宙に浮いているかのように見える建物のフォルムが印象的。

心に残っていたのだという。「建築主より防犯上開口部を設けない事が望まれましたが、光を透す壁を作ることで、墓としての条件を満たしつつも、納骨される方々を温かく迎えることができると考えたのです」。

お二人は、光を透す壁を建物正面に設けることを構想し、その素材としてふさわしいものを検討した。

「デュポン™コーリアン®が耐久性に優れ、アルカリにも酸にも強いことは知っていました。キッチンカウンターなどに使用されていることでも実証されています。しかし、屋外での使用例はまだ少ない。これまでに使用例がないということは、何か問題があるのかもしれないという気持ちは残りました」と平賀氏。その不安を払拭するため、コーリアン®の性能について十分吟味し、耐候性についても暴露試験のデータや、すでに屋外で使用されている施工例を検証したという。「最終的に到達した、私たちにとっての最適解がコーリアン®だったのです」。

ほのかな光だけが届く静かな空間

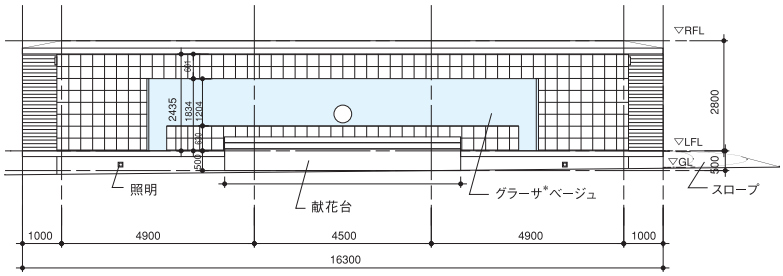
墓地の正面に取り付けられた大きなグラーサ*ベージュの壁は約11m×1・8mのサイズ。壁の前には、ブルーパールで作られた球体のモニュメントが配置され、遺族が祈りを捧げる参拝広場となっている。

「行政が運営する墓地なので、宗教的な装飾は一切排除しています。しかし、遺族の方が手を合わせる対象がなにもないのも不自然とのことで、このようなモニュメントを製作しました」と平賀氏。

今回は、納骨前の建物の中を特別に見せていただいた。納骨壇が並ぶ建物内部には、グラーサ*ベージュを透した、やわらかな光が差し込んでいた。外部と切り離されたその空間で、コーリアン®の壁そのものが発光しているような、幻想的な風景だった。故人に寄せる祈りが、光りとともに届くように―。

二人の建築家のそんな想いが、静かに伝わってきた。

合葬式墓地・立面図



居心地のよさを追求した新しいスタイルの金融総合店舗

［トヨタファイナンシャルプラザ］

▲ショップに足を踏み入れるとまず最初に目にとびこんでくるのが、赤く発光するインフォメーションカウンターだ。

▼クレジットの即時発行などの受付カウンター。

▼プラザ内のほぼすべての接客カウンターにコーリアン®を使用。アールをつけたデザインで手触りもやさしく仕上げている。

▲来店者が自由に情報を検索できる「情報バー」。

接客カウンターのすべてにコーリアン®を採用

2007年3月、名古屋駅前の高層ビル「ミッドランドスクエア」内に「トヨタファイナンシャルプラザ」がオープンした。同プラザは、クレジットカードの即時発行や証券口座の開設、資産運用の相談など、トヨタグループの金融サービスを総合的に取り扱う、これまでにない、新しいスタイルの金融ショップだ。プラザ内には、楽しみながら情報収集ができる最先端の映像機器・情報端末なども設置され、訪れた人は、自由に操作しながら、または、じっくりスタッフに相談しながら、自分のニーズにあったサービスを見つけることができる。

このトヨタファイナンシャルプラザでは、インフォメーションカウンターをはじめ、いたるところにデュポン™コーリアン®が採用されている。

店舗を設計したのは、世界36カ国で、金融機関を対象としたリテール・マーケティング・ソリューションを提供しているジョン・ライアン社。今回は、スペインにある本社のデザインルームで基本デザインを作成し、日本側の窓口としてクリエイティブ・ディレクターの舟生徹氏が、クライアントへのプレゼンテーション、設計・仕様の変更、調整などを担当した。

LEDライトの光をやさしく透過するグラーサ™ホワイトのインフォメーションカウンター。

その舟生氏に、今回の店づくりのポイントについて伺った。

「"女性が入りやすい総合金融店舗"というのが大きなテーマのひとつにありました。そこで、明るい空間にすることと、居心地よく過ごしていただけることを心がけたデザインになっています」。

ポップな色使いや、かわいらしいマスコットキャラクターを採用するなど、一見すると金融ショップとは思えない店舗の雰囲気は、金融商品やサービスそのものへの、親しみやすさまで感じさせている。また、居心地のよさを実現するため、椅子やカウンターなど、来店者が実際に触れる部分の素材は、特に吟味されたという。

個室のミーティングテーブル。壁側の支柱のみでコーリアン®の天板を支えている。

「カウンターに関しては、やわらかさを重視しました。書類を記入する際に硬すぎてペンがはねてしまったり、かといって逆にペンの跡が残るようなものではない素材を、ということで、クライアントにも何種類かの素材を確かめてもらいました。また、コーリアン®独特の肌触りも気に入っていただけて、私たちの提案どおり、接客カウンターのすべてにコーリアン®を採用することが決定しました」。

コスト面についても、長く使用することを考慮すれば、補修のしやすいコーリアン®がよいという説明に、クライアントも納得をしてくださったそうだ。

やわらかな光を放つグラーサ*ホワイトのカウンター

プラザ内でひときわ目を引くのが、デュポン™コーリアン®グラーサ*ホワイトで作られた円形のインフォメーションカウンターだ。天板から腰板まで、すべてシームレスに仕上げられたカウンターは、内部から赤く穏やかに発光し、インフォメーションにふさわしい存在感と、思わず触れてみたくなる雰囲気がある。

「光を透過したときに、グラーサ*ホワイトの粒が美しく見えないのではないかという意見もあったのですが、それも含めてデザインになると判断しました」と舟生氏。その仕上がりは、想像以上だったという。

「施工が終わって、電気を付けた瞬間、その場にいた全員で感動したことをよく覚えています。これほどやわらかく、均一に光を放っているのは、コーリアン®にほどよい厚みがあるからでしょう。アクリルなどの薄いものを透過した光とはまた違った、上品な光り具合になりました。今回はグレード感も重視していたので、狙い通りの仕上がりになりました」と舟生氏。

トヨタファイナンシャルグループのフラッグシップショップにふさわしい、グレード感と居心地の良さの演出に、コーリアン®の特性がひと役買うことができたようだ。

トヨタ ファイナンシャルプラザ

経営者
トヨタファイナンシャルサービス株式会社

所在地
愛知県名古屋市中村区名駅4-7-1
ミッドランド スクエア　4F

床面積
461.9㎡

設計
ジョン・ライアン社

施工
株式会社仙台屋

竣工
2007年3月

デュポン™コーリアン®
加工施工協力会社：株式会社仙台屋

使用された
デュポン™コーリアン®

グラーサ*ホワイト

シンプルモダンに温かみを添える グラーサ*ホワイトのテクスチャー

[M.M.TOWERS フォレシス（R棟）]

M.M.TOWERS FORESIS（R棟）

所在地
神奈川県横浜市・
みなとみらい40街区

延床面積
76,995.82㎡

総戸数
601戸（R棟のみ）

設計
株式会社三菱地所設計

施工
鹿島建設株式会社

照明設計（共用エリア）
ヤマギワ株式会社

デュポン™コーリアン®加工施工協力会社：
ヤマギワ株式会社東日本TEC

使用された
デュポン™コーリアン®

グラーサ*ホワイト

通路の壁と天井をほんのりとやさしく照らすデュポン™コーリアン®のブラケット　Photo/金子俊男

みなとみらいの中心部に完成した超高層マンション「M.M.TOWERS フォレシス」R棟のエントランスエリアの照明に、デュポン™コーリアン®が採用された。「M.M.TOWERS フォレシス」はL棟、R棟からなる総戸数1206戸の大型レジデンス。エントランスエリアのインテリアは、木ルーバーや石を使用した、温かみのあるシンプルモダンなデザイン。高級マンションにふさわしいラグジュアリー感も備えている。

「インテリア全体イメージを受け、照明設計もそれに合ったものにしました。具体的には、できるだけ器具を見せないように配置し、見せる部分にはシャンデリアなどのデザイン性のあるものを採用しましょうというご提案をしました」と話してくださったのは、照明設計を手がけた、ヤマギワ株式会社プランニングデザインセンターの佐々木泰和氏。

コーリアン®が使用されたのは、エントランスロビーとエレベーターホールをつなぐ通路に設置されたブラケット6台のセード部分だ。「エントランスの中心的なエリアなので、シンプルでありながらも、華やかさを演出したいと考えました」と佐々木氏。そこで、光が拡散して実際の照度より「明るさ感」を出せるブラケットを採用することに。

「ブラケット自体のデザインもフォルムはシンプルに、けれど寂しい印象にならないようにテクスチャーのある素材を使いたいと思いました」。

そこで選ばれたのが、透光性のあるデュポン™コーリアン®グラーサ*ホワイトだった。しかし最初は、12・3㎜という厚みに、戸惑いを感じたという。「アクリル板などを使用する場合は、8㎜厚などが主流ですから。でも完成してみると、その厚みがかえってよかったと感じました。重量感のある仕上がりになり、小端まできちんとテクスチャーがでているところも気に入りました。角がアンダーになっている点や、光源からの距離に応じて明るさが変化する様子なども希望通りです」。

また、コーリアン®の特性である、接着部分のシームレスな仕上がりにも、満足していただけたようだ。

「接着面が見えないというお話はうかがっていたのですが、ここまできれいに仕上がるとは思いませんでした」。という佐々木氏。その言葉は、デザインをイメージ通りに仕上げることができるコーリアン®の加工性を、あらためて証明してくださった。

光を湛えるカウンターで
もてなしの空間にリニューアル

MOA美術館 アートストリート エントランス

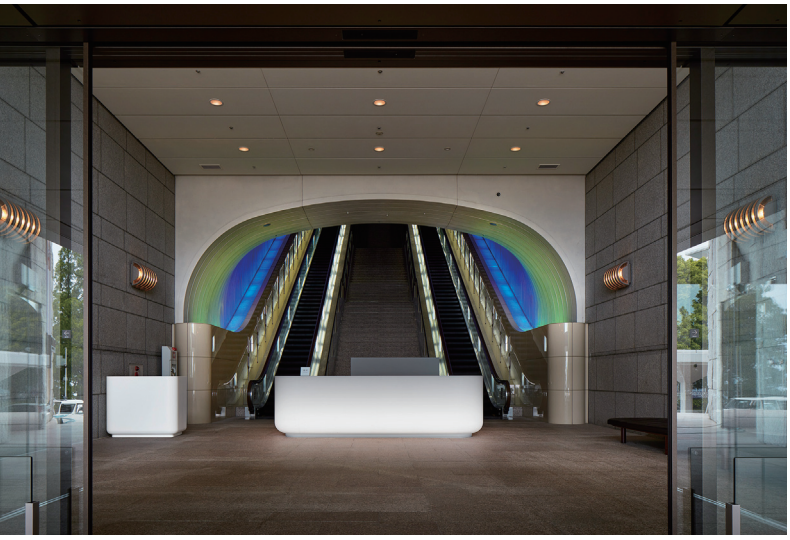
静岡県熱海市の高台に建つ「MOA美術館」。国宝や重要文化財を含む貴重な所蔵作品に加えて、風光明媚な相模灘を一望するロケーションも人気で、開館以来、多くの人々を迎えて来た。建物は周辺の自然環境をそこなわないよう配慮された設計で、山裾のエントランスから山上の本館まで続く全長200m、高低差50mのエスカレーターで地下トンネルを上っていくアプローチ空間「アートストリート」も有名だ。

同館は、開館35年目の2017年2月に全館がリニューアルオープン。アートストリートのエントランスホールも一部改修され、デュポン™コーリアン®製の光るカウンターが置かれた。そこで、アートストリートをはじめ、改修の設計施工を手がけた竹中工務店の橋保宏氏、山近秀樹氏、戸澤和久氏にお話をうかがった。

「実はエントランスホールが少し奥まった位置にあるため、外からは暗く見えてしまい、開館しているか分かりづらいということが、課題として挙げられていました。そこで、当初は壁全体を光らせて視認性を向上させるなどの案も検討していました」と橋氏。しかし、既存の床・壁は石貼り、天井はコンクリートパネルで重厚につくられていたため、最終的には、既存の空間を生かしながら課題を解決し、印象を一新する方法として、ホール中央に光るカウンターを配置するアイデアが採用された。

「光が透ける蛍手という技法をつかった白磁の器を、そっと置いたようなイメージはどうかと考えました」と戸澤氏。空間を明るくすると同時に、来場者へのもてなしを、カウンター自体で表現するというコンセプトでデザインが進められた。「部分的ではなく、カウンターそのものをオブジェのように発光させることで、新鮮な印象にできるのではと考えました。それが実現できる素

光の仄かなグラデーションを表現しながら、躯体の影が出ないよう、光源の配置や躯体の作り方を工夫し、加工協力会社のエイベクスと相談しながら何度も調整を重ねたそう。「そのかいがあり、ほぼ期待通りの仕上がりになりました」と橋氏。



アートストリート エントランス外部。長い庇と風除室の奥にあるため、暗く見えていたエントランスホールの中央に、デュポン™コーリアン®の光るカウンターが浮かび上がり、アイキャッチの役割を果たしている。

材で、かつ、シームレスで三次元に加工できるという点で、デュポン™コーリアン®を選定しました」と山近氏。

光の入れ方にもこだわり、カウンターの底辺に光源を配置してグラデーションをつけることで、重さを感じさせない、浮遊感を演出した。

「既存の空間に馴染ませるのではなく、あえて一つの展示物のような佇まいを目指しました。また、光を通すことで素材感が抽象化され、カウンターそのものが光のオブジェのように見えるので、重厚感あふれる石貼りの空間にも負けない存在感をまとうことができたのではないでしょうか」。

ホール全体を明るく照らし、山上のMOA美術館本館への期待感も高めるエントランスに変貌させた、発光するカウンター。大規模な改修を行わない場合でも、空間のイメージを刷新することができるリフォームの可能性や、デュポン™コーリアン®の表現力を、デザインの力で最大限に引き出した事例と言えるのではないだろうか。

使用色
グラーサホワイト

●所在地　静岡県熱海市桃山町26-2
http://www.moaart.or.jp/
●設計　株式会社竹中工務店　橋保宏、山近秀樹、戸澤和久
●受付カウンター施工　野原産業エンジニアリング株式会社
●デュポン™コーリアン®加工協力　株式会社エイベクス

プランの選択肢を広げる バリエーションと加工性

さまざまな制約のあるリフォーム分野においても、デュポン™コーリアン®の特性が生かされています。

1 3Fのチケットカウンターは、内側のカウンターのみデュポン™プライベートコレクションのグレーリブルに交換。外側のカウンターは寒水石。**2** 寒水石でつくられた2Fの受付カウンターにも、グレーリブルで造作した扉を取り付けた。**3** 館内の茶室に新設した手洗いのカウンターには、白木ともよく合うエクリュが採用された。

「MOA美術館」の改修工事では、アートストリート エントランスホールのカウンターのほかにもデュポン™コーリアン®が採用されています。上の写真でご紹介しているように、既存の造作物を部分的に改修する際にも、色柄が豊富で、さまざまな寸法や形にあわせて加工のしやすいデュポン™コーリアン®は、たいへん使い勝手のよい素材です。

たとえば、現在では入手が難しい国産の大理石「寒水石」が使用されているチケットカウンターの部分改修には、色柄と雰囲気がよく似ているデュポン™プライベートコレクションのグレーリブルが採用されました。

このように既存の素材に馴染ませたいケースも、また、あえて対照的な色や雰囲気のカラーをアクセントとしてお使いいただくケースでも、色柄の豊富さという点で選択肢を広げます。既存の部材との組み合わせ方で、さまざまな雰囲気を演出することが可能です。

既存の建物で造作を行う場合、搬入サイズや設置方法が制限されることも多いのではないでしょうか。分割して搬入し現場でシームレス接着が可能であることも、デュポン™コーリアン®がリフォームに適した素材である理由のひとつです。

リフォームを計画する際、現状の設備や造作物に、使い勝手やデザイン、耐久性などで、なにかしら解決すべき課題があることがほとんどです。デュポン™コーリアン®は、機能性、耐久性、加工性、素材感、デザイン性、選べる色柄の豊富さなど、さまざまな面で、こだわりのご要望にもお応えできる素材です。

Restaurant & DuPont™CORIAN®

神戸の老舗の新店舗に ゆったりと流れる時間を演出

神戸牛ステーキレストラン「モーリヤ 凛」

「キリっとした和のお店をつくってみようと、名前を〝凛〟としました」と話してくださったのは、創業130年以上の歴史を持つ神戸ビーフの老舗「モーリヤ」グループの代表取締役社長、森谷寛氏。レトロなレンガ造りの本店は、外国人観光客も数多く訪れる有名店。その周辺にはスタイルの異なる姉妹店が点在しているが、どの店舗にも行列ができる人気ぶりだ。「モーリヤ 凛」は、同グループの5号店として2016年10月にオープン。上質な和の風情が漂うインテリアが、ほかの店舗と趣を異にしている。デザインを手がけたのは三栄商会の河合慎治氏。「日本の侘び寂びを意識しながら、モダンな空間を目指しました」。

カウンターには、和の雰囲気を演出するデュポン™プライベートコレクションのソレルが使われた。「流れ模様が、水面に光が当たっている様子や、水の中の岩や藻の動きを連想させますね。表面はフラットなのに、動きがあるように見えて、よい柄だと思います」と森谷氏。

同グループでカウンターにデュポン™コーリアン®が使用されたのは今回が初めて。「カウンター内の鉄板で調理を行うため、油を含んだ蒸気が落ちることがあるので、耐久性やメンテナンス性の面から、木のカウンターはあまり向いていません。他店舗では天然石を使用していますが、今回はこれまでにない個性を表現したいと考えて、デュポン™コーリアン®をお勧めしました」と河合氏。さらに汚れを拭き取りやすくするため、表面は艶のある仕上げにした。

実際に使われている店長の山村正美氏に感想をうかがうと、「カウンターをさっと拭くだけでべた付かず、こすり上げなくてよいので手入れが簡単です。継ぎ目がなく、傷もつきにくいので、汚れがたまらなくてよいですね。手を置いたときに冷たい感じがしないところもお客様に好評です」とのことだ。

使用色
ソレル

●所在地　兵庫県神戸市中央区北長狭通1-9-8 クイーンズコーストビル2F
http://www.mouriya.co.jp/lin/
●設計　株式会社三栄商会　河合慎治
●デュポン™コーリアン®加工協力　株式会社ワークス商会

Restaurant & DuPont™CORIAN®

主役の寿司を引き立てる 清々しい無垢のカウンター

すし袋わ

池袋駅の広い構内を出て、老若男女の行き交う駅前の賑わいを通り抜けた頃、控えめな看板が見えてくる。ビルの2階へ続く、小さな階段を上っていくと、心地よい設えで出迎えてくれるのが、2016年11月にオープンした「すし袋わ」だ。店内に入るとまず目に飛び込んでくるのが、デュポン™コーリアン®のカウンター。付け台とカウンターテーブルがやわらかな線で一体化したL字形で、ほどよい光沢と、清潔感のある仕上がりが、酢の香りが漂う清々しい店内の雰囲気によく似合っている。

「打ち合わせの段階で、実際にお使いになる大将から、カウンターは木ではなく、もっと耐久性に優れた素材でつくれないかとのご要望がありました。そこで、寿司店のカウンターではあまり見たことがない、デュポン™コーリアン®がよいのでは、という話になりました」とは、設計を手がけたエム アンド アソシエイツのちば まさゆき氏。さらに日々のメンテナンス性にも配慮し、目地や継ぎ目のない一体型のデザインを採用した。「汚れや傷が付いてしまっても、磨いたり削ることで復元できる無垢材だという点でも、寿司店のカウンターに向いていると思います。デザインや色柄の選び方で、高級感や清潔感など求める雰囲気がだせる素材ですね」。

色味は、同店のオーナーであるアイプランの荒井一氏がセレクトしたデュポン™プライベートコレクションのウィッチヘーゼル。「柔らかい色合いは主役の寿司を引き立て、賑やかな池袋にありながら、落ち着いた雰囲気も演出できたと思います」。実はご自身も住宅などの設計を手がける一級建築士である荒井氏。つくり手の視点から、「想像以上に継ぎ目が目立たなくて、驚きました。内側から光らせる加工なども面白いですね」と話されていた。

使用色
ウィッチヘーゼル

●所在地　東京都豊島区東池袋1-39-2　アドワンビル2F
https://sushibukurowa2016.owst.jp/
●運営　アイプラン株式会社
●設計　有限会社エム アンド アソシエイツ　ちば まさゆき
●施工　有限会社小松建装
●デュポン™コーリアン®加工協力　アイカ工業株式会社

Restaurant & DuPont™CORIAN®

デザインと加工の工夫で天然素材にない空気感をつくる

CRAB canni sienne 北新地（カニジェンヌ）

ザク、ザク、ザク。シェフが見事な手さばきで、一杯のカニを刺身、しゃぶしゃぶ、炭火焼と、さまざまな料理に仕立てていく。その様子を間近で見ながら、出来立ての料理やお酒を楽しむ贅沢な時間。大阪・北新地に誕生した甲殻専門店「CRAB canni sienne 北新地（カニジェンヌ）」は、臨場感あふれる演出も人気の店だ。

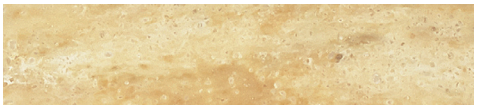
「個室が中心で価格設定も高めのお店ですが、カウンター席は上質なカジュアル感のある空間がよいと考えました。そこで、料理を仕上げる場所と食べる場所がフラットにつながるカウンターをつくり、まるで厨房で食事をしているような雰囲気を提案しました」と、店舗デザインを手がけたヤナギハラ リョウタロウ氏。

シェフを囲むように配置された大きなカウンターはデュポン™プライベートコレクションのサフラン。奥行き1200㎜、長手方向は7500㎜を超えるサイズ。サフランの柄が、切れ目なくつながるよう設計されているので、流れ模様もよりダイナミックな印象だ。

「この空間には、一つの大きなカウンターがあるということにインパクトを集約したかったので、そのほかの装飾的な要素をなるべく排除しました。継ぎ目も感じさせたくなかったので、デュポン™コーリアン®がよいと考えました。サフランは、大胆だけどシンプルで、きれいな柄。流れ模様をつなげることで、一つの石から大きな塊を取り出したような印象にできたと思います」。

飲食店のカウンターなどでデュポン™コーリアン®を使用することが多いというヤナギハラ氏。その理由をうかがった。「クールな感じや不思議な印象など、天然の素材では出すことができない空気感をつくることができるのは、デュポン™コーリアン®ならでは。加工の仕方、色の選び方、使い方次第で、臨機応変に、さまざまな表現ができるいい素材だと思います」。

使用色
サフラン



●所在地　大阪府大阪市北区堂島浜1-3-16 中西堂島ビル4F
http://www.qraud.com/brand-list/canni-sienne/
●運営　株式会社 QRAUD
●設計　柳原良太郎デザイン事務所　ヤナギハラ リョウタロウ
●デュポン™コーリアン®加工協力　株式会社コスモ建材工業

Restaurant & DuPont™CORIAN®

主張をしすぎない個性で、狭小空間を心地よく演出

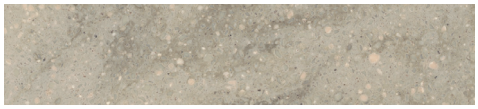
Wine Cave FUJIKONISHI（ワインカーヴ フジコニシ）

中野坂上駅近く、ビルの2階に隠れ家のようなワイン愛好家のオアシスがある。「Wine Cave FUJIKONISHI」は、自然派ワインや日本ワインを数多くそろえるワイン専門店。オーナーはワイン専門誌でテイスターも務める戸谷昌弘氏。老舗酒販店「藤小西」の3代目として、50年以上前からワインを扱ってきたが、創業95年を迎えるにあたり、ワイン専門店へと業態を転換した。店舗面積の大半は、膨大な数のワインが並ぶウォークイン・ワインセラーになっているが、販売しているワインをその場で楽しめる「角打ちスペース」も設けられている。

「軽いおつまみと一緒にワインを楽しんでいただくだけでなく、生産者の方との交流会や、シェフを呼んでマリアージュを楽しむ会などイベントもできるスペースになるといいね、とオーナーと進めてきました」と話してくださったのは、店舗の設計を手がけたBRANCA DESIGN.の水越景子氏。歴史ある酒販店の新店舗にふさわしい品格を、とデザインされたカウンターの素材はデュポン™プライベートコレクションのセージブラッシュ。「限られた空間なので、比較的大きな面積を占めるカウンターはお店の看板的存在。そこでまず、カウンターありきで全体をデザインしました」。

カウンターの素材は、グラスを置いたときのあたりが優しいという理由から人工大理石に絞って検討。温かなセージ色（緑色）を帯びたベージュに、やわらかなブロンズの流れ模様と大きめの半透明の粒のコントラストのセージブラッシュに惚れ込みマテリアルを合わせていったという。「石にはない意匠性がありながらも主張しすぎず、ニュートラルで上質感もあります。もしも天然石を選んでいたら、もう少し狭く感じていたかもしれませんね」。素材選びが難しい狭小空間でも、デュポン™コーリアン®の独特な色合いや柄が、ちょうどよい存在感となっていると話してくださった。

使用色
セージブラッシュ



●所在地　東京都中野区中央 2-2-9-201
http://www.fujikonishi.co.jp/
●運営　株式会社 藤小西
●設計　BRANCA DESIGN.　水越景子

生活シーンに溶け込む収納、変化をもたらすデュポン™コーリアン®

家族の成長やライフスタイルの変化にあわせて、自由に形を変えながら、ずっと暮らしに寄り添うインテリアを提案しているアクシス。主力ブランド「ce-fit」は、ミリ単位でオーダー可能な収納システム。「可動式間仕切収納」をはじめ、デュポン™コーリアン®のカウンターと組み合わせたオリジナルデザインなど、幅広いバリエーションで、暮らしを豊かにする収納を提案。住宅設備用金物の製造、デュポン™コーリアン®を使った造作カウンターやテーブルなどの加工も手がけている。

1946年に仁川木工所としてはじまったオーリスグループの一員である同社は、このたび、グループ創業70周年にあわせて大阪のショウルームをリニューアルオープン。コンセプトは「背景が主役」。独自の技術で叶えた「ce-fit」の機能性やフレキシブルな特性をあえて主張せず、インテリアを引き立てる背景として見せることで、魅力を伝えるという構成だ。「ce-fit」に囲まれた空間には、デュポン™コーリアン®のカウンターやテーブルも展示されている。打ち合わせなどに使用されるテーブルのトップには、「いままでにない色柄で、新しい提案をしたい」「存在感はありつつ、打ち合わせはゆっくりできる色味」といった視点で、デュポン™プライベートコレクションのソレルとレインクラウドが採用された。

収納だけにとどまらず、住まいのインテリアをトータルで見渡すことができる「ce-fit大阪ショウルーム」。新築やリフォームの際のインテリア計画のイメージづくりにも、役立つことだろう。

GROUP AXIS アクシス株式会社

アクシス株式会社 ce-fit大阪ショウルーム
大阪府大阪市西区南堀江2-13-26 アクシスビル TEL:06-6536-2030
営業時間 平日9時～18時（休業日:土・日・祝）<事前予約制>
http://www.ce-fit.com/

DuPont™
CORIAN® デュポン™コーリアン®

デュポン™コーリアン®ニュースはWEBでもご覧いただけます。
www.corian.jp

◎施工事例募集　デュポン™コーリアン®を使用した施工事例を募集しています。詳しくは下記までお問い合わせください。

MRC・デュポン株式会社 〒107-0062 東京都港区南青山1丁目15番9号 第45興和ビル TEL:03-5410-8551 FAX:03-5410-8501

©MRC・デュポン株式会社 著作権:いかなる形式においても許可無く、本誌の一部または全部の複製を禁じます。©2017 DuPont-MRC Co.,Ltd. All rights reserved. "CORIAN®"および"コーリアン®"は、米国デュポン社の登録商標です。

いつまでも快適に。
地域の人を見守るカウンター

医療法人社団敬悠会　副都心病院

池袋の隣町でありながら、閑静な住宅街が広がる豊島区要町に新しい病院がオープンした。

「もともとは、理事長、院長のご祖父様が、この土地で地域に密着した診療所を開かれていました。そのご遺志を継ぎ、あらたに療養型病院として、副都心病院を開院されました」とおっしゃるのは、設計を担当された依田英和氏。療養型病院は、急性期の治療が終わり、慢性期に入った人が療養を目的に入院する。そのため入院が長期にわたることもある。

「患者さんにとっては、ご自宅と同じように長い時間を過ごす場所になりますから、病院らしくない病院になるように心がけました。ホテルのように寛ぎを感じていただきたいという思いもあり、インテリアは、落ち着きややわらかさを意識しながら、モダンなデザインとしました。素材については、経年後も美しさを保てるものを選んでいます」と依田氏。

たとえば、病院の入り口から待ち合いへと続く空間の壁面は塗装やクロスを避け、キズや衝撃に強い化粧板を採用。受付の背面は大理石張りだ。上質な素材でコーディネートされた空間で、優しい輝きを放つ丸みを帯びたL字形の受付カウンターは、コーリアン®プライベートコレクション シラスホワイトで作られている。足下に向かって絞られた錐形の三次曲線デザインで、カウンターの前に立っても足先があたらない。

「塊のように見せたかったので、目地ができず、継ぎ目が見えない素材で、蹴込み部分まで一体化したデザインにしたいと考えました」と依田氏。まさに、コーリアン®の特性にぴったりの形状だ。「実はコーリアン®が好きで、住宅設計ではラバトリーボウルやキッチンシンクなどによく採用しています。耐候性はもちろん、耐薬品性にも優れ、今回のような病院建築でも安心して採用できる素材ですね」。

地域に寄り添う病院の顔として、コーリアン®のカウンターはいつまでも、美しく、快適な使い心地を提供していくことだろう。

L字形のカウンターは、病院の入り口と待ち合いの両方向にスタッフの目が行き届くよう配慮したデザイン。文字は切り抜き、裏に透明のアクリル板を貼って、内側から光を当てている。

使用色
シラスホワイト

●所在地　東京都豊島区要町1-18-5
http://www.fukutoshin-hp.jp/
●設計　依田英和建築設計舎

明るくモダンな空間で
優雅なひとときを

小田急電鉄 ロマンスカー・GSE（70000形）

岡部憲明アーキテクチャーネットワークが設計を手掛けた既存車両のロマンスカー・VSE（50000形）でも採用されている手洗いボウルをはじめ、座席間の窓際に設置されたテーブルなどにもコーリアン®が使用されている。

2018年3月、新宿と箱根、江の島などの観光地を結ぶ小田急電鉄の特急ロマンスカーに新型車両「GSE（70000形）」が登場した。「GSEは、ロマンスカーの伝統的なスタイルを継承し、同年7月に惜しまれつつ引退した車両「LSE（7000形）」の代替車として計画されました。最大の魅力は、車窓からのダイナミックな眺望です」と説明してくださったのは、小田急電鉄の車両担当・松下陽士氏。

ロマンスカーの象徴ともいえる「展望席」のある先頭車両は、フロントガラスに大型の曲面ガラスを採用。さらに荷棚を設けないことでダイナミックな眺望を実現している。また、車体側面の窓には高さ1mの曲面ガラスを採用し、一般席でも風景を存分に楽しめる設計になっている。

車両設計を担当した岡部憲明アーキテクチャーネットワーク代表の岡部憲明氏にもお話をうかがった。「私たちがデザインの本質で大事にしているのは、内部空間をいかに広く獲得するかということです。それこそが、居住性を豊かにする最大の要素だからです。空間的に余裕があるとはいえない車両の設計では、荷棚のインパクトを最小限に抑え、天井を広く見せることが必要でした。そこで、空に浮かぶ雲のようなやわらかい表現で、空間性を損なわない荷棚をデザインしました」。

曲線を描く荷棚の下面と、窓の間のキセ部分の素材に採用されたのがコーリアン®だ。「加工性だけでなく、視覚的に伝わるテクスチャーも意図する空間性につながる素材でした。通常、木質系の温かさを適度に入れる、というのが私たちの設計方針ですが、GSEでは、より明るく、モダン性をもう一歩押し出そうという意識がありました。コーリアン®は木や石のように誰もが感じる優しい印象のテクスチャーと、モダンな表現力をあわせ持つ素材だと思います」と岡部氏。

同事務所の山口浩司氏も、コーリアン®を選んだ理由について次のように語ってくださった。「耐火性や安全性など、車両に使用する素材にはさまざまな制限があります。そうした条件をクリアしつつ、自由な形状をつくれること、さらに比重が2を切る軽さも決め手になりました。私たちにとってはキッチントップをはじめ、非常に馴染みのある素材で、耐久性にも信頼があり、メンテナンスがしやすいこともよく知っていましたので、自信を持って選ぶことができました」。

不特定多数の乗客が、さまざまな条件下で利用する車両空間では、あらゆるケースを想定して、設計、デザイン、素材の選定を行わなければならないという。それでも、ロマンスカーに乗車しているひとときを、より快適に、優雅に過ごしてほしいと、電鉄会社とデザイナーが力を合わせて、これまでにない提案を詰め込んで生み出したのが、ロマンスカー・GSEだ。「車両づくりは非常にシビアな世界です。その中で、新しいことに挑戦できるというのは、小さな一歩ではなく、大きな前進と言えます」と岡部氏。それはコーリアン®にとっても大きな一歩であることは間違いない。

使用色（左から）
カメオホワイト、シラスホワイト

●企画・運営　小田急電鉄株式会社
●デザイン　岡部憲明アーキテクチャーネットワーク
●コーリアン®加工協力会社　株式会社エイペクス

観光地と街の間に心安らぐ場所を

小田急電鉄 新宿駅西口地下改札&トイレ

男性用トイレ、女性用トイレとも広々とした空間に、ラウンドデザインやウッディな素材を採用し「駅の喧騒の中、ひととき安らぎを感じる場所としてのトイレ」を演出。ユニバーサルデザインを採用し、天然オイルを活用したアロマや四季に合わせた生花も常時飾られている。手洗いカウンターやパウダールームのカウンターに加え男性用小便器の後ろのライニングにもグラーサホワイト、ブース内の洋便器上のライニングにはグレイシアホワイトを使用。
PHOTO : Kenjiro Yoshimi (studio BAUHAUS)

小田急電鉄では、２０１４年から新宿駅中央連絡口改修工事に着手し、西口地下改札周辺のリニューアルを進めてきた。２０１７年12月には、その仕上げともいえる改札内トイレの改修が完了。先行してリニューアルを終えていた改札と相まって、一帯が明るく、便利に生まれ変わった。

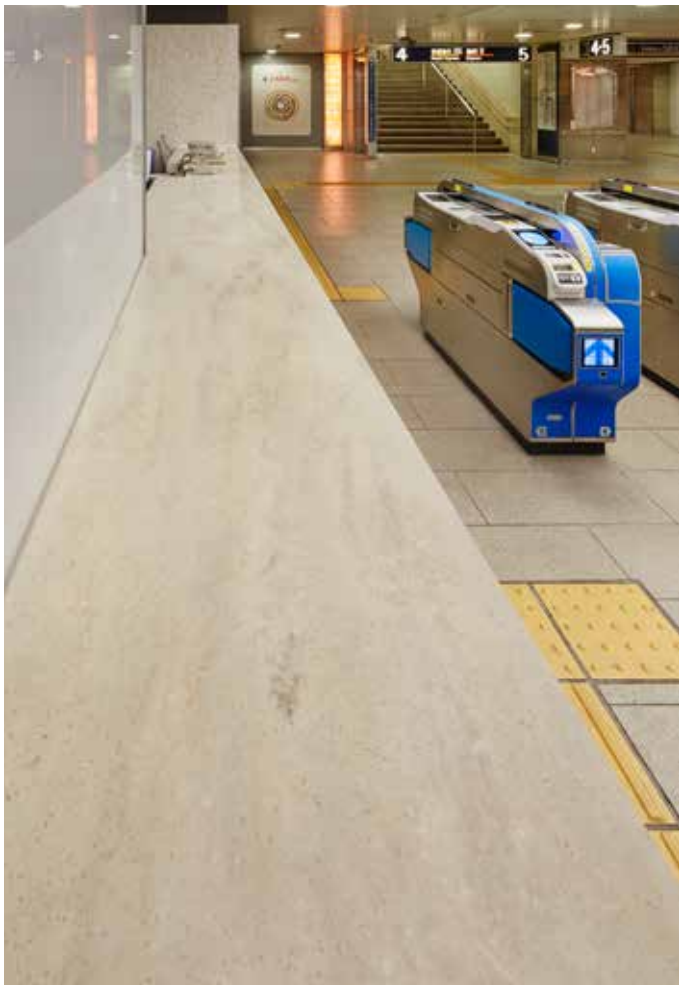
「1日に平均約50万人の乗降がある小田急線最大の駅として、また、箱根や江の島への玄関口としてもふさわしい、ランドマークとなるような空間を目指しました」と話してくださったのは、小田急電鉄の立山仁章氏。トイレと改札の間などに配置されたガラス壁にはストライプや波の泡をイメージした丸模様、寄木細工模様があしらわれ、新宿の都会的な印象や観光地につながるわくわく感を演出している。また、トイレ内を含め、空間一帯がラウンドデザインで統一され、やわらかい印象が演出されている。コーリアン®で製作された改札中央カウンターも、丸みを帯びたU字型だ。

改札周辺の設計・監修・施工を担当したのは総合建設会社のフジタ。「カウンターはアール加工がきれいにできる素材ということで、コーリアン®を選びました。片側約７ｍの長さのあるカウンターを継ぎ目なくつくることができたのもコーリアン®ならではですね。色については、キャリーケースなどを持って通る方も多いので、側面には傷や汚れの目立ちにくい、柄のある濃色を選びました。天板については、カウンター上部が光天井になっているので、落ち着いた白系を使用することで、きれいに反射し、明るい空間になるのではないかと考えました」と、同社の鈴木沙祐里氏。

既存の広さの中に決まった数の改札を配置しなければならないなど、サイズ面での制約もあるため、天然石などに比べて、下地に幅をとらない点も決め手になったそう。

また、面積を改修前の2倍に拡げ、授乳室やパウダールーム、情報ディスプレイなど、さまざまな機能を備えて、「快適すぎる」と各方面で話題になっている改札内トイレの随所にも、コーリアン®が採用されている。設計を担当した設計事務所ゴンドラによると、「多様な人々に利用される駅のトイレとして、水回りには耐久性、耐水性、加工性、清掃によって常に新鮮味を失わない復元性に優れたコーリアン®を選択しました。また、硬質な素材に囲まれたトイレに、マットな優しい素材感が加わることで安らぎを感じられ、利用されているのではないでしょうか」とのこと。

また、前述の立山氏は「弊社では10数年前から駅のトイレを快適にすることで、会社のイメージアップを図ろうと、各駅で改修工事に取り組んできました。新宿駅は、これまでの集大成であり、これからの先駆けになるトイレにできたのではないでしょうか」と話してくださった。



使用色（左から）
レインクラウド、グラーサホワイト、グレイシアホワイト 他

●所在地　東京都新宿区西新宿 1-1-3
●設計（改札周辺）　株式会社フジタ一級建築士事務所
●設計（トイレ）　有限会社 設計事務所ゴンドラ
●施工　株式会社フジタ
●施工協力　信越ファインテック株式会社
●コーリアン® 加工協力会社　大日化成工業株式会社

働く環境を心地よく整えた世界基準のモノづくり拠点

日本圧着端子製造 東京技術センター

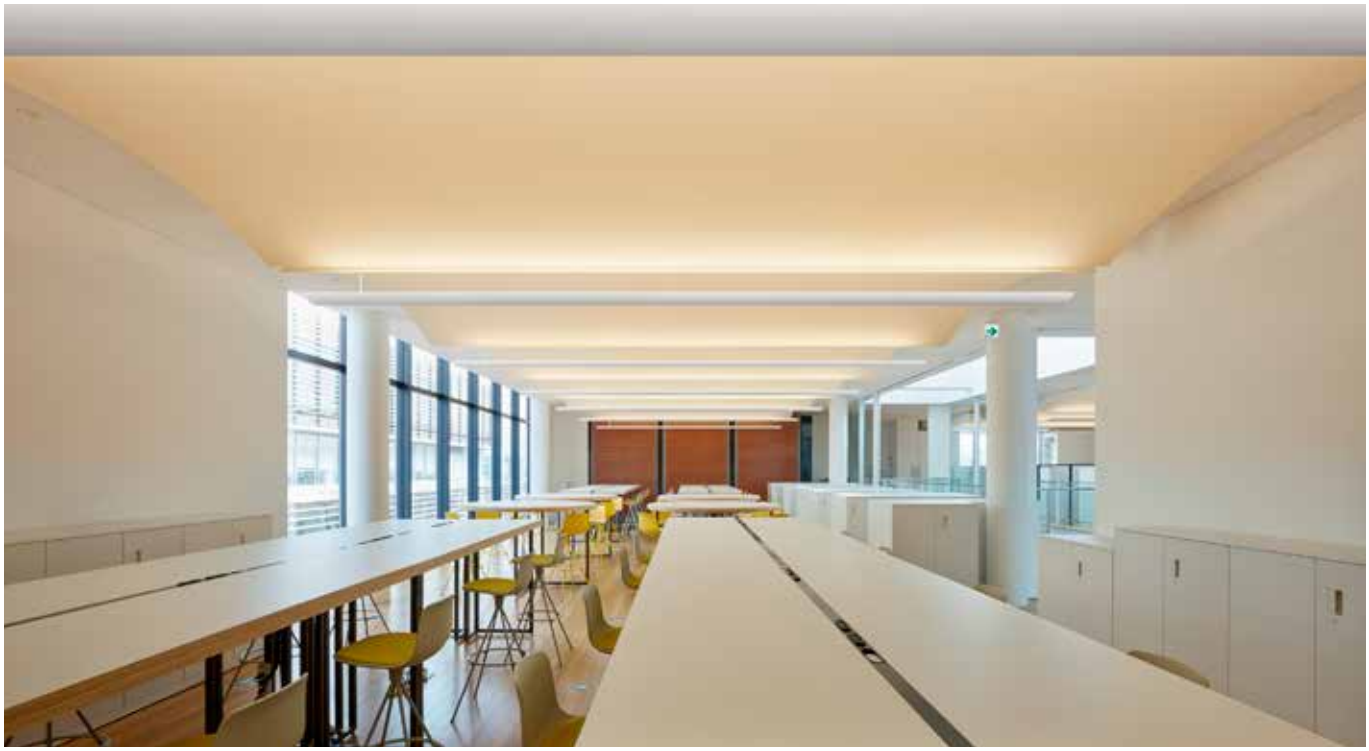
1957年創業の日本圧着端子製造は、携帯機器や自動車などに使用される電子接続部品コネクタのメーカーで、国内NO・1のシェアを誇るリーディングカンパニー。世界18カ国に拠点を持つグローバル企業で、国内にも22の拠点を置く。開発拠点の1つ「東京技術センター」の新棟が2017年末に完成。設計・監理を手掛けたのは岡部憲明アーキテクチャーネットワーク。同事務所が日本圧着端子製造の建物を手掛けたのは、東京技術センターで6つめになる。

「今回は、一期工事として2009年に竣工した棟と中庭を挟んでつながる新棟を増築し、この二期工事で東京技術センターの建替えが完了しました。新棟は地上5階、地下1階の建物で、業務に必要な空間をコンパクトにまとめながら、吹抜けや屋上菜園を設けるなどして、心地よく働ける環境を整えています」と岡部憲明氏。

2階から4階は、営業職のスタッフが使用する執務スペース。各階をつなぐ吹抜けに面して開かれたオープンスペース型のオフィスは、間接照明の光がやわらかく反射する筒型のボールト天井が特徴的な空間だ。曲線の美しい天井に合わせてデザインされた照明はコーリアン®で製作。

「天井というのは、空間の中で視界に占める割合も大きいので、大事にしている部分です」。と話す岡部氏の手掛ける建築では、天井裏には空調ダクトを配置せず、天井の高さを確保し、点検口などデザイン的に余分な要素を増やさず、照明の光源を見せないなど、いくつかの共通するルールが適用されている。

「今回は、一期工事と同じボールト天井を採用しました。連続して美しく納まる天井に対して、照明器具も同じぐらいの精度で納めたいと考えていました。既製品の照明器具を使用すると、ど



うしても継ぎ目が生まれてしまいますが、シームレス接着ができるコーリアン®なら、理想的な照明器具をつくることができるのではないかと考えました」と同事務所の山口浩司氏。そこで、長さ4900㎜の照明をコーリアン®で製作し、ボールトの間から吊り下げるプランを作成。照明器具自体は骨組みや継ぎ目がまったく見えない仕上げで、天井への取り付け部分も見えにくく工夫されている。「コーリアン®は、それ自体で形をつくることができるので、必要なパーツが少なくなり、コスト的にも十分見合うのではないかと判断しました。実際、既製品のデザイン照明を使用するよりもコストを抑えることができました」とのこと。

「オフィスであっても、空間の豊かさやアットホームな部分は必要だと考えます。日本圧着端子製造のオーナーはそうした考えにも非常に理解をお持ちです。グローバルな企業ですからなおさら、そうした意識が高いのかもしれませんね」と岡部氏。心地よく整えられたオフィス環境からは、企業としての魅力を底上げし、優秀な人材の確保、定着につなげたいという想いも伝わってくる。

使用色
カメオホワイト

●所在地　神奈川県横浜市港北区樽町4-8-24
●設計・監理　岡部憲明アーキテクチャーネットワーク
●コーリアン®加工協力会社　株式会社エイペクス

見て、触れて実感できる未来へと続くストーリー

コクヨ 品川SSTライブオフィス

コクヨが全国で展開している「ライブオフィス」をご存じだろうか。大手文具メーカーとして広く知られる同社だが、実は、文具やオフィスファニチャーといった「モノ」のみにとどまらず、オフィスの空間の在り方を通じて新しい働き方の提案にも力を入れている。「ライブオフィス」は、同社の社員が実際に働いている姿を公開し、働き方に関するさまざまな課題を解決する「オフィスの使い方」を具体的に提案するという画期的な取り組み。約50年前にスタートし、現在では「霞が関ライブオフィス」、「梅田ライブオフィス」、「名古屋ライブオフィス」をはじめ、全国28拠点に設けられている。

今回ご紹介する「品川SSTライブオフィス」は、2017年10月、首都圏に分散していたいくつかの拠点を統合移転する形で新設された。「移転にあたり、弊社の社長から、これまで別々だったステーショナリー部門とファニチャー部門が集約されたということを実感し、この先のコクヨが目指すべき姿を体感できるオフィスにしたいとの要望がありました」と、新オフィスのデザインを手掛けた同社の石井一東氏。その要望を形にするべく、エントランス空間のコンセプトを「ONE STROKE・NO LOOP・NO END.」とし、空間全体で、「一本の太い線として未来に向けて成長し続けること」をダイナミックに表現。床に貼られた150㎜角のモザイクタイルを起点に、コーリアン®でつくられた造形が、ベンチからテーブル、ディスプレイへと連続して変化しながら、最後は天井へとつながっていくデザインで、同社の過去・現在・未来を具現化した。

オフィスを案内してくださった同社ファニチャー事業本部の近藤崇弘氏によると、「弊社の事業は一枚の紙からスタートし、次に帳簿を収めるキャビネットなどの家具づくりがはじま

1 コーリアン®でつくられた「ストーリング」はまるで宙に浮かんでいるように見えるが、ミラーステンレス製の脚部に床材のタイルが映り込むように計算して、浮遊感を演出。**2**、**3**「品川SSTライブオフィス」は約1460坪のフロアのほとんどがフレキシブルなオープンスペースで、エリアごとにテーマを変えてさまざまな「働き方」「オフィス空間の在り方」を提案。（画像提供：コクヨ株式会社）

りました。やがて文具や家具を売るだけでなく、空間を構築する事業へと拡がっていった歴史も表現されています」とのこと。

デザインの核となっているコーリアン®でつくられた未来へと向かう一本の線には、「ストーリング」という名前がつけられている。「ここから新しくストーリーが生まれ、続いていくという意味と、一本の線をあらわすストリングの意味を込めました」と石井氏。その素材として、コーリアン®を選んだ理由もうかがった。「床から天井まで、連続する面材でつながっていくデザインのため、ジョイントが目立たないことが条件でした。さらに、ベンチやテーブルとして利用することを想定していましたので、人が触れたときの温かみや感触も重視しました。空間や肌に馴染みやすい独特の優しい素材感を持つコーリアン®を中心に置いたことで、エントランス全体の印象が未来的になりすぎず、やわらかく仕上げることができたと思います」。

モダンな中にも、心地よさや人に寄り添う温かみを忘れないデザインに、同社らしさを感じた。

使用色
カメオホワイト

●所在地　東京都港区港南1-2-70 品川シーズンテラス18F
https://www.kokuyo.co.jp/com/liveoffice/
●デザイン　コクヨ株式会社

ホテルのようなラグジュアリー感で学生を受け入れる専門学校

東京山手調理師専門学校（認可申請中）

2019年4月、世田谷区に東京山手調理師専門学校（認可申請中）が誕生予定だ。開校に先立って完成した校舎は既存のオフィスビルを全面リニューアルした建物。調理に使われる「火」をイメージした赤色をアクセントにしたモダンな外観は、デザイナーズホテルのような佇まいだ。

「こちらは、大阪の学校法人である村川学園の東京での2校目の調理師専門学校になります」と案内してくださったのは施工を担当した薩摩建設の松村俊明氏。2016年に渋谷に開校した同法人の山手調理製菓専門学校の施工も手掛けたそう。「世田谷の校舎は、内装をスケルトン状態に戻してからの大規模なリニューアル工事でした」と松村氏。建物内には、和洋中の実習室をはじめ、寿司カウンターやバー、カフェトレーニングのためのケーキショップなども備えている。

「学校らしくなく、というのが、デザインのコンセプトでした」と説明してくださったのは、設計を手掛けたマッズプランニングの神山新氏。調理師専門学校として必要十分な機能を満たしながら、上質感やインテリア性、遊び心のあるデザインを取り入れ、他校との差別化を図ったという。「クライアントは、数ある競合校の中から、より多くの学生に選んでもらえるよう、プログラムや設備を充実させるだけでなく、校舎のデザインもPRやブランディングの一環と考えています」と神山氏。各階の実習室もデザイナーズレストランのキッチンさながらだが、圧巻は、何といっても2階まで吹抜けの広々としたエントランスホールだ。木製ルーバー貼りの天井と大理石調タイルの床、ラグジュアリー感溢れる中に大きなインテリアがゆったりと配置され、正面奥には、ほんのり輝くコーリアン®で作られた受付カウンター。まるでホテルのロビーのような空間が広がっている。「2階天井の照明と1階のインテリア、受

付カウンターのデザインをすべて『サークル』でリンクさせています。上下階を一つの統一された環境として捉えられるように設計しました」。

受付カウンターは、大きな弧を描きながら隣接する壁に吸い込まれていくダイナミックかつ繊細な形状。カウンタートップから側面、蹴込み部分まで、デュポン™プライベートコレクションのシラスホワイトを用いて、曲げ加工とシームレス接着で、流れるようなフォルムを実現している。「アールのデザインでは、目地やつなぎ目がでないという点で、コーリアン®を使うことが多いですね。独特の素材感も、やわらかさや上質感を演出できる要素だと感じます」。水回りはもちろん、店舗のカウンターなどで、白系のコーリアン®を採用することが多いという神山氏。「ボリューム感のある造作に用いる場合、単色の白だとのっぺりとした印象になりがちなので、流れ模様の白系の中で一番上品に感じるシラスホワイトを選ぶことが多いですね」と話してくださった。

次の春には、この美しく整えられた校舎に多くの学生が集い、活気で溢れていることだろう。

使用色
シラスホワイト

●所在地　東京都世田谷区深沢8-19-19
●運営　学校法人村川学園
●設計　株式会社 マッズプランニング
●施工　薩摩建設株式会社
●コーリアン®加工協力会社　株式会社 インテック

甘く幸せな香りが漂う お菓子広場のシンボル

ちぼり湯河原スイーツファクトリー

贈答用アソートクッキーのパイオニアである「ちぼり」が、2017年11月に湯河原の自社工場を、直営ショップなどを併設した「五感で楽しむスイーツファクトリー」としてリニューアル。「当社初の小売店舗ともいえる『お菓子の道の駅』のイメージで、お客様の反応も直接わかりますね。リニューアルにあわせて湯河原のみかん、片浦のレモンを使ったご当地スイーツも開発しました」とお話しくださったのは「ちぼり湯河原スイーツファクトリー」店長の大木弘丈氏。

店舗設計を手掛けたのはwachinetの和知暖子氏だ。「菓子工房やカフェ、体験コーナーなども併設し、地元の方々と観光客の方々にも立ち寄っていただけるスペースを提供したいとのお話でした。限られた面積に多彩な要素をどのように収めるのがよいか検討しました」。そこで、社名である「ちぼり」の名前の由来となったイタリアの都市「チボリ」の噴水からイメージを膨らませ、円形広場の周りにお菓子のマルシェが広がるというコンセプトを提案。「中心には、ちぼりさんのロゴを立体化したオブジェをつくろうと思いました」。和知氏はそのアイデアを、店舗の施工を担当する石渡産業の石渡慎一氏に相談。「中心に置くオブジェとしてふさわしい品格があり、お菓子の材料をイメージさせる白を使いたいという話を聞き、素材にはコーリアン®がよいのではないかとお勧めしました」と石渡氏。「自然素材に匹敵する素材感や華やかさがあり、衛生的。末永く同じ場所にあり続けるシンボルの素材として経年変化が少ない点もぴったりでした」と和知氏。早速、コーリアン®の加工を数多く手掛けるエイペックスの榎本治展氏を交え、三者でイメージを形にしてゆく作業がはじまった。「デザイン性」と「コスト」「強度」を両立するため、さまざまなつくり方が検討されたが、最終的には榎本氏からの提案でドーナツ状のパーツを30〜40層に重ねてつくる方法を採用。「設置後に分解して移動する可能性があるということや安全面も考慮してこの構造がベストだと判断しました」と榎本氏。

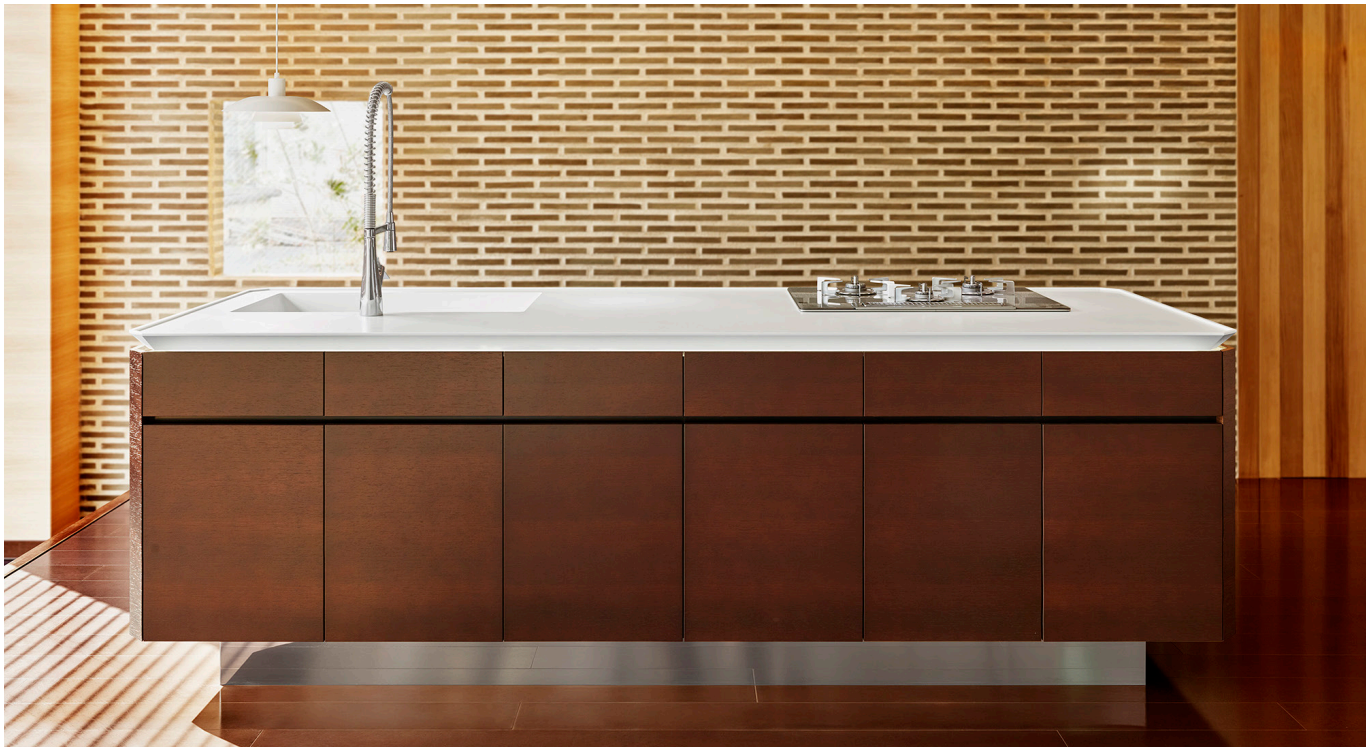
こうして完成した噴水のオブジェは、砂糖菓子やメレンゲのように美しく上品な佇まいに。甘い香りに満たされた店内で、次々に生み出されるおいしい笑顔を象徴するように、時を超えて輝き続けるシンボルとなることだろう。

使用色
カメオホワイト

●所在地　神奈川県足柄下郡湯河原町土肥1-15-4
http://www.tivoli-factory.com/
●運営　株式会社ちぼり
●設計　wachinet 和知暖子
●施工　石渡産業株式会社
●コーリアン® 加工協力会社　株式会社エイペックス

コンロが美しく映える
ショールームのキッチン

つばめガスショールーム



1950年創業、岡山市に本社を構えるつばめガス。岡山・倉敷・福山の地に密着し、ガス・通信・電気事業をはじめ住まいや生活に関わるすべての事柄の身近なアドバイザーとして事業を展開している。その一環として、顧客がいつでも自由にガスコンロの実物に触れ、検討することのできるコンロ専用のショールームを設けている。

「コンロはホームセンター等でも展示されていますが、あえてつばめガスに足を運んでくださるお客様に、当社ならではの付加価値をお届けしたい。そこで多くのお客様が好まれる高級志向で独自性のあるオリジナルキッチンを作り、いま最もおすすめしたいコンロを展示する手法をとっています」と説明してくださったのは、つばめガス代表取締役の桑原怜氏。

ショールームのメインステージでコンロの美しさを引き立て、自らも堂々たる存在感を放つキッチンのカウンタートップに採用されたのがコーリアン®。「コーリアン®のよさは、サイズや形を自在につくれて、高級感があること。以前もコーリアン®を使用したキッチンを置いていたのですが、お客様にとても好評でしたので、今回も迷わず指定しました。製作に際しては、使い手を選ばず万人に受け入れられながら、他にはないシンボリックでワクワクするようなデザイン、実際の家庭に設置しやすいサイズ、そして何よりコンロが美しく映えることを重視しました」と桑原氏。

デザインを手掛けたのは今井商店の今井氏だ。「カウンタートップのコーリアン®はコンロが映えるミルキーホワイト、キャビネットは床の色との調和を考えて濃い茶と、色のイメージからスタートし、それに適したフォルムを追求しました」と今井氏。ショールームの中でキッチン自体が大きなボリュームをもつため、その重量感をできる限り感じさせないデザインにすることを特に意識されたそう。「コーリアン®は側面を斜めにカットしたように仕上げ、コーナー部分も角を落とすようにデザインし、軽やかさを表現しました。さらに天面の周囲に立ち上がりを付けることで洗練された趣を表現すると共に、水仕舞いのよさも叶えてデザイン性と機能性を両立させています。微調整を重ねて導き出した側面の仕上げや立ち上がりの角度を忠実に表現できる加工性の高さもコーリアン®の魅力です」と今井氏。さらにカウンタートップとキャビネットの境界にLED照明を組み込み、光によっても浮揚感を演出。「光色はコーリアン®がより美しく見えるように限りなく白い色調に。また、キャビネットの蹴込み部分をステンレスの鏡面仕上げにすることで床との距離感を表現し、ここでも浮揚感を強調しました」。

コンロが美しく映え、独創性に満ちたデザインはお客様からも驚きをもって注目され、キッチンに装備されたコンロが最も売れているという期待どおりの結果に。桑原氏は、「コーリアン®を採用することで、人の温かさ、ガスのある暮らしの温かさを表現できたと感じています。弊社リフォーム事業部では、オーダーキッチンを含めたリノベーション提案も行っていますが、お客様から質問を受けることも多く、会話のきっかけになっています」と話してくださった。

使用色
ミルキーホワイト（2019年3月カタログ掲載終了色）

●所在地　岡山県岡山市南区福田174
www.tsubamegas.com
●設計デザイン・施工　神戸 今井商店　今井智仁
imai@world.ocn.ne.jp
●コーリアン®加工協力会社　マーブル建材株式会社

寛ぎの時間を生む
表情豊かな素材の共演

新千歳空港　ANA SUITE LOUNGE／ANA LOUNGE

隈研吾氏監修による「ANAラウンジ」が新千歳、伊丹、福岡など各地の空港で相次いでオープンし、話題を集めている。共通するコンセプトは「一期一会」。〝伝統的日本美〟と〝先進性〟を融合したこれまでにない新しいラウンジ空間を提供したいというANAの想いを、その言葉に込めた。各空港でデザインの方向性は共有しつつ、それぞれの地域性をマテリアルやディテールに反映しているという。

その第一弾となった新千歳空港は2017年9月にリニューアルオープン。ラウンジに入るとすぐに苔をあしらった「山」のある大きなカウンターテーブルが置かれている。

「一人でも気軽に座ることができる席を設けたいというご要望があったので、大きなワークテーブルをイメージしてこちらを提案しました。空間を象徴する存在になるので、なにか地域性を感じさせるものを取り入れようという話になり、北海道の大地や空港周辺の丘陵地帯の景色を抽象化してこのように表現しました」と話してくださったのは、隈研吾建築都市設計事務所の名城俊樹氏。

テーブルのワークトップにはコーリアン®のホワイトオニックスが採用された。ブラウン系の床面やファニチャーに囲まれて、透明感のある白いテーブルは特別な雰囲気を醸し出している。

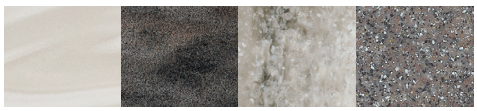
「大きな面になりますので、少し表情のあるもの、高級感のあるものにしたいということで、ホワイトオニックスを選びました。シームレスに仕上げており、模様が大きいのでジョイント部分のつながりが不自然にならないか少し心配していましたが、まったく問題ありませんでした」。

ほかにも、ラウンジ内のコンシェルジュカウンターや滑走路に面した東側の壁一面に造りつけられたカウンターのワークトップ、ソファ席の肘掛部分、マガジンラック、返却台など、さまざまな場所にコーリアン®が採用されている。「メインのカ

ウンターテーブルに関しては、これだけの大きさなので、それに対応する強度があり、さらに現場でジョイントができる素材でなければなりません。ほかの部分については、たとえば輪染みがつかないこと、汚れを拭き取りやすいこと、削れにくいことなど、ＡＮＡさんから示された機能面の条件をクリアし、空港という場所でのハードユースに耐えられる素材を探すとなると、コーリアン®に変わるものはなかなかみつかりません」と名城氏。

ラウンジ内の壁には北海道産の栓（せん）の木の板材が貼られ、飛行機のフラップをイメージした天井には和紙、壁の巾木や家具の蹴込みにはブロンズの硫化いぶし仕上げなど、表情豊かな自然素材が採用されている。その中にあっても、流れ模様や石目柄のコーリアン®は自然に馴染み、ほかの素材とともに、ラウンジ空間にふさわしい居心地のよさを生み出している。柄のあるコーリアン®の使い方について名城氏にうかがってみると、「最近の我々の意匠の方向性にも通じるのですが、シャープにデザインしながらも、ミニマルになりすぎないところを目指す場合は、少し模様が入ると、ナチュラルな雰囲気をつくりやすいですね」と語ってくださった。

使用色（左から）
ホワイトオニックス、ソレル、ヘーゼルナッツ、
シエラバーントアンバー（2019年３月カタログ掲載終了色）



●デザイン監修　隈研吾建築都市設計事務所
●設計・施工　清水建設株式会社

伝統と未来をつなぐ お菓子のショーケース

フジバンビ

「黒糖ドーナツ棒」は、熊本の人なら誰もが知っている、世代を超えて愛されてきた定番の菓子だ。製造元は1948年創立のフジバンビ。「かどの駄菓子屋」の称号で親しまれてきた同社だが、創業70周年を迎えた2017年には新ブランド「フジバンビ スイーツファクトリー」を立ち上げ、新たな商品の開発にも力を入れている。熊本市の老舗デパート「鶴屋百貨店」内には、既存の商品群とは別に、新ブランド専門の売り場を設け、若い世代など新しい顧客層へのアピールも行っている。

「こちらの売り場は、新ブランドを応援してくださる鶴屋百貨店さんから売り場面積拡大のお話をいただき、従来の『かどの駄菓子屋フジバンビ』と新ブランド『フジバンビ スイーツファクトリー』の2ブランドショップコーナーとしてリニューアルしました」と話してくださったのは、フジバンビ営業部　後藤明氏。売り場のデザインは、女性を主なターゲットにした洋菓子ブランドである「フジバンビ スイーツファクトリー」にふさわしく、スタイリッシュで高級感のあるものを希望された。「新ブランドで他社の売り場との差別化をはかりながら、これまで『かどの駄菓子屋フジバンビ』として築いてきた温かみのあるイメージも大切にしたいと考えていました。2つのブランドをそれぞれ確立させながらも共存させたい、とお願いをしました」とフジバンビ　吉田恵理氏。

この課題を解決するプランを提案したのが、什器のデザイン、店舗設計、ディスプレイやVMDなど商空間にまつわるさまざまなデザインを手がける京屋の奈良浩二氏だった。「既存の商品とのマッチングや昔ながらの商品をご愛顧くださる年配の方にも受け入れられる売り場でなければなりません。大人っぽく、スタイリッシュで高級感のある雰囲気をさりげな

1、2　フジバンビの頭文字「F」をあしらったショーケース。『かどの駄菓子屋フジバンビ』には、やわらかい色合いのニュートラルコンクリートとココアプリマを採用。『フジバンビ スイーツファクトリー』はスタイリッシュなモノトーンの組み合わせ。　**3**　ショーケースや陳列棚はすべて商品サイズに合うよう高さや奥行きを設定。「凹凸や段差をつけて動きを出し、ただ並べるだけでなく、それぞれの商品がより引き立つようにバランスよく設計しました。季節のおすすめ商品などをピックアップして置くためのスペースも設けています。売り場を整えることで、商品に付加価値を与えることができればうれしいですね」と奈良氏。

く演出しながら、対照的な2ブランドの商品をそれぞれ引き立てることができるデザインを心がけました」。

そこで、ショーケースの化粧材に選ばれたのが、求める雰囲気を自在に表現できるコーリアン®だった。「つなぎ目が見えない加工ができるコーリアン®を使用することで、洗練された仕上がりになると考えました。カラーは、どちらのブランドの商品にも馴染みのよいグレージュ系を探しました」。選ばれたのは、いずれも単色ではなく、流れの模様や石目などさりげない模様が入ったカラーだ。「単色ではなく、模様が入ることで、表情がつき、柔らかさや上品さをだせると考えました」と奈良氏。この提案は、吉田氏が思い描いていたイメージにもぴったりだったという。

「コーリアン®のサンプルを見せていただき、その透明感、奥行き、流れ模様の美しさに、すぐに〝これでいきましょう〟と決めることができました。スタイリッシュな印象で、売り場の中でぱっと目につきますが、温かみもあって、企業イメージや製品とのマッチングもよいと思いました。お客様にも大変ご好評頂いています」と話してくださった。

使用色（左から）
アース、ニュートラルコンクリート、ココアプリマ　他

●所在地　熊本市中央区手取本町6-1 鶴屋百貨店本館地下1階
●デザイン監修　株式会社フジバンビ　吉田恵理、後藤明
●デザイン・制作　株式会社 京屋　奈良浩二

子どもが行きたくなる わくわくするトイレ空間

師勝幼稚園

「コーリアン®で実現できれば理想的だけど、果たしてできるのか、という手探り状態からのスタートでした」とおっしゃるのはアトリエユニゾンの鈴木靖氏。北名古屋市にある師勝幼稚園のリノベーション計画で手がけたトイレに、カラフルなコーリアン®がくるりと渦を巻くユニークでかわいらしいトイレブースをデザインされた。

「年少クラス用のトイレなのですが、子どもたちが扉で遊んだり、手を挟まないようにしたいとのご要望があり、扉がなくても視線を遮ることができる渦巻き形状のブースを考案しました」。

年少クラスでは、トイレトレーニングを行っているが、扉のないブースは子どもにとって入りやすく、先生の介助もスムーズにできる画期的なアイデア。ブースの高さは子どもの背丈に合わせてあるので大人が見守りやすく安全性にも優れている。また、角のないデザインは、汚れやバイ菌の溜まる部分をつくらず衛生的だ。

「コーリアン®はカウンターのワークトップなど、まっすぐな板として使用することが多かったので、ここまでの加工ができるとは思っていませんでした。ところが、あらためていろいろな施工事例を見てみると、私たちが思っているより強度があって、自由度の高い素材であることがわかりました」と、アトリエユニゾンの田中まみ氏。

そこで、オーダー家具を手がけるヤマシタ・プランニング・オフィスに製作を依頼。工場で二分割したパーツを製作し、現場でシーム接着を行うという方法で、コーリアン®の特性である曲げ加工とシームレスな接着を駆使して完成させた。「本当に継ぎ目が目立たなくて、美しいカーブに驚きました」。

師勝幼稚園は1964年の開園。改修前のトイレも築45年を経過していて、閉鎖的な設計で寒々しい印象だった。子どもたちにとっては「暗くて怖い場所」となっていたという。「トイレトレーニ

ング中は特に、トイレに行くことを嫌がるお子さんもいますので、できるだけ抵抗感なく入ることができるように、明るく、カラフルに、かわいらしいデザインで〝わくわくする空間〟になるよう心がけました」と鈴木氏。

リノベーション工事であるため、既存の建物とのマッチングにも配慮され、今回改修したトイレとは別に工事を行った部分にも、黄色、オレンジ、緑の3色を、ポイントを絞って使う「差し色」として採用してきた。トイレもそれに対応させて、大便器のブースにはコーリアン®シトラスオレンジとインペリアルイエロー、小便器のパーティションにはブルーミンググリーンを使用している。「床や壁など空間は白で統一し、そこにビビットなカラーを置くことで視認性が高くなり、トイレに行くという行動を促しやすくなっていると思います」と鈴木氏。子どもたちは「今日はオレンジに入る！」など、カラフルなトイレを楽しんでいるとのこと。また、コーリアン®は汚れがつきにくく、お手入れがしやすいと先生方にも好評だ。

機能性だけでなく、子どもたちの心の成長と、感性を育んでいるこのトイレ空間は、2018年度のキッズデザイン賞を受賞している。

使用色（左から）
シトラスオレンジ、インペリアルイエロー、ブルーミンググリーン

●施主　学校法人余合学園
●設計　株式会社アトリエユニゾン 一級建築士事務所　鈴木靖、田中まみ
●製作　有限会社 ヤマシタ・プランニング・オフィス
●コーリアン® 加工協力会社　株式会社インテック